



福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000

福島県立博物館

令和3年度

年報 第36号

福島県立博物館

ごあいさつ



昨年の夏、会津磐梯山盆踊り保存会主催による「市民会津磐梯山盆踊り」が、県博前庭で3年ぶりに開催されました。10年間ここで開催されてきた恒例行事であり、再開されることをとても嬉しく思い、私も甚平姿で参加してぎこちない踊りを披露しました。浴衣姿のベテランの方々、小さなお子さんを連れだご夫婦、みなさんの笑顔が印象的でした。未だコロナ禍にあるとは言え、基本的な感染症対策をとりながら、人々が集うイベントが普通に開催できるようになってきており、日常を取り戻しつつあると実感しています。

この年報は、令和3年度の取組みを記録したものです。

この年は、文化観光の取組み「三の丸からプロジェクト」が本格始動した年であり、昨年の年報とは異なり、章立てを独立させてページを割いています。観光客へのアプローチを強化しようと始まったこの取組みは、博物館がゲートウェイとしての機能や展示等の充実を図り、ここを始点に来訪者を若松城、まちなか、奥会津の周遊へといざなうことをねらいとしています。

また、ポリフォニックミュージアム事業の「博物館部」と称する取組み、福島芸術計画における「あかべこ大行進」は、会津支援学校などと連携し、心身に不自由を持つ子どもたちなどを対象とした事業であり、併せて博物館としてはソーシャルインクルージョンの意識とスキルの獲得を目指した取組みです。博物館があらゆるの方々にとって居心地の良い場所であるための大切な取組みであり、ここ数年力を入れてきています。

時代と共に博物館に求められるものは少しずつ変化しています。収集・保存・調査研究・展示という本来的な役割にしっかり向き合うことはもちろんですが、地域振興、観光、ソーシャルインクルージョンなど、求められる新たな視点にも柔軟に沿うことのできる博物館でありたいと考えています。さらにポストコロナを見据えた運営の工夫も大切です。

今後も、ご来館いただいた大勢のお客様にご満足いただけるような取組みを続けてまいります。

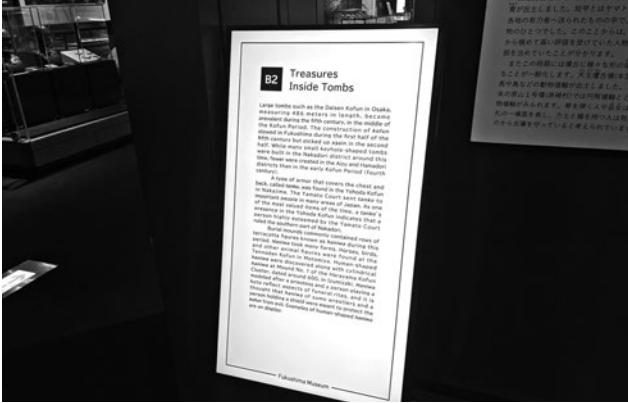
令和5年3月

館長 鈴木 晶

トピックス

三の丸からプロジェクト 本格始動

令和2年度から5ヶ年にわたって実施している「三の丸からプロジェクト」が本格的に始動し、文化観光拠点施設機能強化のため館内設備の更新、連携イベントを実施した。



館内表示多言語化のためのデジタルサイネージを常設展示総合展示室内に導入



会津のものづくりと食文化に触れる「雪国ものづくりマルシェ」の開催



武家文化を体験できる体験型プログラムの実施



奥会津のものづくりに触れることができるベビーケアルームの整備

目 次

ごあいさつ

トピックス

目次

福島県立博物館の使命と活動方針	1
福島県立博物館第3期中期目標	3
1. 重点目標	
2. 数値目標	
3. 令和3年度末までの進捗状況について	
新型コロナウイルス感染拡大への対応	9
I 事業の概要	13
1. 資料収集事業	13
(1) 収集展示委員会	13
(2) 受贈・受託	13
(3) 購入	14
(4) 制作	15
2. 保存管理事業	16
(1) 資料の収蔵	16
(2) 登録・整理	17
(3) 貸出	19
(4) 保存管理	20
3. 展示事業	21
(1) 常設展示	21
(2) 企画展示	23
(3) 特集展	29
(4) 指定文化財の公開	31
(5) 展示解説	31
(6) 体験学習室	32
(7) リニューアルの検討	33
4. 調査研究事業	34
(1) 展示資料調査研究	34
(2) その他の調査研究事業	36
(3) 職員の研究活動	36
5. 教育普及事業	41
(1) 講座・講演会	41
(2) けんぱくミュージアムイベント	47
(3) 学校・文化施設との連携	48
(4) 生涯学習・家庭教育・研究支援	54
(5) 動画の作成と配信	56
(6) 博物館友の会活動への支援	56
6. 広報公聴活動および出版事業	59
(1) 広報活動	59
(2) 公聴活動	65
(3) 出版事業	65
7. 文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」	66
(1) 事業の概要	66

(2) 事業内容	66
8. 地域連携とネットワークの拠点	71
(1) 福島県博物館連絡協議会	71
(2) 磐梯山ジオパーク推進事業	72
(3) ふくしまサイエンスぶらっとフォーム	73
(4) 福島藝術計画	73
(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	75
(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	75
9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	76
10. 新たな博物館の役割・機能の創出	77
(1) 文化財・自然資料レスキュー	77
(2) ポリフォニックミュージアム	77
II 管理運営	79
1. 組織・職員	79
2. 予算	80
3. 運営協議会の開催	81
(1) 福島県立博物館運営協議会	81
III 利用状況	82
1. 入館者統計	82
(1) 令和3年度入館者統計	82
(2) 入館者の推移	83
(3) 企画展入館者統計	85
2. 出版物販売	88
IV 法規	90
福島県立博物館条例	90
福島県立博物館運営協議会条例	91
福島県立博物館条例施行規則	91
福島県立博物館組織規則	95
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	96
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	96
福島県立博物館資料所在調査要領	97
福島県立博物館資料調査員設置要綱	97
福島県立博物館友の会規約	97
V 施設の概要	99
1. 建築概要	99
2. 設備	99
3. 平面図・各室一覧	100
4. 施設の修理・改築	102
5. 沿革	103
VI 利用案内	105

福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月・平成26年6月・平成28年3月・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出合いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈 使命 I 「ふくしま発見 博物館」 関連 〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈 使命 II 「出合いふれあい 博物館」 関連 〉

4. 楽しめて出合いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すバシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館第3期中期目標（令和元年～令和5年度）

1. 重点目標

令和3年度の計画と実績・自己評価

使命	活動方針	重点目標	上：令和3年度の計画
			下：実績・自己評価
I ふくしま発見 博物館	1 地域の文化遺産の収集と継承	① 検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	テーマ型データベースのコンテンツを整備する。
			各分野で設定したテーマに関する資料情報・写真登録及び資料解説原稿を準備し、次年度の試行に向けてコンテンツを整備した。設定テーマは、「会津藩校日新館の教育」・「会津大塚山古墳」・「福島県民の関わった南極観測」・「会津の絵画」・「幻の土人形～根子町人形」・「東日本大震災の避難所資料」の6件である。 計画通り実施
		② 図書利用環境の整備	図書室2層の利用を開始する。1層図書の再配置を完了する。一般来館者の図書利用要項を策定するために、図書室の現状と問題点を詳細に把握する。 図書室2層の利用を開始し、1層図書の再配置を完了した。図書室の現状と問題点の把握については、図書室設置位置が管理棟最奥部であることによる一般来館者の入室管理性や司書の業務量や人員体制の面から一般への図書閲覧サービスを行う上での課題について共有した。 計画通り実施
	③ 資料の安全な保存	環境モニタリングや環境調査結果から現状の環境リスクを検討・共有する機会を定期的に設け、課題解決の方策を検討し、実践する。	
		温湿度常時モニタリングや定期環境調査結果を各分野の担当学芸員と共有し、収蔵庫や展示室等の環境レベルについての現状と課題を検討した。対策の一環として計画的な館内清掃と実施効果を図る追加のモニタリング調査を実施した。館内環境の改善が見られ、館内環境保全のPDCAサイクル策定への一歩となった。 計画通り実施	
	2 最新の研究による新たな資料価値の発見	④ 多様な連携による新たな研究活動	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。
国立歴史民俗博物館（民俗分野）、群馬県立自然史博物館、北海道大学総合博物館、カールトン大学（自然分野）、熊本大学（災害分野）、明治大学（考古分野）など幅広く各分野で共同研究が行われた。また学鳳高校、会津大学など地元機関との共同研究も立ち上げられた。 計画通り実施			
3 来るたびに発見がある展示・講座	⑤ 何度でも足を運びたいくなる展示づくり	国内在住の外国語ユーザーやインバウンドの展示理解を促進するため多言語化を充実させる。	
		常設展示室（大テーマ・中テーマ）や無料空間について、英語・中国語（簡体字・繁体字）の3か国語によるデジタルサイネージ等での多言語表記を整備し、展示の充実を図った。 計画通り実施	
⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	常設展・ポイント展などと連動した講座の開催を各分野に促し、展示を補完するような講座を企画する。		
	常設展の魅力伝えるため企画した「ポイント展ミニ解説会」は、コロナ禍の影響で中止となる回もあったが年度内に18回開催。多岐にわたる常設展の魅力を多分野の学芸員の解説で気軽に楽しんでいただく場となった。各界で活躍する文化人の知見に直接触れる機会となる「特別講座」は2年目となり、企画展等と関連するテーマ・講師で企画。好評を得て認知度が上がり、連続参加者がみられるようになった。3回目はコロナ禍の影響でオンライン無観客開催となったが国内外から参加があり、マスコミへの露出が重なったこととあわせて、当館を広く海外までPRする事業となった。 計画通り実施		

使命	活動方針	重点目標	上：令和3年度の計画
			下：実績・自己評価
I ふくしま発見 博物館	3 来るたびに 発見がある 展示・講座	⑦ 新しい展示ストーリー の検討	会津地域の文化観光拠点施設としての機能を強化するため、「三の丸からプロジェクト」に則した展示室の整備について検討する。
			常設展示室の「展示ロビー」を3周遊へのゲートウェイ機能を果たす展示強化空間として再整備する方針を決定した。周囲にサテライト的に展開する[歴史・美術]展示室・[民俗]展示室・鶴ヶ城跡が望める「西レストコーナー」・「ビデオブース」の役割を明確にし、有機的に関連させることで一体的かつ文化観光のランドマークとなる空間「(仮称)三の丸アベニュー」の構築を目指す方針とした。 計画通り実施
II 出会いふれあい 博物館	4 楽しめて出 会いのある 場の創出	⑧ 展示室以外の空間の有 効活用	中・長期的な視点で無料空間のあり方、活用方法を検討する。検討内容も踏まえて、体験学習室の新たな利活用を試行する。
			多様な利用者が各自の興味に基づき主体的に活動する場としての体験学習室、食を通して会津の文化を体験できる場としてのレストランの整備案を検討・立案し、三の丸からプロジェクトの令和4年度事業案に反映した。令和4年度の事業案を踏まえて、体験学習室で自由に読み聞かせができる絵本（視覚障がい者向け図書を含む）配備の準備を進めた。また、三の丸からプロジェクトの一環で乳幼児を連れた来館者が楽しみながら利用できるベビーケアルームや視覚に障がいのある方も資料について学べる視覚支援観覧システムを導入した「さわれる展示ボックス」を体験学習室に設置。会津のものづくりが学べる空間としてレストランの整備も進めた。 計画通り実施
	⑨ 多様な利用者層に対応 したプログラムの実施	障がい者および乳幼児や保護者に合わせたプログラムの試行結果を受け、定着のための改善、制度化を進める。また、小学生に合わせた学習機会の促進を図る。	
		県内の支援学校と連携し、障がいをもつ児童生徒に向けたプログラムの多様化を進め、定着に繋げた。遠隔操作ロボット等のICTの活用は博物館利用のハードルを下げ、障がい者や高齢者など来館が困難な層の博物館利用が可能となった。幼児に対しては企画展等の対話型鑑賞や季節感を取り入れたワークショップを実施。幼児を対象としたプログラムの精度が上がり、通年展開の実績を得た。会津若松市内の小学校との連携により、あるテーマによる一定期間内の連続した学習プログラムを新たな取組として実施。また、ライブミュージアムネットワーク実行委員会主催事業で福島県内の適応指導教室との連携により不登校児童への連続した学習プログラムも実施。上記により博物館活用による小学生への学習機会提供の可能性を広げた。 計画通り実施	
5 利用者との 協働	⑩ ボランティアとの協働	ボランティアとの協働を検討し、具体的な活動内容を考案、一部を試行し、結果を検証する。	
		ボランティアのあり方について協議し、現行の資料整理ボランティアの性格を尊重し、その活動を支援する方向性を検討した。新たな展開として、従来博物館友の会の古文書愛好会メンバーのみであった歴史分野担当の資料整理ボランティアを令和4年度から一般からの参加を加える方向として資料整理ボランティア参加の枠組みを広げた。 計画通り実施	
		⑪ 利用者の自主的な文化 活動支援	利用者の自主的な文化活動の支援のあり方について検討する。あわせて既存の活動（サークル等）の自主的な学習や運営を支援する。 利用者の自主的な活動のあり方について班内で検討した。サークルによってはコロナ禍の影響により活動の中止が続き、退会者が出るなどの影響が出たが、新たに活動をはじめた「仏像を研究し旅する会」や「考古学倶楽部」を含め、福島県立博物館友の会に所属する既存のサークル活動の自主的な学習、運営を支援した。 計画通り実施

使命	活動方針	重点目標	上：令和3年度の計画
			下：実績・自己評価
Ⅱ 出会いふれあい 博物館	5 利用者との 協働	⑫ 協働による新たな事業 運営の枠組みの構築	協働による新たな事業運営の枠組み案をさらに検討し、一部を試行する。
			協働による新たな事業運営の枠組みについて班内で検討した。当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会主催事業でリサーチを行い、事業趣旨の賛同者に児童・生徒向けワークショップへの参加を呼びかけた。 計画通り実施
	6 博物館情報の 公開と発信	⑬ 情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、マスコミ等への情報提供ルートの検討を行い、マスコミへの情報提供の充実を図る。
広報戦略会議を行い、企画展の内容に応じた広報内容の検討を行った。従来のマスコミ向けの企画展説明会に加え、研究成果の公表のための記者会見を初めて実施した（オンライン1回含む計2回）。また、年度当初にマスコミ各社を訪問して新年度事業案の説明を行い、マスコミとの関係性の強化と情報提供ルートの充実を図った。 計画通り実施			
7 地域連携と ネットワークの 拠点	⑭ 親しみやすさと認知度 の向上	「三の丸からプロジェクト」を含め広報デザインの統一感の創出を図る。博物館の「人」「モノ」「コト」「場」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。	
		年間パスポートやコロナによる各種事業変更の表示等を共通のデザインで作成・発信した。統一感あるデザインの導入についてのメリット・デメリットの検討を行った。 広報紙「なじよな」やラジオ番組「けんぱく徒然語り」等を活用し、展示や講座の魅力だけでなく学芸員個人や収蔵庫に眠る資料などもクローズアップし、親しみやすく興味をひく情報発信を心がけた。また博物館の多様な楽しみ方をまとめ令和3年度に発行した「なじよな2021特別号」を配布・活用し、館周辺を含めた「場」としての博物館の魅力を伝えた。「なじよな2022特別号」も「三の丸からプロジェクト」特集号として博物館と同プロジェクトを統一感をもって広報するツールとした。 計画通り実施	
Ⅲ 明日に 向かう 博物館	8 震災遺産の 保全・活用 による東日 本大震災の 共有と継承	⑮ 県内の各機関・団体と の連携による新たな文 化活動の創造	「三の丸からプロジェクト」の共同申請者をはじめとする該当施設・団体等との連携により、文化観光拠点としての役割を果たすべく同プロジェクトを実施する。
			三の丸からプロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」「若松城下まちなか連携事業」の開催や「雪国ものづくりレストラン」「周遊促進発信事業」を、共同申請者との情報・資料提供、広報協力をはじめとする連携により実施。また「体験型プログラム」は、各団体等との連携により新たな文化資源の活用の可能性を提示できた。「若松城下まちなか連携事業」は、当館の企画展と連動する周遊促進事業として会津若松市内の歴史的建造物（登録有形文化財：建造物）の新たな利活用を実践し、各会場や運営団体と新たな文化活動の創造の可能性を共有する機会ともなった。 三の丸からプロジェクト以外にも、夏の企画展で会津若松市が事務局を務めるナイトタイムエコノミー推進協議会と連携して事業を行うなど、各観光団体との連携により、文化観光拠点としての整備と活動の実績をあげることができた。 計画通り実施
Ⅲ 明日に 向かう 博物館	8 震災遺産の 保全・活用 による東日 本大震災の 共有と継承	⑯ 震災遺産の展示公開と 利活用	災害分野の教育普及を充実させる。さらに防災教育の視点を含んだポイント展、特集展を実施し、それらの成果を活かした新たな震災遺産の常設展示プランを検討する。
			ゲストティーチャー13回1,733人、講師派遣9回154人と学校や公民館での教育普及を充実させた。ポイント展・特集展も教育普及的な内容を加味して実施した。また、会津若松市危機管理課や会津自然の家など、他機関と連携した教育普及活動も実施することができた。また常設展示プラン案を作成し、議論を始めた。 計画通り実施

使命	活動方針	重点目標	上：令和3年度の計画
			下：実績・自己評価
Ⅲ 明日に向かう 博物館	9 新たな博物館の役割・機能の創出	⑰ 地域社会の現状への貢献	<p>博物館的手法で、地域の文化施設との連携、将来世代を含む多世代との協働を通して、様々なタイプの人々に対応し、地域の社会的課題に向き合うプログラムを考案、試行する。</p> <p>福島県内の4拠点で、地域の方、地域の文化施設、アーティストや研究者と共に、その地域・拠点が抱える社会的課題に対して向き合うアートワークショップを実施した。高校生を含む多世代の参加、長期的視点でのリサーチ、自然との共生、多様な人々の居場所づくりなどを通して、持続可能な地域づくり、多様な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）の創出を目指すプログラムとなった。 計画通り実施</p>
	10 管理運営	⑱ 施設の安全で快適な環境整備	<p>前年度発生した福島県沖地震をうけ、災害発生時のリスクアセスメントを改めて行い、結果に基づいた行動マニュアル・チェック項目を検討する。</p> <p>福島県沖地震をふまえ、改めて館内（特にバックヤード）の地震発生時のリスクについて確認し、避難経路の安全を確保するための不用物品や存置品の処分や整理を積極的に行うとともに、非常時の対応について「福島県地域防災計画」を基に館内で検討した。 計画通り実施</p>

2. 数値目標

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

(令和4年3月末現在)

区分	指標	年間目標	令和3実績	備考
館内事業利用者数（展示・行事）		90,000	84,241	(内訳) 展示：80,507人、行事：3,734人（オンライン参加含む）

区分	指標	年間目標	令和3実績	備考
資料情報の公開	件数	5,000	2,819	(内訳) 考古：136件、民俗：137件、歴史：1,304件、美術：32件、自然：1,210件
研究成果の公表	件数	30	34	(内訳) 印刷物：23件、学会発表等：11件
行事の実施	回数	100	112	(参考) 中止：26
ホームページ	アクセス件数	430,000	368,789	ページビュー数
館外事業利用者数（学校・公民館事業等）		1,800	2,605	(内訳) ゲストティーチャー事業：1,983、講師派遣事業：596、共催・後援事業：26
館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）		500	231	(内訳) LMN：231、磐梯山ジオパーク：0、ふくしまサイエンスプラットフォーム：0

(参考) 第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区 分	指 標	令和2実績	令和3実績	備 考
年間パスポート	販売数	1,737	968	
	利用者数	2,442	4,007	(内訳) 常設展：1,675、企画展：2,332
Facebook	投稿件数	262	308	投稿数+シェア数
	フォロワー数	1,248	1,338	
	エンゲージメント数	28,940	22,156	以下の4項目を合計した数値 ・投稿クリック数(リンクのクリックや画像の表示などページを閲覧した数) ・リアクション数(いいね!等) ・コメント数 ・シェア数
Twitter	投稿件数	280	410	ツイート数+リツイート数
	フォロワー数	1,507	2,115	
	ツイートインプレッション数	1,131,054	1,175,482	ツイートが閲覧された数
YouTube ※2020年度新規	動画数	50	35	
	チャンネル登録者数	182	291	
	視聴回数	10,006	10,526	
館内事業利用者数 (特別プログラム利用者)		3,009	3,556	(内訳) 学校・公民館：3,038、その他展示個別解説等：256、職場体験：8、博物館実習：10、利用指導者研修会：10、大学の課外授業及びゼミ対応：234
館外事業利用者数(館外で行った当館主催事業利用者) ※2020年度新規		19	69	三の丸からプロジェクトまちなか連携事業

数値目標中間見直し

5ヶ年計画の中間である令和3年度に、おもに数値目標について中間見直しを行った。

○「福島県総合計画」など上位計画において入館者数(利用者数)の目標があらためて示されたことに対応して、以下のように利用者数の集計内容を変更した。

(従前) ①館内の展示・行事の利用者数 → (変更後) ①館内の展示・行事の利用者数 ②館内の特別プログラム利用者数 ③館外で行った学校・公民館等事業利用者数 ④館外で行った当館主催事業利用者数

○これまで年間の「館内事業利用者数9万人」を固定した目標値にしてきたが、今後は上位計画に提示された各年の目標値に合せ、文化庁認定の「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」にも整合させる(下表の通り)。

※文化観光事業の目標値は、下表の他にレストラン利用者を含んだもの。

(令和4年3月末現在)

区 分		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	備 考
①館内事業利用者数 (展示・行事)	目標	90,000	90,000	90,000	100,000	110,000	
	実績	120,376	60,416	84,241			
②館内事業利用者数 (特別プログラム)	目標	—	—	—	3,500	4,000	
	実績	4,930	3,009	3,556			
③館外事業利用者数 (学校・公民館事業等)	目標(③④合計)	1,800	1,800	1,800	2,000	2,000	
	③実績	1,823	2,188	2,605			
④館外事業利用者数 (館外で行った当館主催事業)	④実績	—	19	69			
	実績(③④合計)	—	2,207	2,674			
実績合計(①②③④合計)		127,129	65,632	90,471			

3. 令和3年度までの進捗状況について

第3期中期目標の3年目を終えた。

前年度から引き続き、コロナ禍の影響を様々な形で受ける中で各種の事業等を実施せざるを得ない状況であり、また令和2年度後半から始まった福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」と既存の目標とを一部接合させながら、同時並行で取り組んでゆくような一年となった。

「1. 重点目標」について、18項目すべて年度当初に設定した計画通りに進めることができた。

「2. 数値目標」については、コロナ禍の影響が続く状況の中で、前年度の原因・問題点をふまえた改善等により、達成もしくはほぼ達成に近づいた項目も増えたが、それでも目標に到達できない項目があった(原因の分析・問題点は《補足》参照)。

《補足》令和3年度の自己評価の詳細

計画通りできなかった項目		原因の分析・問題点など
1 重点目標	(なし)	
2 数値目標	館内事業利用者数 (展示・行事)	<p>目標には到達しなかったが、目標値(9万人)の94%まで迫ることができた。前年度(60,416人)比でも140%となり、コロナ禍が続く中でも数字を伸ばすことができた。</p> <p>とくに展示の利用者が増えたことが要因で、常設展は前年度比124%、企画展は194%となった(春の企画展200%、夏の企画展257%、秋の企画展122%)。行事についても前年度比では175%だが、コロナ禍以前と比べると大幅に減っている点是不変。別の指標である「行事の実施(回数)」は戻しつつあるものの、おもに講堂などを会場とする館内での行事は感染拡大防止対策として参加人数を制限しているため利用者数はなかなか伸びなかった。コロナ禍が続く中では、オンライン参加を可能にしたり、マルシェのような屋外で実施する行事を加えながら利用者の幅を広げることも必要である。</p> <p>なお、第3期中期目標の中間見直しによって、利用者数の集計方法が、今年度から一部変更になった。</p>
	資料情報の公開 (件数)	<p>資料情報の公開は、3年連続で目標数を達成できていない。件数は前年度の3,245件を下回った(前年比13%減)。</p> <p>資料情報の公開は、資料受入れ後の①仕分け・学術分類、②写真撮影、③データベースへの登録、を経た④段階目の資料整理作業に当たる。このうち①・②の作業は、③への準備段階であり、本目標④の成果は③の母数に左右される。量的に豊富な大型コレクションは上記の整理作業のルーティーンに乗せやすく、登録・公開件数に寄与する傾向が強い。ところが近年の傾向として大型コレクションの整理案件の減少と公開に制約のある寄託資料の増加、及び新たに博物館資料に位置付けた「震災遺産類」のデータベース登録フォーマットの未整備があり、これらが公開件数に結び付かないことが要因と考えられる。</p> <p>なお本年度の③登録件数は1,700件弱で、④公開件数がこれを上回っているのは数年次の整理作業を経て公開に至るプロセスと、少しでも公開件数を達成しようとする意図を示している。</p>
	ホームページ(アクセス件数)	<p>アクセス件数は、コロナ禍の影響が大きかった前年度(304,261件)より回復し、4月～12月の全ての月で前年度を上回った。一方で感染者数が爆発的に増えた2022年1月～3月は前年度を下回り、大きな影響を受けた。また、SNS(博物館公式・非公式含む)や博物館以外の観光系情報サイトなどの充実による情報入手先の多様化は引き続き背景にあり、基本情報入手先としてのホームページと話題性を生み出すSNSといった役割分担の結果が数値に現れているとも考えられる。</p>
	館外事業利用者数 (実行委員会・協議会事業等)	<p>利用者数の合計が少なかった原因は「館内事業利用者数」の行事関係の場合とほぼ同じで、コロナ禍の影響で行事が中止になったり、参加者人数を制限しながら実施せざるを得なかったためと考えられる。</p>

新型コロナウイルス感染拡大への対応

令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大状況は、令和2年度・3年度を通じて続いた。前年度と同様に、当館における対応の記録等を、本年報の巻頭にまとめて記す。

1. 感染拡大状況について

令和3年度は、感染状況の拡大と一時的な収束とが繰り返された一年間であった。

最も深刻な緊急事態宣言の対象に福島県がなることはなかった。前年度は、全国一斉に緊急事態宣言が発出されて、当館も4月21日から5月15日まで臨時休館になったが、そのような事態には至らなかった。

しかし、地域における感染者の急増等によって、まん延防止等重点措置が適用されることが二度あった（①8月8日～9月30日 ②令和4年1月27日～3月6日）。

いずれも期間内で対象地域（市町村）に変動はあったものの、数ヶ月間続いた。

また、まん延防止等重点措置までには至らなかったが、市町村を単位とする感染拡大防止の集中対策に当館が所在する会津若松市が該当する期間があった（③5月3日～6月7日）。

大きく3度の感染拡大の波に襲われた結果、福島県・会津若松市の感染者数は前年度よりも大幅に増加した。医療体制の整備やワクチン接種、ウイルスの変異等が並行して進み、無制限に感染が拡大したわけではないし、重症化が顕著になったわけでもないが、前年度よりも感染の脅威をより身近なものに感じる一年であったことは間違いのない。実際に、当館職員の中でも感染者（陽性者）の発生が2件あった。

2. 感染防止対策の実施状況

当館では、前年度からの感染拡大防止に関する基本的な対策を継続しながら、上記のような顕著な感染拡大期間には、より重点的な対策を取ることになった。

とくにイベントの開催については実施が可能かどうか慎重に検討し、リスクを伴う場合には、実施方法の一部変更や中止・延期などの対応を取った。

具体的な感染拡大防止措置・対策については、本年報の以下の項目で触れている。

(1) おもな来館スペース

- 常設展示室 → I 3 (1) イ
- 企画展示室 → I 3 (2) (3)

- 体験学習室 → I 3 (6)
- 相談コーナー → I 5 (4) ア

(2) 来館者対応

- 展示解説 → I 3 (5) イ・ウ
- 学校対応等 → I 5 (3)

(3) イベント

- 講座・講演会 → I 5 (1)
- けんぱくミュージアムイベント → I 5 (2)

(4) その他

- 博物館友の会活動 → I 5 (6)

3. 影響と今後の取り組み

(1) 影響

来館者に対しては、展示室への入場の人数制限を行ったため、入場待ち時間が発生することがあった。学校団体についても、見学時間等の調整を行った結果、希望の日程や時間を変更してもらわざるを得ない場合が生じた。また、予定していたイベント等の中止や変更、人数の制限などによって自由な参加だった頃に比べて様々な制約が生じた。その他にも、平常時ならば提供できるサービス等も一部停止せざるを得なくなった。

年間を通じた利用者（展示観覧者・イベント参加者）の人数の分析は「第3期中期目標」の項目に詳しく記したが、過去最低の数字となった前年度よりは回復した。しかし、とくにイベント関係の利用者の減少は、コロナ禍以前と比べると依然顕著である。

(2) 今後の取り組み

感染拡大の波は、令和4年度まで続くことは確実となった。一方で、繰り返す波の合間に当たる期間については、一時的にせよ対策の緩和を行ったり、本来の来館者へのサービスを再開するような対応も今後は必要になってくるだろう。新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況の変化を注視しながら、その時々合った対応を模索していくことは、今後もしばらく続くであろう。

新型コロナウイルス関連の資料収集についても継続している（I 9参照）。

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
4	1	木	県新型コロナウイルス重点対策期間延長（～5月9日）	・展示室での解説試行開始
	3	土		・正面入り口にサーモカメラ設置・運用開始 ・正面入口自動ドアを一方通行に
	5	月	宮城県・大阪府・兵庫県を対象にまん延防止等重点措置（～5月5日）	
	8	木	「県感染防止対策」改定（まん延防止区域の位置づけ等）	・定例会議（報告）
	12	月	東京都・京都府・沖縄県を対象にまん延防止等重点措置（～5月12日）	
	16	金	「県感染防止対策」改定	
	20	火	埼玉県・千葉県・神奈川県・愛知県を対象にまん延防止等重点措置（～5月11日）	
	22	木	「県感染防止対策」改定	
	24	土		・企画展「会津の絵画」開始 展示室内人数制限の目安35人 ・日博協シンポジウムにオンライン参加（講堂）
	25	日	東京・大阪・兵庫・京都を対象に緊急事態宣言（～5月11日）	
30	金	「県感染防止対策」改定		
5	1	土		・企画展展示解説会の試行
	3	月	会津若松市感染症集中対策（～16日）	・3～4日「こどもミニミニ博物館」「親子で楽しむワークショップ」中止
	7	金	「県感染防止対策」改定（県内感染状況「ステージⅢ」に）	
	8	土	県非常事態宣言・緊急特別対策期間（～31日）	・「博物館でもよみきかせ」中止、「はじめてさんの古文書講座①」延期
	12	水	緊急事態宣言延長（～31日 愛知・福岡追加）	
	13	木		・定例会議（報告）
	14	金	「県感染防止対策」改定	
	16	日	会津若松市感染症集中対策延長（～31日）	・ポイント展「復活！会津ダルマ」ミニ解説会延期
	22	土		・「はじめてさんの古文書講座②」延期
	23	日		・ポイント展「蘆名盛氏・蒲生氏郷」ミニ解説会延期
28	金	「県感染防止対策」改定	・美術放談①中止→動画制作配信	
29	土		・企画展関連解説会・講座中止→動画制作配信	
31	月	県非常事態宣言解除 会津若松市感染症集中対策は再延長（～6月7日）		
6	1	火	緊急事態宣言再延長（～20日） 県重点対策（～31日）	
	4	金	「県感染防止対策」改定	
	7	月	会津若松市感染症集中対策終了	・イベント等再開
	10	木		・定例会議（報告） バックヤード見学のイベント イベント参加者の検温の方法一部修正 行事中止の基準
	15	火	県内感染状況「ステージⅡ」に	
	20	日	緊急事態宣言解除（沖縄県を除く） まん延防止対策等継続（～7月11日）	
	27	日		・企画展「会津の絵画」終了
28	月	「県感染防止対策」改定		
30	水	県重点対策終了		
7	7	水	「県感染防止対策」改定（南相馬市集中対策9～31日）	
	8	木		・定例会議（報告）

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
7	12	月	緊急事態宣言（東京・沖縄） まん延防止対策等継続	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」開始 展示室内人数制限の目安35人 ・企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」 展示室内人数制限の目安50人に改定 ・第1回運営協議会 新型コロナウイルス対策について報告
	17	土		
	23	金	東京オリンピック開幕	
	24	土	「県感染防止対策」改定（郡山市集中対策26～8月15日）	
	25	日		
	28	水	「県感染防止対策」改定（福島市・いわき市集中対策31～8月22日）	
8	2	月	緊急事態宣言（千葉・神奈川・埼玉・大阪を追加～31日）	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議（報告）
	5	木	「県感染防止対策」改定	
	8	日	福島県にまん延防止等重点措置適用（福島・熊本～9月12日）	
	12	木		
	18	水	「県感染防止対策」改定	
	20	金	緊急事態宣言（茨城・栃木・群馬・静岡・京都・兵庫・福岡を追加～9月12日）「県感染防止対策」改定	
	23	月	「県感染防止対策」改定	
	27	金	緊急事態宣言（北海道・宮城・岐阜・愛知・三重・滋賀・岡山・広島を追加～9月12日）「県感染防止対策」改定	
9	9	木	「県感染防止対策」改定（県非常事態宣言30日まで延長）	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議（報告） ・企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」終了
	17	金	「県感染防止対策」改定（県内3市以外の県独自対策20日まで）	
	21	火	県内3市以外の県独自対策終了、感染拡大防止基本対策へ 「県感染防止対策」改定（福島市・郡山市のまん延防止等重点措置23日まで）	
	24	金	福島市・郡山市のまん延防止等重点措置解除	
	26	日		
	28	火	「県感染防止対策」改定（いわき市のまん延防止等重点措置30日まで、10月1日から県全域で感染拡大防止基本対策へ）	
	30	木	いわき市のまん延防止等重点措置解除	
10	8	金	福島県内新規陽性者確認0人（9日発表 230日ぶり）	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「ふくしま薬の文化」開始 展示室内人数制限の目安50人 ・定例会議（報告）
	9	土		
	14	木		
	28	木	「県感染防止対策」改定	
11	19	金	「県感染防止対策」改定	
12	19	日		<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「ふくしま薬の文化」終了
	23	木	会津若松市で新規陽性者確認（10月15日以来）	
1	9	日	沖縄・山口・広島3県にまん延防止等重点措置	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議（報告）
	13	木		
	19	水	「県感染防止対策」改定	
	21	金	13都県にまん延防止等重点措置（～2月13日） 福島県独自・南相馬市集中対策（～2月6日）	

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
1	22	土		・特集展「貝殻パラダイス」開始 展示室内人数制限の目安30人
	25	火	「県感染防止対策」改定	・まん延防止等重点措置対応打合せ
	26	水		・まん延防止等重点措置対応打合せ
	27	木	福島県にまん延防止等重点措置適用（福島市、会津若松市、郡山市、いわき市、南相馬市～2月20日）、その他20道府県にも	・まん延防止等重点措置期間中のイベントの変更について公表
	28	金	「県感染防止対策」改定	
	30	日	まん延防止等重点措置の対象が福島県全域に拡大	
2	4	金		・まん延防止等重点措置期間中のイベントの変更について追加公表
	5	土	和歌山県にまん延防止等重点措置（～2月27日）	・特集展ワークショップ中止
	6	日		・定例会議（報告）
	10	木		・特集展「そなえの芽」開始 展示室内人数制限の目安50人（特集展2本合わせて）
	11	金		・特集展実技講座中止
	12	土	高知県にまん延防止等重点措置（～3月6日）	・防災教育ワークショップをオンライン開催
	14	月	13都県まん延防止等重点措置延長（～3月6日）	
	18	金	「県感染防止対策」改定	
	19	土		・防災工作ワークショップ中止
	20	日		・民俗ミニ映画会 定員43名で実施
	21	月	福島県のまん延防止等重点措置の延長（～3月6日）その他の県も延長	・特集展講演会中止 ・まん延防止等重点措置延長後対応の打合せ
22	火		・まん延防止等重点措置延長後のイベントの変更について公表	
23	水		・職員感染者1名（24日公表）、来館者と接触なく職場内の濃厚接触者なし	
26	土		・特集展展示解説会中止	
27	日		・ポイント展ミニ解説会中止 ・特集展「貝殻パラダイス」終了	
3	4	金	「県感染防止対策」改定	
	5	土		・特別講座をオンラインで開催
	6	日	福島県のまん延防止等重点措置解除、感染拡大防止重点対策～3月31日 18都道府県のまん延防止等重点措置延長～3月21日	・ミュージアムイベント中止
	10	木	会津若松市で新規陽性者80人に	・定例会議（報告）
	11	金	「県感染防止対策」改定	
	16	水		・職員感染者1名（17日公表）、来館者と接触なく職場内の濃厚接触者なし
22	火	全国でまん延防止等重点措置解除		
27	日		・特集展「そなえの芽」終了	
	30	水	「県感染防止対策」改定	

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授（専任職）	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	委員
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員
角屋由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員
原田 一敏	ふくやま美術館長	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委員
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	委員

イ. 会議

令和3年度はコロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、オンライン開催とした。

開催日 令和3年8月4日（水）

議題

- ① 今後2年間の展示計画について
- ② 令和4年度・令和5年度開催予定企画展について
- ③ 購入予定資料について
- ④ 「三の丸からプロジェクト」について

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

絵はがき（磐梯山関係）	1件	個人
教育細目ほか	19件	個人
北原雅長和歌短冊ほか	2件	個人
軍事郵便（興亜進軍絵図）	1件	個人

近代測量地図	1件	個人
脇差（濃州関住兼信）ほか	4件	個人
ラジオほか	2件	個人
徳川家綱御内書	1件	個人
日本酪農講習所同窓会名簿ほか	5件	個人
日本酪農講習所卒業アルバムほか	5件	個人

日本酪農講習所関係写真	1件	個人
印鑑「福島県東白川郡常豊村長荒川小左衛門」	1件	個人
福島県関係書簡・葉書	1件	個人
村山誠吉従軍資料	1件	個人

(イ) 受託

磐梯山噴火実況図ほか	2件	個人
会津藩弾薬箱ほか	4件	個人
馬島杏雨書（贈土方某）ほか	2件	個人
近藤勇和歌短冊	1件	個人
会義隊振旗ほか	3件	個人
波田野家資料	1件	個人
金戒光明寺図ほか	3件	個人
旗指物馬印船印鑑	1件	個人
高湯温泉図ほか	87件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

古写真	1件	個人
春峯筆「山水図屏風」	1件	個人
白磁壺ほか	23件	合資会社大和川酒造店
漆道具	1件	個人
染色型紙	1件	福島県立会津工業高等学校
白虎隊自刃の図ほか	2件	福島県立大沼高等学校長
虎溪三笑図（小川芋銭筆）ほか	20件	個人
巡回展「東北 風土・人・暮らし」出品作品一式	122件	独立行政法人国際交流基金
天鏡閣図ほか	2件	櫻井マイ
佐藤峯石筆「三顧之図」ほか	5件	個人
小野寺鶴流筆「家族図」ほか	6件	個人
片桐功敦作品ほか	4件	一般社団法人KYOTOGRAPHIE
駒絵・抹茶茶碗ほか	15件	個人

(イ) 受託

坂内青嵐筆「鶉図」ほか 3件 個人
 枝菊漆絵箔椀 1件 個人
 諸家詩文貼交ほか 12件 個人
 木造聖観音坐像 1件 金山町宮崎区
 相馬駒焼茶碗ほか 3件 個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

蚊しぶほか 2件 個人
 会津地方の生活記録写真・フィルム等 1件 個人
 会津だるま 2件 個人
 天神人形ほか 2件 個人
 鞍(牛用)ほか 2件 個人
 みの(オッカミノ)ほか 2件 個人
 漆道具 9件 個人
 しめ飾り 1件 個人
 つつこ引き行事のつつこほか 2件 保原巖島神社
 けんだいほか 2件 個人
 鹿島流しの船と鹿島人形 1件 個人
 渡部壽子氏のご祈祷用具 1件 個人
 七夕馬 1件 個人
 しめ飾り「福鶴亀」ほか 3件 個人
 菓子鉢 1件 個人
 米寿祝枡ほか 4件 個人
 つとっこほか 2件 個人
 唐箕ほか 2件 個人
 雨ミノほか 4件 個人
 むしろ 1件 個人
 コウシキ 1件 個人
 藁細工ミニチュア(ゲンベイ)ほか 3件 個人
 こけしほか 2件 個人
 調査ノート 1件 個人

(イ) 受託

会津だるま 1件 個人
 カエルグッズ 2件 有限会社ケーアンドケー

エ. 考古資料

(ア) 受贈

採取考古資料 788件 個人

オ. 自然資料

(ア) 受贈

異常巻きアンモナイト 1件 個人
 火山岩(磐梯山岩なだれ堆積物) 1件 個人
 コケムシ化石ほか 2件 個人
 大久保層産オオハネガイの仲間 1件 個人

アンモナイト化石ほか 5件 個人
 南極産岩石ほか 2件 個人
 双葉層群産化石(アンモナイトほか) 1件 個人
 双葉層群産化石(アンモナイト等)ほか 2件 個人
 沖縄県産現生貝類 1件 個人
 地学雑誌ほか 5件 個人

(イ) 受託

宮古層群産アンモナイト 1件 個人

カ. 災害資料

(ア) 受贈

東日本大震災被災地写真DVD 1件 個人
 富岡町災害対策本部ホワイトボード(複製)ほか 4件 筑波大学

(3) 購入

ア. 自然資料

現生動物骨格標本 2件
 化石 3件

イ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野9冊、美術分野15冊、自然分野1冊、計25冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (令和4年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通
9	ミュゼ(第128号(2022.3.25発行))で休刊	共通
10	史林	共通
11	史学雑誌	歴史
12	歴史評論	歴史
13	地方史研究	歴史
14	日本史研究	歴史
15	日本歴史	歴史
16	歴史学研究	歴史
17	美術手貼	美術
18	芸術新潮	美術
19	國華	美術
20	古代文化	考古
21	文化財発掘出土情報	考古
22	考古学ジャーナル	考古

定期刊行物リスト

(令和4年3月31日現在)

23	季刊考古学	考 古
24	日経サイエンス	自 然
25	科学	自 然
26	化学	保存科学
27	海洋	自 然
28	地球	自 然
29	月刊文化財	共 通
30	たくさんのふしぎ	共 通
31	ニュートン	共 通

(4) 制作

ア. 民俗資料

大わらじ 1件

イ. 自然資料

アンモナイトと海生動物の復元イラスト
1件

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (令和4年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考 古	21,023	土器・石器・金属器ほか
民 俗	14,060	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴 史	22,623	書籍・文書資料ほか
美 術	7,428	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自 然	44,540	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	380	被災遺物、文書資料、写真ほか
合 計	110,054	

令和3年度収蔵指定文化財一覧

(令和4年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備 考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
11	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品		法然上人像板木(裏面善導大師像板木) 附 舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
31	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
32	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
33	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
34	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
35	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
36	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双鱼袋金具	2	枚	館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
42	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
44	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
46	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
47	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
49	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
50	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
51	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
52	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	鋪	寄託
53	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数

(令和4年3月31日現在)

考古分野：28,930冊 民俗分野：5,104冊
 歴史分野：11,035冊 美術分野：4,896冊
 自然分野：17,800冊 保存分野：1,917冊
 震災遺産：159冊 その他：62,677冊
 合計：132,518冊

(イ) 図書利用環境の整備

当館図書室では、近年、蔵書数の増加により書架に排架できない図書が多数生じ、排架の体制を抜本的に更新する必要性に迫られていた。そこで第3期中期目標に「図書利用環境の整備」を盛り込み、排架の体制を更新することとした。これにより、令和元年度は図書室の現状を調査し、蔵書の再配置計画を立案した。令和2年度は計画に基づき、図書室第2層の書類等を撤去し、第1層の蔵書の一部を第2層に移動する作業を完了した。

本年度は、第1層の全蔵書を均等にならして再排架し、前年度の作業により生じた空棚の位置を分散させる作業を実施した。第1層の全蔵書を少しずつ移動させねばならず膨大な作業となったが、4月(1回)、

6月(1回)、7月(1回)、9月(1回)、10月(1回)、2月(2回)、3月(2回)の計9回の作業により再排架を完了した。これにより空棚の配置を最適化することが出来た。

また、中期目標の本年度重点目標として掲げられた「一般来館者の図書利用要項を策定するために、図書室の現状と問題点を詳細に把握する」作業についても、これを完了し、結果を書き出してまとめた。

(ウ) 収蔵映像資料数

(令和4年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,374点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製I.B. Museum SaaSを導入した。現在、県教育委員会のネットワークFACEを介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

このシステムでは多数のデータの一括登録

や一括修正が可能となり、これらの業務にかかる時間と労力が大幅に軽減された。また、旧システムと比較して経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。導入から7年が経過して、資料管理システム本来の目的である資料登録や情報の外部公開が順調に進められるようになり、システムの運用が軌道に乗った。

また、有償の改修が必要だった一部の登録項目の再構成については、令和元年度に予算が認められたため改修を実施し、以前より入力の労力が大きく軽減された。併せて、これまでローカルシステムで行ってきた帳票・ラベル類の印刷フォームがシステム上に構築できるようになったため、これらの印刷作業にかかる労力が大幅に軽減された。これに伴い、写真の登録についてもローカルシステムへの登録が不要となった。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

本年度は博物館第3期中期目標の3年目である。第3期中期目標では資料情報の外部公開件数のみが数値目標として設定されたが、本年度は目標値に届かなかった。各分野で進める資料整理の内容が必ずしも直ちに資料公開に反映できるものではないこと、およびデータ整備が比較的簡単な大規模コレクションの公開が進み、残りの資料については公開前のデータ整備に時間と手間がかかることが主な原因である。

また、情報公開機能の拡充の一環として、第3期中期目標ではテーマ型データベースを構築して公開することが盛り込まれた。これにより各分野が、設定したテーマの内容について資料解説の原稿や資料写真を準備し、コンテンツ整備を行った。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和4年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和3年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和3年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	459	12,589	136	3,668
民俗資料類	137	15,345	137	5,717
歴史資料類	626	46,477	1,304	16,021
美術工芸品類	353	6,584	32	68
自然標本類	187	26,720	1,210	14,341
合計	1,762	107,715	2,819	39,815

ウ. 資料整理

各分野の主な資料整理実績は以下のとおり。

(ア) 考古分野

灰塚山古墳出土資料リスト整理、中村コレクション整理、穴澤氏旧蔵図書整理、写真撮影43件(灰塚山古墳出土資料)、図録掲載写真デジタルデータ化など。

(イ) 民俗分野

小滝氏写真資料の年代および撮影地同定作業、草野家資料整理39件、渡部氏コレクション返還作業、写真撮影174件(藁人形コレクション、流し雛資料、未登録資料)、小滝氏写真資料デジタルデータ化、収蔵庫整理・高所蛍光灯交換作業など。

(ウ) 歴史分野

石井家資料目録とり336件、山谷家資料封目録とり192件、笠間家資料目録とり86件、坂内家資料目録とり284件、関家資料箱詰2件、伊藤家資料箱詰7件、佐瀬家資料整理1件、寄附予定資料受入準備作業約3,400件、斎藤家資料番号附与作業633件、築田家文書リスト照合、写真撮影93件(山川家資料、企画展図録用写真)、収蔵庫整理など。

(エ) 美術分野

遠藤家資料整理55件、資料受入時起案文書確認作業、写真撮影21件(陶磁器類)、収蔵庫整理、和室整理、2階エレベーターホール整理など。

(オ) 自然分野

只見町野々沢採集動植物化石の整形および標本箱への整理、石垣氏寄贈標本分類、写真撮影101件（梁川化石標本）など。

(カ) 災害分野

久之浜模型調査・整理・リスト化729件、未整理資料リスト化・袋書き151件（うち入力69件）、新聞資料箱詰め、収蔵庫整理、研究室整理、英語版資料解説作成（博物館ホームページ公開・特集展配布用）など。

エ. ボランティア

博物館資料の整理のため、資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働により資料整理作業を進めている。令和3年度は、14名に資料整理ボランティアに登録いただいた。令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア活動日を減らすなどの影響を受けたが、作業を進めた。活動の詳細について、資料整理事業別に以下に記す。

(ア) 自然資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。星総一郎氏には、新生代鰐脚類化石の整理へ協力していただき、活動日数は1日であった。竹谷陽二郎氏には、磐梯山関係資料の整理および企画展関係資料の整理へ協力していただき、活動日数は延べ2日であった。

(イ) 古文書整理

9名に資料整理ボランティアに登録いただき、歴史資料（坂内利子家文書）の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。大場美弥子氏、大堀義子氏、古柴正氏、小関栄助氏、佐藤敏子氏、佐藤紀子氏、鈴木清二氏、星弘明氏の8名のご協力により、7月から令和4年3月（令和4年2月を除く）まで、月1回のペースで延べ8日活動した。

(ウ) 民俗資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。佐々木長生氏には、藁人形コレクション・藁細工の整理・撮影へ協力いただき、活動日数は延べ5日であった。長島雄一氏には、小滝清次郎写真資料の整理へ協力いただき、活動日数は延べ7日であった。

(エ) 考古資料整理

藤原妃敏氏に資料整理ボランティアに登録いただき、展示準備作業、灰塚山古墳出土資料撮影、第2収蔵庫整理、中村コレクション整理作業を行っていただいた。活動日数は延べ18日であった。

(3) 貸出**ア. 博物館資料****貸出資料一覧**

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 正徳6年銘 1点 十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 文政9年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和3年4月6日～12月3日	常設展
メタセコイア化石レプリカ（原標本福島県広野町産） 1点	地質標本館	令和3年9月20日～12月15日	企画展「生きている化石 メタセコイアー白亜紀から現在までの姿ー」
イヌワシ剥製標本 1点	ただみ・プナと川のミュージアム	令和3年12月4日～令和4年4月4日	企画展「只見の猛禽類」
縄文時代土偶髪型復元模型 3点	江戸東京たてもの園	令和3年10月1日～令和4年6月30日	特別展「縄文2021ー縄文のくらしとたてものー」

イ. 写真資料

総数：103件184点

考古：14件 25点 民俗：17件53点

歴史：46件 73点 美術：24件30点

災害：2件 3点

(イ) 生物被害防除

7月と9月に1回ずつ計2回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、合計630件を燻蒸処理した。

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。

3. 展示事業

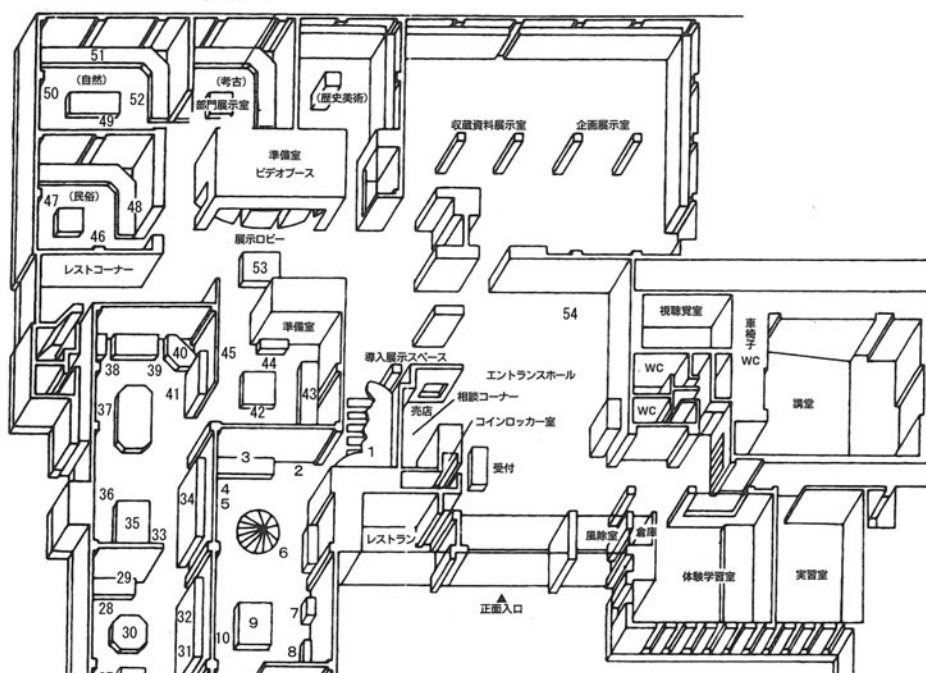
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸竇横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 氷河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 古墳時代のはじまり
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄
- 近世
- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 会津農書の世界
- 27 町のにぎわい
- 28 山国の神と人
- 29 産業の発達
- 30 海のなりわい
- 31 庶民の信仰
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗（雪国・会津の暮らしと折り）
- 46 雪と山国の暮らし
- 47 植物と手仕事の文化
- 48 雪国の折りと祭り
- ◆自然（県土の形成）
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古（よみがえる会津大塚山古墳）
- ◆歴史・美術（福島的美術）
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

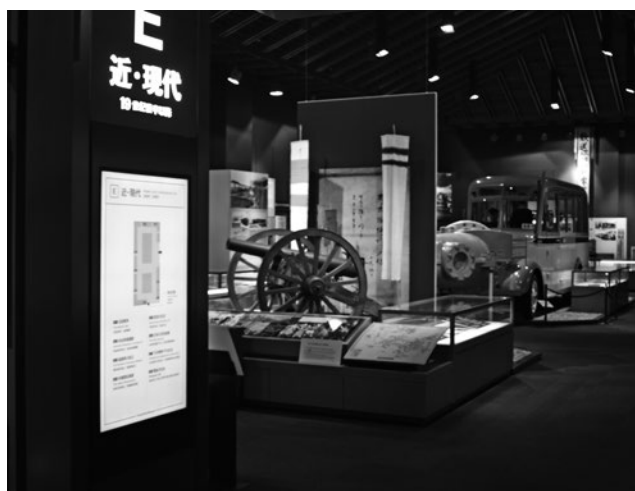
イ. 常設展示室内の改善

三の丸からプロジェクトの一つとして、インバウンド対策のため総合展示室の大テーマ解説、中テーマ解説については英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。多言語化した情報は、デジタルサイネージを利用して展示室にて表示させた。展示室内には大テーマ用6台、小テーマ用10台、インフォメーション用1台のデジタルサイネージ設置を行った。

かねてより展示室内の不明確な導線について意見をいただいていたことから、導線の改良を行った。改良にあたっては、会津大と協働し導線の調査結果を活用するなどした。また視覚弱者にもサイン表示が見やすくなるように、福島県立視覚支援学校から助言等協力をいただいた。順路の改善になるように、表示サインの追加も行い、展示のテーマ表示や導線の一部見直しを行った。テーマ表示の変更については、縁をつけて、コントラストを上げ、ユニバーサルデザインフォントを使用した。

部門展示室（歴史・美術）では、三の丸からプロジェクトの一環として、ケース内壁面を黒色クロスに張替を行い、照明のLED化、視野角調整のためのロールスクリーンの設置を行い、資料をより際立たせる展示が可能となった。

前年度から継続し、展示室内では新型コロナウイルスの対策を実施した。常設展示室の滞在人数100名に制限、ビデオブース及び総合展示室（近現代）、部門展示室（民俗・自然）ではタッチパネルの使用を中止した。スイッチ式の模型「好問庄の景観」（中世）と「磐梯山の地形」（自然と人間）は足踏み式スイッチに切り替え、「安積疎水路」（近現代）は



デジタルサイネージ

デジタルサイネージを利用して、電光によって用水の開削路が広がるようすを動画で表示している。

前年度より継続した新型コロナ対策としては、常設展示室の出入口付近に手指消毒用アルコールを設置したほか、飲料用の冷水器は使用中止とし、トイレ個室には消毒用の便座クリーナーを設置した。

ウ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全5回開催した。

- ①「会津の修験—西会津町旧福寿院の宗教世界」
（部門展示室：歴史・美術）
前年度～4月18日（日）
- ②「美しき刃たち～いわき編」
（部門展示室：歴史・美術）
7月10日（土）～8月29日（日）
- ③「祈りのふくしま5」
（部門展示室：歴史・美術）
9月4日（土）～10月17日（日）
- ④「ふくしまの焼きもの2～会津本郷焼～」
（部門展示室：歴史・美術）
10月23日（土）～12月26日（日）
- ⑤「福島を伝える～震災とアート～」
（部門展示室：歴史・美術）
令和4年2月5日（土）～4月3日（日）



ふくしまの焼きもの2～会津本郷焼～

エ. ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全21回開催した。

- ①「雛祭り与人形」
（部門展示室：民俗）
2月26日（金）～4月14日（水）
- ②「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」
（展示ロビー）

- 3月2日(火)～4月4日(日)
- ③「東北初発見!オオミツバマツ」
(部門展示室:自然)
3月26日(金)～4月20日(火)
- ④「復活!会津だるま」
(部門展示室:民俗)
4月16日(金)～8月18日(水)
- ⑤「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」
(総合展示室:中世)
4月20日(火)～6月20日(日)
- ⑥「奥州再仕置430周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」
(総合展示室:近世)
4月20日(火)～6月20日(日)
- ⑦「くずし字に挑戦!1」
(展示ロビー)
5月1日(土)～6月30日(水)
- ⑧「くずし字に挑戦!2」
(展示ロビー)
7月1日(木)～8月31日(火)
- ⑨「みんなの震災遺産」
(展示ロビー)
7月1日(水)～9月26日(日)
- ⑩「会津若松と軍隊」
(総合展示室:近現代)
7月3日(土)～9月26日(日)
- ⑪「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」
(エントランスホール)
7月10日(土)～8月15日(日)
- ⑫「ふくしまを耕した古代の農具」
(総合展示室:古代)
8月7日(土)～9月26日(日)
- ⑬「葬儀と民具」
(部門展示室:民俗)
8月20日(金)～10月20日(水)
- ⑭「発見!ハナワクジラ」
(エントランスホール)
8月24日(火)～9月26日(日)
- ⑮「くずし字に挑戦!3」
(展示ロビー)
9月1日(水)～10月31日(日)
- ⑯「ヒト形のついた縄文土器」
(総合展示室:原始)
10月9日(土)～11月28日(日)
- ⑰「金属器を模倣した石器」
(総合展示室:原始)
10月9日(土)～11月28日(日)
- ⑱「厄流しと宝船」
(部門展示室:民俗)
10月22日(金)～12月19日(日)

- ⑲「くずし字に挑戦!4」
(展示ロビー)
11月2日(火)～12月26日(日)
- ⑳「暑さ寒さをしのぐ道具たち」
(部門展示室:民俗)
12月22日(日)～令和4年4月13日(水)
- ㉑「くずし字に挑戦!5」
(展示ロビー)
令和4年1月5日(水)～2月27日(日)

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。令和3年度は、3本の企画展示を開催した。

ア. 春の企画展「会津の絵画」

(ア) 会 期

令和3年4月24日(土)～6月27日(日)

開館日数:56日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 2,662人

(エ) 担当学芸員

美術分野:川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子

(オ) 趣 旨

戦国時代に会津も拠点として活動した画僧・雪村。狩野探幽に学んだ会津藩お抱え絵師・加藤遠澤とその系譜の絵師たち。幕末に活躍した谷文晁門下の佐竹永海、遠藤香村。江戸から明治へ、戊辰戦争を生き延びた浦上秋琴、野出蕉雨。大正時代のアーティスト・イン・レジデンス、喜多方美術倶楽部に招かれた小川芋銭、森田恒友、石井柏亭。会津に生まれ会津を描いた坂内青嵐、湯田玉水、岩浅松石。

福島県立博物館がこれまで進めてきた会津ゆかりの絵画の調査研究、開催してきた展覧会による成果を総合し、当館に寄贈・寄託いただいた資料を中心に会津地方の近世・近代絵画を一堂にご覧いただいた。

(カ) 展示構成

近年当館にご寄贈いただいた雪村周継筆「瀟湘八景図帖」、加藤遠澤の「布袋山水図」を初め、遠澤に続く会津藩の御抱絵師の作品、萩原盤山、佐竹永海、遠藤香村ら会津出身、浦上秋琴ら会津ゆかりの近世の画人の作品、佐藤適圃、野出蕉雨ら近代まで活躍し地域で人気を博した画人の作品、関連

資料110点を一部借用作品を含む収蔵品を中心に企画展示室、テーマ展示室「歴史・美術」で展示した。

(キ) イベント

- ・学芸員のお気に入り特選解説会
日 時：5月1日(土) 13:30~14:00
会 場：企画展示室
参加費：要企画展チケットもしくは年間パスポート
定 員：10名(要申込)
講 師：川延安直(当館副館長)
- ・学芸員のこだわり特選解説会
日 時：6月12日(土) 13:30~14:00
会 場：企画展示室
参加費：要企画展チケットもしくは年間パスポート
定 員：10名(要申込)
講 師：川延安直(当館副館長)
- ・「会津の絵画」展よもやま話
日 時：5月1日(土) 14:10~15:00
会 場：講堂
参加費：無料
定 員：100名(申込不要)
講 師：川延安直(当館副館長)
- ・「会津の絵画」展こぼれ話
日 時：6月12日(土) 14:10~15:00
会 場：講堂
参加費：無料
定 員：100名(申込不要)
講 師：川延安直(当館副館長)
- ・関連イベント「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 若松城下で味わう 会津の絵画・まちかたの暮らし」
会津若松市内の歴史的建造物を会場に会津の絵画を特別公開。歴史ある建物の空間で作品をご覧いただいた。
会 場：若松城天守閣博物館・福西本店・末廣酒造嘉永蔵・竹藤
以下3件のイベントは、新型コロナウイルスの影響により中止となった。
- ・美術講座 美術放談1「美術を社会に〜喜多方美術倶楽部」
日 時：5月28日(金) 13:30~15:00
会 場：講堂
参加費：無料
定 員：100名(申込不要)
講師：川延安直、小林めぐみ(当館学芸員)
- ・「会津の絵画」展つもる話
日 時：5月29日(土) 14:10~15:00
会 場：講堂

参加費：無料

定 員：100名(申込不要)

講 師：小林めぐみ(当館学芸員)

・学芸員のおススメ特選解説会

日 時：5月29日(土) 13:30~14:00

会 場：企画展示室

参加費：要企画展チケットもしくは年間パスポート

定 員：10名(要申込)

講 師：小林めぐみ(当館学芸員)

(ク) 成果と課題

過去30年に渡り、県内外で継続して行ってきた福島県に関する絵画資料の調査研究活動、並びに保全収集活動の蓄積を会津地方の資料を中心にまとめて紹介することができた。厚い蓄積がありながらも一般には知られることの少ない地域ゆかりの画人たちを展示、紹介できた。その多くが寄託、寄贈によるものであり、中には各個人、施設で死蔵され、あるいは良好な環境に置かれていなかったものも少なくない。一方、博物館の保管・収蔵機能、研究・公開体制を信頼しご寄贈いただいた貴重なコレクションをまとめて展示し、顕彰と感謝を示す機会となった。レスキュー的側面、顕彰的側面の両面から文化財の価値、文化財を将来に継承することの意義を伝えることができた。

貴重なコレクション、文化財を博物館に託すという選択肢について理解してもらえたら幸いである。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来型の展示作品を前にしての解説を行うことができず、新たな試みとして対話を発生させないパフォーマンス型の解説会を実施した。また、中止となった美術講座、展示解説会等の代替として、展示作品の紹介をしながら作品背景を詳細に伝える映像を制作し、公式YouTubeで広く一般に公開した。これらは緊急対応として考案、実施されたが、今後は利用者拡大につながるツールとして積極的に取り入れていくべきものと考えている。

また、今後大きな課題となるのが、収蔵スペースの逼迫である。少子高齢化、住宅事情の変化により個人で美術資料を保持することが困難になるなか、博物館への寄託、寄贈の増加が見込まれるが、収蔵庫の収蔵スペースの限界、燻蒸設備の不備、修理予算の減額などは、福島県の文化財を未来に継承する上での重大な課題となっている。



企画展「会津の絵画」ポスター



学芸員のお気に入り特選解説会



慈光幼稚園園児への対話型鑑賞実施の様子



展示室風景

イ. 夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～」

(ア) 会期

令和3年7月17日(土)～9月26日(日)

開館日数：63日間

(イ) 会場

企画展示室

(ウ) 主催

福島県立博物館、福島民友新聞社、福島中央テレビ

後援 株式会社リオン・ドールコーポレーション

協力 会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

(エ) 入館者数

17,485人

(オ) 担当学芸員

民俗分野：山口拓、美術分野：塚本麻衣子、

考古分野：山本俊、災害分野：弦巻優太

(カ) 趣旨

本企画展では、福島県内の様々な怪異・妖怪・幽霊に関する資料を通じて、私たちが異界との関わり的一端を紹介した。怪異や妖怪・幽霊は我々の生きる世界と断絶しているのではなく、異なる存在でありながらすぐ隣にあり、少しのきっかけで両者の境界はあいまいになってしまうものである。一方、福島県は歴史的・文化的に東北の入口であり、中央からみれば一つの境界と捉えることもできる。そこで、本展では福島をこの世とあの世の間にある「あはひのクニ」であり、それゆえに妖怪や幽霊がはびこる「あやかしのクニ」であると捉えてみた。これにより、一見学術的な対象になると思われづらい妖怪や幽霊を、その土地に根差した歴史や文化の一部として認識できるよう試みた。

また、新型コロナウイルスの流行に伴って予言をする妖怪「アマビエ」に注目が集まったように、非常時に不思議なものにすがると人の心は前近代から大きく変わっていないように思われる。そうした心性を客観視し、現在も含めて探求する役割も博物館にはあるのではないかと。

博物館のライトユーザーに楽しんでいただけるテーマや切り口を用意しつつ、現代的な視点も含めながら福島県の歴史や文化の奥深さを感じられる企画展を目指した。

(キ) 展示構成

1. あはひをつなぐモノ

「オシンメイサマ」(館蔵)、「ナマハゲ資料」(秋田県男鹿市教育委員会蔵)ほか

2. となりのあやかし

「百鬼夜行絵巻」(国立歴史民俗博物館蔵)、「妖怪像」(湯本豪一記念日本妖怪博物館蔵)ほか

3. あはひに落ちる人々
幽霊画(金性寺蔵)、山姥のかもじ(猪苗代町教育委員会蔵、当館寄託資料)ほか
4. あやかしのクニ 会津
『老嫗茶話』(個人蔵)ほか
展示資料 62件(展示替え資料を含む)

(ク) 関連事業

- ・講演会「幽霊や妖怪、それっていったいなニ?～見えないものを言葉にする、見えないものが見える化する～」
日時：7月17日(土) 13:30～15:00
講師：岡野定丸氏(盛林寺住職)
会場：講堂 申込不要・定員100名
- ・講演会「みちのく怪談の魅力」
日時：8月14日(土) 13:30～15:00
講師：黒木あるじ氏(怪談作家)
会場：講堂 申込不要・定員100名
- ・講演会「もののけ、幽霊、妖怪の日本史」
日時：9月4日(土) 13:30～15:00
講師：小山聡子氏(二松学舎大学文学部教授)
会場：講堂 申込不要・定員100名
- ・公演「信夫狐の鴨左衛門」→ 中止
日時：8月29日(日)
出演：劇団120〇EN
会場：講堂 要申込・定員100名
- ・ワークショップ「オリジナル妖怪〇〇〇を描こう」
日時：7月22日(木・祝)、8月15日(日)、9月4日(土)
各回とも10:00～12:00
講師：関本創氏(妖怪博士中学生)、会津美術協会のみなさん
会場：体験学習室・常設展示室 要申込・定員各回18名
- ・トークライブ「あはひの存在と事故物件のあやかし」
日時：9月19日(日) 13:30～15:00
講師：松原タニシ氏(事故物件住みます芸人・松竹芸能株式会社)
会場：講堂 要申込・定員100名
- ・見どころ解説会
日時：7月18日(日)・23日(金・祝)・8月9日(月・祝)・28日(土)・9月23日(木・祝)・26日(日)
各日とも13:30～14:00
講師：山口拓、塚本麻衣子(当館学芸員)

場所：講堂 申込不要・定員100名

・館外の連携

会津若松市ナイトタイムエコノミー「ナイトタイムまちなか周遊企画 裏会津」7月17日(土)～9月26日(日)

(ケ) 成果と課題

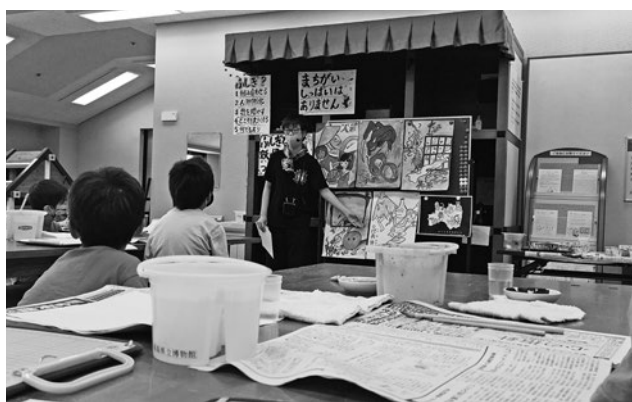
新型コロナウイルス感染症の拡大傾向が続いていたため、年度当初に入館者数および歳入見込みの下方修正を行った。これに併せて予算執行額を見直し、展示造作やイベント等について内容を一部変更するといった対応を取ることとなった。例年に比べると夏休み、お盆といった繁忙期の人出も少ない印象であったが、子どもが楽しめる映像コンテンツや人気声優を起用した朗読など、博物館ビギナーでも楽しめる仕掛けを準備したこともあり、目標とする数字をクリアすることができた。

イベントについては新型コロナウイルスの感染状況を常に意識し、開催の可否を検討することが続いた。公演「信夫狐の鴨左衛門」については、劇団の活動拠点である福島市にまん延防止等重点措置が適応されたために稽古が出来なくなり、残念ながら中止となった。しかし、それ以外のイベントは無事に開催され、好評の内に終了した。また、会津若松市と連携したナイトタイムエコノミー事業では、音声ARを当館の展示室にも設置していただいたことで、新たな展示の可能性を模索することができた。その一方で、夜間開館時の入場者数は想定程は伸びず、今後の実施に向けて課題が残ったといえる。

なお、本展は複数の分野の学芸員が、チームとして担当を務めた。しかし、そもそもはテーマも決まっておらず、各人がその専門性や関心に即して様々なアイデアを持ち寄りところからのスタートであった。このような形で分野合同の企画展をつくるという試みは初めてのことであり、最終的なテーマ設定や展示内容について、それぞれの専門性を十分に活かしきれたかと問われれば課題もあるだろう。しかし、議論を積み重ねて展示をつくる過程は、お互いに普段とは違うものの見方を学び合い、新たな知見を得る場でもあり、チームにとっては非常に楽しく刺激的なものであった。比較的若手の多かったチームにとっては、こうした経験もまた次につながる大きな成果であったと感じている。



企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」リーフレット



ワークショップ「オリジナル妖怪○○を描こう」



展示室風景

ウ. 秋の企画展「ふくしま 藁の文化 ～わらって、すげえんだがら!!～」

(ア) 会期

令和3年10月9日(土)～12月19日(日)
開館日数：62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,530人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：大里正樹

(カ) 趣旨

米づくりと共に生み出される藁(わら)は、多様な道具に使われる身近な素材である一方、しめ飾りにも使われるように神聖なものでもありました。大わらじや俵引き、村境を守るわら人形など、巨大なわら製品を作る祭りや行事は県内に広く見られます。本展では、わらを用いた多様な資料から、豊かな藁(わら)の文化をご紹介します。福島県立博物館の誇る「東日本のわら人形コレクション」も一挙公開!

(キ) 展示構成

導入展示 けんぱく田んぼ&日本科学未来館「ビューティフルライス」展

企画展に合わせて当館前庭で行ってきた「けんぱく田んぼ」(バケツ稲)の取り組みと、日本科学未来館の巡回展から、米づくりの現在と未来を考えます。

第1部 わらわら、神さま大集合!～東日本のわら人形コレクション～

びっくり?怖い?かわいい?大きさも形も表情も千差万別。福島県立博物館の一大コレクションを、新収蔵資料も加えて33年ぶりに一挙公開します。福島・東北・関東…きっとあなたの近くの神さまも。

第2部 “わら”う門には、福来たる～わらが支える年中行事～

新しいわらは、豊かな実りを象徴する尊い存在でもありました。人々の暮らしのサイクルの中で、地域の祭り・家の祭り・正月のしめ飾りなど、節目節目に登場してきたわらの姿を取り上げます。

第3部 なんてかんで、わら!～なって・もじって・編んで、暮らしの中のわら細工～

衣食住の道具はもちろん、家畜のえさや、壊れやすい品物を守るクッションにも。使い終えれば、やがて土へとかえるすぐれもの。“何でもかんでも”、暮らしの中で使われてきたわらの多様な活躍ぶりに迫ります。

(ク) 関連事業

- ・ 関連展示 1 日本科学未来館巡回展「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように～」

日時：10月5日（火）～12月19日（日）

場所：エントランスホール

内容：日本科学未来館（東京都江東区）で好評を博した「ビューティフル・ライス」展が会津若松に。SDGs（持続可能な開発目標）とも関わる米づくりの今と未来を考えます。

共催 日本科学未来館

- ・ 関連展示 2 「バケツ稲と稲のはさがけ」

日時：5月21日（金）～12月19日（日）

※バケツ稲 5月21日（金）～10月15日（金）、はさがけ10月5日（火）～12月19日（日）

場所：前庭

内容：（バケツ稲）5月から当館前庭と鶴城小学校で栽培してきた「バケツ稲」が、開幕に合わせて収穫の時期を迎えます。実りの秋の美しさをけんぱくでもお楽しみください。（はさがけ）刈った稲を昔ながらの「はさがけ」で乾燥させ、米の副産物であるわらが出来上がります。今ではなかなか目にすることのできなくなった懐かしい風景をご覧ください。

- ・ 関連展示 3 「みんなで作った昔の「藁（わら）のたわし」～会津若松市立鶴城小学校5年生のみなさんのわら細工作品展示～」

日時：11月28日（日）～12月19日（日）

※バケツ稲 5月21日（金）～10月15日（金）、はさがけ10月15日（金）～12月19日（日）

場所：体験学習室

内容：「バケツ稲」栽培で収穫されたわらを使い、鶴城小学校5年生の児童のみなさんと11月24日（水）にわら細工づくりのワークショップを行いました。児童の皆さんが作った昔の「藁だわし」を展示します。

- ・ 講演 1 「神と人をつなぐ藁の文化－ANP（秋田人形道祖神プロジェクト）×福島県立博物館－」

日時：11月3日（水・祝）13時30分～15時

場所：講堂

講師：小松和彦 氏（秋田市・小松クラブトスペース）・宮原葉月 氏（アートクリエイター）

- ・ 講演 2 「縄文の時代より続いてきている「藁の文化」－福島県内の取組みから学ぶ－」

日時：11月20日（土）10時30分～12時

場所：講堂

講師：宮崎清 氏（千葉大学名誉教授、福島県三島町名誉町民）

- ・ 実演 1 「天栄村湯本の蓑（みの）のこと」

日時：11月23日（火・祝）13時30分～15時

場所：体験学習室

講師：星崎奈美 氏（喜多方市・ワラ工房茂次郎）・小山セツ子氏（天栄村在住）・小山タミ氏（天栄村在住）

- ・ 実演 2 「もじろう！けんぱくわら工房」

日時：11月30日（火）～12月19日（日）

※開催時間は不定期

場所：体験学習室

講師：大里正樹（当館学芸員）

- ・ みどころ解説会

日時：10月9日（土）・23日（土）、11月6日（土）、12月4日（土）・11日（土）・18日（土）・19日（日） 13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：大里正樹（当館学芸員）

(ケ) 成果と課題

- ・ 本企画展のベースとなった資料は当館が誇る「東日本のわら人形コレクション」の資料群であり、昭和63年に開催された企画展「境の神・風の神」以来、実に33年ぶりの全点一挙公開となった。図録も絶版となって久しく、関係する博物館にあっても、各行事の伝承地にあっても世代交代も進んでいく中、本資料群は知る人ぞ知る資料となっていた。本企画展において担当分野としてあらためて資料の整理・撮影を行い、カラーで資料全点の写真を掲載した図録を発行し、かつての製作地などにもきめ細やかな追加調査や広報・図録送付などを行うことにより、本資料群の存在を再び世に出すことができたことは大きな成果である。
- ・ ことに、秋田県の小松和彦・宮原葉月氏による「秋田人形道祖神プロジェクト」による近年の調査と、Webサイト・SNS等での発信、『村を守る不思議な神様』（1・2）の出版等は本展示の追い風となった。単調な色遣いになりがちな藁という素材に対し

て、鮮やかな色遣いが特徴の宮原氏のイラストによるわら人形の表現はとても目を引くものであり、今回、本企画展のため、主要資料である「柳津町冨中のニンギョウマンギョウ」をモデルにキービジュアルの製作を依頼、作品を広報物や展示にも活かした。事前調査や会期中のトークイベント等、協働を通して、小松・宮原両氏には本展のSNS等での発信を盛んにしていただくことが出来た。



実演「天栄村湯本の蓑（みの）のこと」



企画展「ふくしま蓑の文化」ポスター。



展示室風景

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和4年度は、冬季特集展として「貝殻パラダイス」「そなえの芽 災害から考えるもしもの暮らし」を開催した。

ア. 特集展「貝殻パラダイス！」

(ア) 会 期

令和4年1月22日(土)～2月27日(日)
(32日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 観覧者総数 1,743人

(エ) 担当学芸員

自然分野：相田優・猪瀬弘瑛・吉田純輝

(オ) 趣 旨

貝殻は、そのさまざまな色彩や質感、かたちのおもしろさ、種類の多さ、扱いやすい大きさ、保存のしやすさなど数々の特徴により、貝殻収集家たちによって世界中から集められ、古くから多くの人々に親しまれてきた。一方で、貝殻の特徴をもとに貝類を分類する試み(貝殻学)も成立し、軟体動物学の一端を担ってきた。

今回の展示では、展示対象を海生貝類にしぼり、海の環境によって異なるさまざまな貝の種類を紹介すると共に、多くの貝殻に親しむことから観覧者に貝類の多様性を認識してもらい、ありのままの自然を保って行くための自然保護の大切さへと関心を誘うことを目標とした。

(カ) 展示構成

- I さまざまな貝のすがた(大きな貝たち、ふしぎなかたちの貝たち、これも貝のなかま)
- II 美しい貝(オキナエビスのなかま、ヒオウギ、タカラガイのなかま、イモガイの

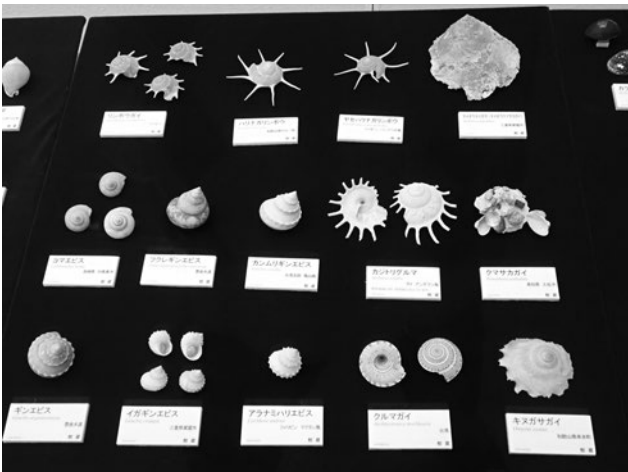
- なかま)
- Ⅲ 貝の生活（潮間帯や浅い岩場に住む，深い岩場や岩礫底に住む，干潟や内湾の砂泥底に住む，砂浜に住む，深い砂泥底に住む，深海に住む・冷たい北の海に住む，サンゴ礁に住む）
- Ⅳ 浜辺で拾った貝殻（福島浜辺，新潟浜辺）
- Ⅴ 貝を食べる
- ・主な展示資料：オオシャコガイ、ホラガイ、アラフラオオニシ、オオテングニシ、ダイオウイトマキボラ、スケーリーフット（福島県初公開）他、出品件数800件

(キ) 関連行事

本特集展の関連行事として、実技講座、講演会、ワークショップ、展示解説会等、合計5回の行事を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症第6波の蔓延により、開幕初日の展示解説会（場所は展示室から講堂に変更）以外、中止とした。



展示室風景 1



展示室風景 2

(ク) 総括

今冬、会津地方は大雪で、かつ新型コロナウイルス感染症第6波のピークが本特集展開催期間と重なった。このため観覧者数は低調だったが、アンケートに見る評価は概して好評であった。開催期間をもう少し延長する等の工夫をすべきだったかもしれない。

イ. 特集展「そなえの芽 災害から考えるあしたの暮らし」

(ア) 会期

令和4年2月11日（金・祝）～3月27日（日）
開館日数：38日

(イ) 会場 収蔵資料展示室

(ウ) 観覧者数 2,094人

(エ) 担当学芸員

災害分野・震災遺産保全チーム担当学芸員

(オ) 趣旨

震災遺産を活用した学校など教育現場での防災講座やワークショップなどへの展開を視野に入れて、展示でいかに自分事化することができるかを目的として本展示を構成した。震災遺産と問いと合わせることで、人の語りに頼らない災害伝承の持続可能性が獲得を目指すことも本展示の狙いの一つとなった。来館者からのアンケートを展示に活用し、参加型対話形式の展示をめざした。

(カ) 展示構成

自然の恵み

地震へのそなえ ～おちない・たおれない・うごかない～ 落下した体育館照明

津波へのそなえ ～津波から逃げる～
避難所の暮らし ～知恵を絞って困難を乗り越える～

家庭のそなえ ～家庭のそなえを考える～
原子力発電所事故

防災講座、防災ワークショップの紹介
40点

(キ) 関連事業

- ・予定していた防災講座「楽しい備え」は、新型コロナウイルスによる感染症対策のため中止となったが、対策を講じたうえで、またオンライン等を併用するなどし、以下のイベントを実施することができた。
- ・防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」
日時：2月12日（土）13時30分～15時

- 講師：関谷央子氏
 (防災教育コーディネーター)
 会場：オンライン開催 要申込・定員15名
- ・見どころ解説会
 日時：3月11日(金) 13時30分～14時30分
 講師：筑波匡介・弦巻優太(当館学芸員)
 会場：講堂 申込不要・定員100名
 - ・防災教育ワークショップ「さすけなぶる」
 日時：3月12日(土) 13時30分～15時30分
 講師：鈴木里美氏
 (日本防災士会福島県支部 防災士)
 会場：体験学習室 要申込・定員20名
 - ・防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」
 日時：3月27日(日) 13時30分～14時30分
 講師：筑波匡介・弦巻優太(当館学芸員)
 会場：体験学習室 申込不要・定員20名



展示室風景

(4) 指定文化財の公開

令和3年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア. 国指定

〈重要文化財〉

- (1) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち 2点
 檜葉町教育委員会(福島県)
 (総合展示室：原始にて展示公開)

イ. 県指定(福島県指定)

〈重要文化財〉

- (1) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器
 4点 福島県
- (2) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1
 点 いわき市
- (3) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点
 いわき市
- (4) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄
 製品 4点 会津坂下町
 (以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開)
- (5) 関下人形 5点 個人
- (6) 長谷部家文書のうち「怪事雑話 卷之四・

卷之五」 1点 個人・福島県歴史資料
 館寄託

(以上2件は、企画展「あはひのクニ あやかし
 のクニーふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪
 異」にて展示公開)

(5) 展示解説

ア. 展示解説員

平成20年代初頭の大幅な人員削減以来、現在まで展示解説員は13名で業務を続けている。例年同様、令和3年度は常設展示室内の監視員2名と、企画展開催中には展示予算の中で監視員1名を予算化したが、展示解説員自体の人員の不足が恒常的に続いており、解説や案内業務等に支障をきたしている。展示解説員の主な仕事は展示の解説業務(通し解説・部屋送り解説)に加えて、展示室内の監視や設備等の状況把握、チケットや刊行物等の販売業務を含めた受付、館内の案内、体験学習室の管理・運営、団体対応など幅広い。組織としては、研修係、資料係、体験係の3つの係に分かれ、それぞれが全体に共通する仕事と係の仕事とを日々進めている。

研修係は、企画展やテーマ展等の各展示担当学芸員が行う研修のほか、新人解説員の研修や、展示解説員のスキルアップのための冬期の閑散期研修などの研修計画の策定、さらに企画展開催時に展示解説員の人数不足を補うための学芸員の「立番」の準備などを行う。資料係は図録などの刊行物や展示室内における配布資料などの管理のほか、受付・モギリ・展示室などにおける掲示物や物品等の管理を担当している。体験係は体験学習室における玩具や着付け衣装の管理、資料作成のほか、体験学習室の使用法を含めた全般的な管理を行っている。それぞれの係には班長・副班長を置き、特に3名の班長は展示解説員の出勤・休暇の管理など全体を統括する業務や、班長会議の実施などを通じた学芸課・総務課との連絡調整業務、団体予約に関する仕事の調整などを担当している。

イ. 展示解説員の新型コロナウイルス感染症対策

昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大により接客を中心とする展示解説員の業務に大きな影響をもたらした。年間を通して展示室内での解説業務は制限され、物や人の接触を多く伴う体験学習室は限定的な開室にならざるを得なかった。総

合ガイダンス（受付・売店）やモギリにはアクリルパーテーションを設置し、館内各所にアルコール消毒液を配置した。マスク未着用の来館者に対しては着用の呼びかけを行った。アルコールによる手指消毒も勧めた。さらに、来館日の記録のためのチケットへの日付印の押印や、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施なども継続している。

本来の業務が大幅に制限される状況が続いたが、例えば口頭での展示解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ & A形式でデジタルサイネージを使って表示したほか、今年度は学校団体に限りマイクを使用した通し解説を試行的に再開した。体験学習室では折り紙など持ち帰ることのできる玩具を活用したり、着付け体験のできない時代衣装はマネキンに着せて展示するなどの工夫をした。また解説員がそれぞれ展示コーナーを選んで解説動画の収録を行い、今後の活用方法を検討している。



試行的に再開した通し解説

ウ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増える事になり、展示解説員だけでは対応できない状況にあるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則は1コマ45分で、令和3年度は年間502回を数えた。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を受け、企画展・特集展の展示室における展示解説は原則として休止し、代替措置として講堂でのパワーポイントを使用した「見どころ解説会」を開催した。感染状況が落ち着いた春季企画展「会津の絵画」では、少人

数での展示解説を試行することができたが、続く企画展・特集展では感染拡大状況を考慮し、中止とせざるをえなかった。また、常設展示室におけるポイント展ミニ解説会は平日実施とし、少人数・事前予約制で催行した。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングからなる。新型コロナウイルス感染症拡大以前は、昔のおもちゃが用意されていて自由に遊べるほか、読み聞かせ用の絵本も配架し、また、季節ごとに衣装の展示を行って、一部については着付けの体験を行うこともできた。

また、ハンズオンコーナーを設置し、触るという体験を通じて通常の展示観覧とは異なる学びを得られる場所としても機能していた。

令和2年度からは新型コロナウイルスの感染拡大の影響により従来の使用方法の多くを中止せざるを得ず、コロナ禍で可能な使用方法の検討を重ねながら開室を続けてきた。数年来力を入れてきた、子どもたちにとって博物館の入口として親しむことのできる空間作りを引き続き目指している。

ア. 開室状況

時代衣装の着付けや昔のおもちゃ遊び等といった物や人の接触を多くともなう利用については、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない令和2年度から引き続き中止となった。そのため、各種展示やワークショップの成果発表の場、職員が常駐できるイベント等の会場として恒常的に開室するという形をとることとなった。

後者については、例年ゴールデンウィークに開催されている「こどもミニミニはくぶつかん」を再開の予定であったが、会津若松市における新型コロナウイルス感染症集中対策を受け、5月3日のみの開催となった。1日だけの開催ではあったが、会津大学短期大学部教育学科との連携により、コロナ禍であっても創造的な時間を参加者に用意することができた。また「三の丸からプロジェクト」における体験型プログラムや、同プロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」のワークショップの会場として賑わいを創出することもできた。

イ. 資料展示

コロナウイルス感染症拡大を受けて、体験学習室の運用の中心の一つが展示やワークショップの成果発表となった。

特に令和3年度は、企画展と連動したワークショップ等の成果発表という新しい形での活用を行えた。夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」開催中には、ワークショップ「オリジナル妖怪〇〇〇を描こう」で参加者が制作した妖怪の絵を会期中に展示した。また、同ワークショップの手法を援用したザベリオ学園小学校との協働における制作物の展示も行った。秋の企画展「ふくしま 蕁の文化」開催中には、鶴城小学校と連携して行った「バケツ稲」の成果や児童が育成した稲蕁を用いて製作したわら細工の展示を行った。3月には、当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会と当館が協力し企画運営している福島県の文化事業・福島芸術計画が、福島県立会津支援学校と連携して実施したワークショップ成果作品の展示も行った。これらは企画展観覧目的の来館者の興味関心をひくとともに、当該の児童が企



会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さんが実施したワークショップの様子



鶴城小学校との連携展示「蕁のたわし」の様子

画展への関心を深めることにもつながった。また児童が保護者と一緒に展示を観にくることも多々あり、博物館活動を自分ごととしてより身近に感じていただく機会にもなった。

(7) リニューアルの検討

当期中期目標における重点目標「新しい展示ストーリーの検討」を進めるため、既存展示の見直し作業と最新の展示手法と展示構築動向を把握するための情報収集をテーマに展示リニューアルの検討に着手した。

既存展示の見直しには、当館の現況展示制作の際の「展示基本計画」を基に、展示構想と具体化された現況展示を比較し、展示目的の達成状況を検討した。また来館者目線を想定し、博物館実習生をモニターとして近世における民俗系展示の理解から課題抽出を試みた。さらにインバウンド対応が果たされていない当館の現状について会津若松市の国際交流協会の協力を得て観覧モニターも行き、意見交換を行った。

年度の後半は、最新の県内の展示施設の一つである「中間貯蔵工事情報センター」のヒアリングに協力し、最新の展示動向の情報を得るとともに、当館の展示目的や運営状況について再認識する機会となった。また会津大学と連携し、来館者の動線や展示観覧の印象の知識化を計測する仕組みがもたらす成果について試行しながら検討する事業を行った。また当年度開始した「三の丸からプロジェクト」の一環として、最新の映像コンテンツ作成・提供技術について知見を得た。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和3年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII 古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

昨年度に引き続き、県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪（館蔵）のうち円筒埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

イ. 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術

(イ) 趣旨

会津地方は仏教美術の宝庫だが、その一方で、調査がなされず存在が知られていない仏像・仏画、かつて調査されたものの十分な認知がされていない仏像・仏画も多数ある。また、多くの寺院・堂が無住となり、地域の世帯で管理していることも少なくない。今後の管理体制に不安を抱える地域もあり、仏像・仏画の現状の確認は急務と言える。調査はより広い見地からの検証、修復の緊急性の判断等のため、大学等研究機関研究者および仏像彫刻修復家と共働で調査研究を行う。それらの成果をもとに、会津の仏教文化を紹介する講座・展覧会を開催するとともに、今後の保全体制の基盤づくりにつなげる。

(ウ) 調査概要

会津地方の南エリア・南会津町薬師寺の

薬師如来像、阿弥陀如来像の調査を実施。仏像の保存状態の現状を確認した。調査結果等を令和4年度の美術講座で報告する計画を立てた。西エリア・金山町宮崎観音堂の修理に伴い、本尊の観音菩薩像の調査を実施。仏堂修理の間、観音菩薩像の寄託を受け、調査結果等をテーマ展「祈りのふくしま5」で紹介した。

ウ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 災害

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

特集展の実施を見据え、ポイント展「みんなの震災遺産」では観覧者の参加を意識し、付箋に感想を書いてもらいそれを掲示した。問いは創造的な対話のトリガーであると言われ、対話を促すツールとして活用を実践することとした。多くの意見が寄せられ、震災遺産活用の新たな展開だと意見もいただいた。会津教育事務所や防災教育に関心ある教員との意見交換等から、震災遺産と問いを使った災害伝承の持続可能について検討を開始することができた。現代資料の活用として、大学・高校等での授業を実施することができた。

またベンチャー企業と協働して、震災遺

産の3DCG化や、メタバースでの実験など最新技術を活用した資料活用の試行を行った。学校の先生へのインタビューを協働して取りまとめ、冊子化するために編集作業等を行った。

工. 収蔵資料活用に向けた本県蕨文化の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

当館で開館当初に収蔵された蕨製の大人形資料群は、本県を中心に新潟、東北・関東および各県の資料を収蔵し、全国的にも稀有な一大コレクションである。当館の既存資料の価値をさらに高めるため、企画展等でのその再活用を念頭に、関連資料収集と追加調査を進める。本事業により行事分布の再検討や製作過程の詳細な調査記録を作成し、あわせて実物資料を製作し収集・保全する。また博物館と地域住民とが連携することで、蕨に関わる伝統技術の継承に寄与し、地域活性化の一助とする。

(ウ) 調査概要

令和3年度は、県内各地での行事調査を継続、調査成果について企画展「ふくしま蕨の文化」の図録や展示へと活かした。4月には田村市（朴橋・屋形・堀越）のお人形様行事調査、7月には伊達市保原のつつこ引き行事調査、また7月上旬に県外調査として館蔵資料の「秋田県大館市山田のジンジョサマ」「秋田県横手市末野のショウキサマ作り・カシマ流し」の現状調査をそれぞれ行った。とくに5～7月にかけては福島市・信夫山の大わらじについて制作者団体である御山敬神会の協力を得て、展示用資料として現物の大わらじの4分の1サイズ（3メートル）の大わらじを製作依頼し、資料として収集・展示した。その他、つつこ引きの「つつこ」（4分の1模型、伊達市）、「カシマ流しの舟とカシマ人形」（秋田県横手市末野）などの資料を新たに収集することができ、資料の充実に資した。

オ. 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

(ア) 分野 保存科学

(イ) 趣旨

古文書や古典籍などは和紙を基底材とする紙本文化財である。和紙は、伝世品の主要な素材の一つである。保存科学の観点より、料紙調査および保存状態調査を実施して、神社仏閣に伝世する料紙の特徴および保存性を明らかにすることを目的とする。

(ウ) 調査概要

只見町教育委員会保管の伝世資料について、料紙調査および保存状態調査を実施した。

カ. 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

県内では浜通りを中心に古生代（約5億4000万年前～約2億5000万年前）の地層が分布している。これらの地層の中には豊富に化石を産する層準があり、これまでも地元の化石収集家などによって多くの化石が発見されてきた。

2017年に当館の学芸員によって相馬地域のデボン紀の地層から“県内最古の新種化石”が発見されるなど、現在でも浜通りの古生代の地層からは新たな化石が発見され続けている。これらの中には論文等で発表されていない貴重なものも含まれていることから、鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。ポイント展などでそうした化石を展示する機会を設ける。

(ウ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。学術的価値の検討のため、浜通り産古生代微化石と中生代大型化石についても検討した。

キ. 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

会津藩関わった戊辰戦争は、県内外の研究者や歴史愛好家の興味を惹き、絶えず研究が行われている。一方で明治時代を迎えた近代ふくしまの歴史研究となると、等閑にされてきた感が否めない。県全体の歴史を扱った『福島県史4 近代編1』（昭和46年）も刊行から45年以上が経過し、見直しの時期に入ったといつてよい。そこで本事業では、近代ふくしまの出発点である県の成立前後に起こった事象（地方行政の整備、学校建設、地租改正等）を研究し、戊辰戦争からの戦後復興、そして浜通り・中通り・会津という3地域が初めてひとつになった「福島県」誕生の道程を明らかにする。

(ウ) 調査概要

前年度に続きコロナ禍であることを考慮して、個人の古文書所有者のもとを直接訪

問する調査は積極的には実施しなかった。令和3年度は、主に旧吉田村（現福島県会津美里町）の村会の記録や戸長役場文書を解読・研究した。さらなる事例の蓄積が必要であるが、明治10年代の村政の状況が明らかとなった。成果は歴史講座やポイント展等で公表する。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和3年度は、石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家・坂内利子家資料の整理を行い、このうち石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料（若松城下薬種問屋資料）を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

猪瀬弘瑛 2022.3『令和4年度企画展 アンモナイト合戦 図録』

猪瀬弘瑛・福島県立博物館友の会化石鉱物探検隊 2022.3「福島県郡山市湖南町に分布する中新統大久保層から産する化石について」『福島県立博物館紀要』第36号

猪瀬弘瑛・久保貴志・菜花智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」日本古生物学会 2021年年会講演予稿集

主森亘・久保貴志・猪瀬弘瑛・藤田英留 2022.3「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層から鱗脚類の産出」『福島県立博物館紀要』第36号

望月貴史・猪瀬弘瑛 2022.3「福島県いわき

市の双葉層群足沢層から産出した生痕化石 *Helminthopsis* について」『福島県立博物館紀要』第36号

内山大介・本間宏 2021.7「福島県と災害の10年Ⅱ 震災・原発被災と博物館」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』pp.364-365

内山大介 2021.8『福寿院の文化財と宗教世界—旧修験高橋家所蔵修験資料—』高橋英雄発行 pp.1-24

内山大介・辻本侑生（共著）2022.2『山口弥一郎のみた東北—津波研究から危機のフィールド学へ—』文化書房博文社

内山大介 2022.3「福島県における民俗研究の歩みと県立博物館」『福島の民俗』50号 福島県民俗学会 pp.65-73

内山大介 2022.3「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」『ミュゼ』VOL.128 アム・プロモーション pp.14-151

大里正樹編 2021.10『ふくしま 藁の文化〜わらって、すげえんだがら!!〜』福島県立博物館

大里正樹 2021.5「会津だるまの復活に向けて」『だるまニュース』54号、全日本だるま研究会

大里正樹 2021.10.22 福島民報文化面「本県の藁文化に光 県立博物館秋の企画展」（寄稿）

大里正樹 2022.3.18 福島民報文化面「いっぴん 県立博物館 氷冷蔵庫」（寄稿）

川延安直・小林めぐみ 2021.7.9「震災・原発事故からの学びがもたらす社会再生・ミュージアムの役割」『環境情報科学』50-2 一般社団法人環境情報科学センター

小林めぐみ 2021.05「未来を創る装置としてのミュージアムの可能性—ライフミュージアムネットワークの実践から」『現代の図書館』vol159no1 日本図書館協会

Shigeru Sugawara, Sahoe Sugizaki, Yoshihiko Nakayama, Hideya Taniguchi, Ichiro Ishimaru, *Preliminary study for detection of adhesive on a painted ceramic plate and varnish on printed paper using near-infrared hyperspectral imaging at wavelengths of 1.0–2.35 μm*, Infrared Physics and Technology, vol.117, 2021, 103809

高橋充 2021.9「鳴山城」「駒寄城・西館」「久川城」「破城の作法と古城」飯村均・室野秀文編『続・東北の名城を歩く 南東北編

- 宮城・福島・山形』 p.111-121、183-184
吉川弘文館
- 高橋充・時枝務 2022.3「信夫山頂遺跡出土品の研究(8)」『福島県立博物館紀要』36 p.13-26 福島県立博物館
- 高橋充・渡邊明 2022.3「会津の医学史—中世・近世の医師に関する史料を中心に—」『福島県立博物館紀要』36 p.37-56 福島県立博物館
- 田中敏 2021.6「磨消擬縄文長頸壺形土器(福島県大沼郡会津美里町五本松遺跡出土)」『国華 特輯弥生土器』第1508号 p.52-53 国華社
- 吉田純輝・猪瀬弘瑛・菜花智・真鍋真「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会 第171回例会講演予稿集
- Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. A new goniopholidid from the Upper Jurassic Morrison Formation, USA: novel insights into aquatic adaptation toward modern crocodylians. *Royal Society Open Science* 8(12): 210320.
- Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Taxonomy of a new goniopholidid specimen from the Upper Jurassic Morrison Formation and their diversity in North America. *Abstract Book of 9th Annual meeting of Canadian Society of Vertebrate Palaeontology*.
- Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Morphology and anatomy of hyoid apparatus in crocodyliforms: the origin of the gulag valve in Neosuchia. *Abstracts of 81th Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology*.
- (イ) 学会発表
- 猪瀬弘瑛・久保貴志・菜花智・いわき自然史研究会 2021.7.3「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」日本古生物学会 2021年年会 (オンライン開催)
- 村宮悠介・猪瀬弘瑛・歌川史哲・相場大佑・安藤寿男・大森光 2022.2.5「上部白亜系双葉層群足沢層から産出したコニアシアンのアンモノイド」日本古生物学会 第171回例会 (オンライン開催)
- 内山大介 2021.8.22「職場としての博物館・公務としての民俗学—「学芸員は研究者なのか」を考える—」現代民俗学会第56回研究会「民俗学者の「生きる方法」—若手研究者向けキャリア支援企画—」オンライン開催
- 内山大介 2021.10.3「山口弥一郎がいわきに残したもの—磐城高等女学校と磐城民俗研究会—」いわき市暮らしの伝承郷講座、於：いわき市暮らしの伝承郷
- 内山大介 2021.11.6「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」ICOM-DRMC (国際博物館会議博物館防災国際委員会) 東日本大震災10周年シンポジウム「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝—東日本大震災後10年目における博物館活動の再生と創造—」於：陸前高田市コミュニティホール
- 内山大介・樫村賢二 2022.1.11「民具を語る9・10 会津鋸I・II」神奈川大学日本常民文化研究所YouTubeチャンネル
- 内山大介 2022.3.20「震災をめぐるモノと物語の継承—博物館学芸員と東日本大震災—」日本口承文芸学会第81回研究例会「東日本大震災から11年—震災をめぐる現場の声と研究者—」オンライン開催
- 大里正樹 2021.6.24「会津だるまとその復元について」、「会津だるまを語る会」於たけとう茶屋
- 大里正樹 2021.11.30「講演 ふくしまの藁の文化」「まちなか案内人養成講座」於福西本店
- 小林めぐみ 2021.12.11「地域と小学校とミュージアム ライフミュージアムネットワーク 2020の浪江町立津島小学校との協働から」2021年度地域歴史資料継承領域第6回研究会震災後のふくしまの新たな取り組みに学ぶ (オンライン開催)
- 杉崎佐保恵 2021.6「古器旧物保存方太政官布告より150年—明治時代における文化財保護のあゆみ—」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表要旨集』 p.372-375 (紙面開催)
- 高橋充 2021.10.31「会津」宇都宮・会津仕置430周年記念シンポジウム「宇都宮・会津仕置の諸問題」於大田原市那須与一伝承館
- 高橋満 2021.05.29「中才遺跡出土の製塩土器を考える」仙台市縄文の森広場 春のコ

ーナー展示「東北の縄文遺跡ー南相馬市中才遺跡」関連講座（オンライン）

筑波匡介 「ふくしま学（楽）会」話題提供
第2部「福島を経験を学び、語り継ぐ枠組みを考える」パネルディスカッション
2022年1月30日（日）10:00-17:30主催 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・早稲田大学レジリエンス研究所（WRI）

筑波匡介 報告とディスカッション ぼうさいこくたい2021 災害伝承ミュージアム・セッション vol.3 2021 経験の伝承・次の災害への備え。啓発の新たなチャレンジ主催 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

吉田純輝・猪瀬弘瑛・菜花智・真鍋真
2022.2.5「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会 第171回例会（オンライン開催）

イ. 多様な連携による新たな研究活動

猪瀬弘瑛・相田優・吉田純輝 会津学鳳高校探究活動「双葉層群から産する微化石の研究」2021年6月1日～

内山大介 国立歴史民俗博物館 広領域連携型基幹研究プロジェクト「地域における歴史文化研究拠点の構築」に共同研究員として参加

高橋充 会津大学との連携研究プロジェクト「知識表現と観測による複合的博物館体験の知識化プロジェクト」(SmartMuseumプロジェクト)

筑波匡介 南国アールスタジオ共同研究「3次元点群データ活用による震災遺産デジタルアーカイブと遠隔コミュニケーションの可能性」国土地理院令和3年度3次元点群データ利活用に係る実証公募

筑波匡介 一般社団法人リテラシーラボ共同研究「ふくしま教育アーカイブ」

吉田純輝 群馬県立自然史博物館・北海道大学総合博物館・カールトン大学共同研究「新たなゴニオフォリス類化石の分類学的研究とワニ形類の初期水生適応の解明」

ウ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

阿部綾子：郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会

阿部綾子：史跡若松城跡御三階復元検討会委員 会津若松市教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山大介：国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員

内山大介：福島県立医科大学保健科学部 非常勤講師

内山大介：東北学院大学文学部歴史学科 非常勤講師

内山大介：八戸地方えんぶり調査委員会 調査委員

内山大介：郡山市文化財保護審議会 委員

内山大介：会津美里町郷土資料館（仮称）整備検討委員会 委員

内山大介：日本民俗学会 理事・評議員

内山大介：日本民俗学会 第41回研究奨励賞審査委員

内山大介：日本民具学会 理事・評議員

内山大介：現代民俗学会 研究企画委員

内山大介：福島県民俗学会 事務局長

内山大介：文化財保存修復学会第43回大会 実行委員

大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員会 会津坂下町教育委員会

大里正樹：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市

大里正樹：南島文化研究所特別研究員 沖縄国際大学南島文化研究所

大里正樹：福島県民俗学会幹事 福島県民俗学会

大里正樹：文化庁 調査員（文化財第一課）文化庁文化財第一課

大里正樹：三島町史編さん専門委員会 三島町教育委員会

大里正樹：福島大学 非常勤講師

大里正樹：福島県立医科大学 非常勤講師

川延安直：福島芸術計画運営委員会委員 福島県

川延安直：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議会委員会委員 いわき市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議会委員会委員 白河市教育委員会

- 川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
- 川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
- 川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
- 栗原祐斗：熊谷市史編集委員（近代・現代専門部会 特別調査員）
- 小林めぐみ：福島芸術計画運営委員会委員 福島県
- 小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
- 小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町
- 小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会
- 小林めぐみ：只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員 只見町
- 小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
- 小林めぐみ：無形文化財（工芸技術）の公開・活用に関する検討会委員 文化庁
- 小林めぐみ：福島市文化財保護審議会委員 福島市
- 小林めぐみ：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市
- 小林めぐみ：いわき芸術文化交流館アドバイザー いわき市
- 小林めぐみ：若松城天守閣展示リニューアル検討会委員 会津若松市
- 杉崎佐保恵：文化財保存修復学会第43回大会実行委員 文化財保存文化財保存修復学会
- 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会
- 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会
- 高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
- 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
- 高橋 充：神指城跡調査指導委員会委員 会津若松市教育委員会
- 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会
- 高橋 充：棚倉町中世城館等調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会
- 高橋 充：高寺山遺跡調査指導委員会 会津坂下町教育委員会
- 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会
- 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市
- 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会
- 高橋 充：只見町文化財調査委員 只見町教育委員会
- 高橋 充：福島県立医科大学 非常勤講師
- 高橋 充：「中近世移行期における南東北地方の基礎的研究」研究協力者 淑徳大学
- 高橋 充：「知識表現と観測による複合的博物館体験の知識化プロジェクト」協力者 会津大学
- 高橋 満：「資源利用史 研究クラスター」研究推進員 明治大学
- 高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員 富岡町
- 田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
- 田中 敏：御三階復元検討委員会委員 会津若松市教育委員会
- 田中 敏：会津藩主松平家墓所整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
- 田中 敏：会津藩主松平家墓所保存整備委員会委員 猪苗代町
- 田中 敏：白河市天王山遺跡検討委員会委員 白河市
- 塚本麻衣子：喜多方市文化財保護審議委員 喜多方市教育委員会
- 塚本麻衣子：会津坂下町仏像等悉皆調査委員会委員 会津坂下町教育委員会
- 筑波匡介：長岡造形大学 非常勤講師
- 筑波匡介：福島大学 非常勤講師
- 筑波匡介：福島県立医科大学 非常勤講師
- 筑波匡介：大熊町アーカイブ施設等整備検討委員会
- 原恵理子：大堀相馬焼伝統工芸工産地委員会委員 大堀相馬焼協同組合
- 原恵理子：福島県立医科大学 非常勤講師
- 原恵理子：あいづまちなかアートプロジェクト2022漆の芸術祭部会部会員 会津若松市
- 山口 拓：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

工. 研究助成金等

- 杉崎佐保恵：科研費・奨励研究 古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修復のための診断技術の確立

高橋満 科研費・基盤研究 (C)「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者

高橋満 科研費・基盤研究 (A)「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

筑波匡介 科研費・基盤研究 (B)「分断された地域コミュニティの「対立・葛藤変容」に向けた分析とプログラムの提示」研究協力

吉田純輝 科研費・若手研究「鳥類固有の発声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成機構と起源の解明～」研究代表者

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。令和3年度の各講座開催数は112、総参加者数は3,839人であった。今年度も新型コロナウイルス感染

対策として講座の中止・延期を行ったことに加え、定員を制限しての開催となった。しかし、感染対策の徹底や参加人数の緩和などの結果、講座数・参加者数は昨年度より回復した。以下は個別講座・講演等の一覧である。

令和3年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 特別講座	3	156
(2) 考古学講座	2	25
(3) 民俗講座	4	48
(4) 歴史講座	4	130
(5) 自然史講座	1	16
(6) 保存科学講座	1	5
(7) 美術講座	6	119
(8) 災害分野講座	2	29
(9) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等）	37	907
(10) ポイント展ミニ解説会	18	201
(11) けんぱくミュージアムイベント	3	237
(12) 子育て世代対応事業	12	305
(13) 三の丸からプロジェクト	11	1,265
(14) 特別プログラム	1	10
(15) 共催事業	1	11
(16) 後援事業	3	149
(17) ライフミュージアムネットワーク事業	1	53
(19) 友の会事業	2	173
計	112	3,839

令和3年度講座・講演会等行事一覧

(1) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 あはひのはなし『遠野物語』から2021年まで」	和合亮一（詩人） 土方正志（荒蝦夷 代表）	9月25日（土）	49
特別講座②「詩人のいる博物館 写真の力／言葉の力」	和合亮一（詩人） アイリーン・美緒子・スミス（写真家・環境ジャーナリスト）	1月15日（土）	29
特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」	和合亮一（詩人） 古川日出男（小説家）	3月5日（土）	78

(2) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤慎（学芸員）	11月23日（火）	17
勾玉をつくろう	平澤慎（学芸員） 田中敏（学芸員）	3月26日（土）	8

(3) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
記録映像で見るふくしまのくらし①		12月19日(日)	13
記録映像で見るふくしまのくらし②		1月16日(日)	11
記録映像で見るふくしまのくらし③		2月20日(日)	16
記録映像で見るふくしまのくらし④		3月20日(日)	8

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①「辞書と友だちになろう」	栗原祐斗(学芸員)	7月11日(日)	41
はじめてさんの古文書講座②「古文書を読んでみよう」	栗原祐斗(学芸員)	7月25日(日)	38
かじったさんの古文書講座①「その政宗文書は、本当に正しいか？」	高橋充(学芸課長)	11月14日(日)	27
かじったさんの古文書講座②「秀吉文書は、どうして大きいのか？」	高橋充(学芸課長)	11月28日(日)	24

(5) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司(野鳥研究家)	11月7日(日)	16

(6) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
古器旧物保存方太政官布告150年 明治時代より文化財保護のあゆみをふりかえる	杉崎佐保恵(学芸員)	11月27日(土)	5

(7) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談2「払うモノ 浄めるモノー武器の真髄」	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)	8月27日(金)	6
美術放談3「自然への憧憬」	川延安直(副館長) 塚本麻衣子(学芸員)	9月24日(金)	15
福島の仏像を修復してみて	松岡誠一(仏像文化財修復工房 代表)	10月3日(日)	33
やさしい焼きもの講座「会津本郷焼の魅力」	弓田修司(会津本郷焼事業協同組合代表理事)	11月13日(土)	16
美術放談4「くらしの中の文様・図様」	川延安直(副館長) 小林めぐみ・原恵理子(学芸員)	11月26日(金)	17
美術放談5「震災とアート」	川延安直(副館長) 小林めぐみ(学芸員)	3月25日(金)	32

(8) 災害分野講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
楽しいそなえ	筑波匡介(学芸員)	9月1日(水)	8
世界津波の日に読み直す・山口弥一郎『津浪と村』	内山大介(学芸員)	11月5日(金)	21

(9) 企画展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「会津の絵画」内覧会(友の会・報道向け)		4月23日(金)	17
学芸員のお気に入り特選解説会	川延安直(副館長)	5月1日(土)	8
「会津の絵画」展 よもやま話	川延安直(副館長)	5月1日(土)	23
学芸員のこだわり特選解説会	川延安直(副館長)	6月12日(土)	10

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「会津の絵画」展 こぼれ話	川延安直 (副館長)	6月12日(土)	23
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」オープニングセレモニー・内覧会 (友の会・報道向け)		7月17日(土)	40
講演会「幽霊や妖怪、それっていったいナニ?～見えないものを言葉にする、見えないものを見える化する～」	岡野定丸 (福島市松川 盛林寺住職)	7月17日(土)	62
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	7月18日(日)	23
ワークショップ「オリジナル妖怪○○○を描こう」	会津美術協会のみなさん 関本創 (妖怪博士)	7月22日(木)	19
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	7月23日(金)	35
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	8月9日(月)	33
講演会「みちのく怪談の魅力」	黒木あるじ (怪談作家)	8月14日(土)	47
ワークショップ「オリジナル妖怪○○○を描こう」	会津美術協会のみなさん 関本創 (妖怪博士)	8月15日(日)	13
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	8月28日(土)	28
ワークショップ「オリジナル妖怪○○○をつくろう IN けんぱく」	会津美術協会のみなさん 関本創 (妖怪博士)	9月4日(土)	5
講演会「もののけ、幽霊、妖怪の日本史」	小山聡子 (二松学舎大学文学部教授)	9月4日(土)	70
松原タニシトークライブ「あはひの存在と事故物件のあやかし」	松原タニシ (事故物件住みます芸人)	9月19日(日)	97
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	9月23日(木)	25
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	9月26日(日)	31
企画展「ふくしま 蕁の文化」内覧会 (友の会・報道向け)		10月8日(金)	18
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	10月9日(土)	21
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	10月23日(土)	13
講演会「神と人をつなぐ蕁の文化ー秋田人形道祖神プロジェクト (ANP) ×福島県立博物館ー」	小松和彦 (小松クラフトスペース) 宮原葉月 (イラストレーター)	11月3日(水)	41
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	11月6日(土)	8
講演会「縄文の時代より続いてきている「蕁の文化」ー福島県内の取組みから学ぶー」	宮崎清 (千葉大学名誉教授、三島町名誉町民)	11月20日(土)	68
実演「天栄村湯本の蕁のこと」	星崎奈美 (ワラ工房・茂次郎)	11月23日(火)	36
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	12月4日(土)	1
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	12月11日(土)	7
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	12月18日(土)	15
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里正樹 (学芸員)	12月19日(日)	10
特集展「貝殻パラダイス」内覧会 (友の会・報道向け)		1月22日(土)	6
特集展「貝殻パラダイス」展示解説会	相田優 (学芸員)	1月22日(土)	6
特集展「そなえの芽」内覧会 (友の会・報道向け)		2月11日(金)	2
防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」	関谷央子 (防災教育コーディネーター)	2月12日(土)	16
特集展「そなえの芽 ～災害から考えるあしたの暮らし～」展示解説会	筑波匡介・弦巻優太 (学芸員)	3月11日(金)	11
防災講座ワークショップ「さすけなぶる」	鈴木里美 (日本防災士会福島県支部 防災士)	3月12日(土)	11
防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」	筑波匡介・弦巻優太 (学芸員)	3月27日(日)	8

(10) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展「東北初発見！オオミツバマツ」ミニ解説会	猪瀬弘瑛（学芸員）	4月18日（日）	19
ポイント展「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」「奥羽再仕置430周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」ミニ解説会	高橋充（学芸課長）	6月20日（日）	16
ポイント展「くずし字に挑戦！①」ミニ解説会	阿部綾子（学芸員）	6月27日（日）	12
ポイント展「みんなの震災遺産」ミニ解説会	筑波匡介（学芸員）	7月4日（日）	2
ここがポイント！部門展示室・考古「会津大塚山古墳」ミニ解説会	平澤慎（学芸員）	7月11日（日）	35
ポイント展「復活！会津だるま」ミニ解説会	大里正樹（学芸員）	7月18日（日）	13
ポイント展「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」ミニ解説会	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月8日（日）	2
ポイント展「会津若松と軍隊」ミニ解説会	栗原祐斗（学芸員）	8月15日（日）	10
ポイント展「くずし字に挑戦！②」ミニ解説会	阿部綾子（学芸員）	8月29日（日）	18
ポイント展「発見！ハナワクジラ」ミニ解説会	猪瀬弘瑛（学芸員）	9月5日（日）	8
ポイント展「ふくしまを耕した古代の農具」ミニ解説会	山本俊（学芸員）	9月19日（日）	6
ポイント展「葬儀と民具」ミニ解説会	山口拡（学芸員）	10月3日（日）	9
ポイント展「ヒト形の付いた縄文土器」ミニ解説会	高橋満（学芸員）	10月24日（日）	10
ポイント展「くずし字に挑戦！③」ミニ解説会	阿部綾子（学芸員）	10月31日（日）	12
ポイント展「金属器を模倣した石器」ミニ解説会	田中敏（学芸員）	11月14日（日）	6
ポイント展「厄流しと宝船」ミニ解説会	内山大介（学芸員）	11月28日（日）	3
ポイント展「くずし字に挑戦！④」ミニ解説会	阿部綾子（学芸員）	12月5日（日）	16
ポイント展「暑さ寒さをしのぐ道具たち」ミニ解説会	江川トヨ子（学芸員）	1月23日（日）	4

(11) けんぱくミュージアムイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
けんぱく映画会「カッパの三平」		8月7日（土）	73
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	8月21日（土）	78
けんぱくクリスマスコンサート	秋本悠希（声楽）、本山乃弘（ピアノ）	12月12日（日）	86

(12) 子育て世代対応事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／たんぽぽの会	4月10日（土）	25
こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部の皆さん	5月2日（日）	85
ワークショップ「ノコリノカタチ ウマレルカタチ～木片をつかってつくろう！～」	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	5月2日（日）	18
博物館でもよみきかせ	手作り絵本の会	6月12日（土）	9
博物館でもよみきかせ	ハーモニー／当館学芸員	7月10日（土）	28
博物館でもよみきかせ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	8月7日（土）	36
親子で探検！博物館のウラ側	当館学芸員	8月22日（日）	28
博物館でもよみきかせ	マザーグース／おはなしの会ゆがわ	9月11日（土）	25
博物館でもよみきかせ	坂下町読み聞かせの会	10月9日（土）	18
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／ゆかいな仲間たち	11月13日（土）	6
博物館でもよみきかせ	会津大学短期大学部の皆さん／ゆかいな仲間たち	1月8日（土）	10
あそびワークショップwith会津短大	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	3月26日（土）	17

(13) 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼蔵出し大活弁」	山田広野 (活弁士)	8月14日(土)	19
まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼あやかし大活弁」	山田広野 (活弁士)	8月28日(土)	21
まちなか連携事業「宵まち会津 会津怪談録・令和ノ変」	黒木あるじ (怪談作家)	9月11日(土)	16
まちなか連携事業「宵まち会津 語りで繋ぐみちのくの妖怪」	ゆうか (妖怪朗読家)	9月18日(土)	13
雪国ものづくりマルシェ		10月10日(日)	1,088
体験型プログラム「織元にきく! 会津木綿のお話一編と現在、そしてこれから」	山田悦史 (山田木綿織元) 原山修一 (株式会社はらっぱ) 谷津拓郎・千葉崇 (株式会社IIE)	11月3日(水)	14
体験型プログラム「ワークショップ 会津木綿のハギレではたきをつくろう!」	株式会社はらっぱのみなさん	11月6日(土)	18
体験型プログラム「ワークショップ またたびランチョンマットをつくろう」	市川里美 (またたび工房・癒里)	11月20日(土)	6
体験型プログラム「実演 演武! AIZU居合道」	國分修一・猪俣伊祐 (福島県剣道連盟会津若松居合道部会)	12月4日(土)	17
体験型プログラム「ワークショップ またたびストラップをつくろう」	市川里美 (またたび工房・癒里)	12月5日(日)	13
体験型プログラム「実演 演武! AIZU居合道」	國分修一・猪俣伊祐 (福島県剣道連盟会津若松居合道部会)	12月18日(土)	40

(14) 特別プログラム

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館を利用した学び研修会	当館学芸員	11月25日(木)	20

(15) 共催事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
実技講座「鉱物標本をつくろう!」	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月8日(日)	11

(16) 後援事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
鈴善漆器店国有有形文化財登録竹藤リニューアル一周年記念座談会	鈴木勝健 (鈴善漆器店会長) 新城希子 (末廣酒造専務) 笠間和歌子 (竹藤) 小林めぐみ (学芸員)	10月2日(土)	26
会津民俗研究会 講演会	会津民俗研究会	3月19日(土)	43
中世考古学の世界	東北中世考古学会・東國中世考古学研究会	3月20日(日) 21日(月)	80

(17) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ラウンドテーブル「開く、ミュージアム」	柳沢秀行 (大原美術館学芸統括) 楠本智郎 (つなぎ美術館主幹・学芸員) 岡村幸宣 (原爆の凶丸木美術館学芸員) 川延安直 (副館長)	1月23日(日)	53

(18) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
友の会第1回講演会「会津の大地が震えた日ー410年前の慶長会津地震をふりかえるー」	竹谷陽二郎（磐梯山ジオパーク協議会） 高橋充（学芸課長）・筑波匡介（学芸員）	12月16日（木）	100
友の会総会・第2回講演会「法正尻遺跡から縄文時代の生活を見ると」	松本茂（日本考古学協会会員）	3月13日（日）	73



考古学講座「歩いて学ぶ会津大塚山古墳」



考古学講座「勾玉をつくろう」



歴史講座「はじめてさんの古文書講座」



自然史講座「鶴ヶ城の野鳥」



企画展「会津の絵画」展よもやま話



ポイント展ミニ解説会



博物館でも読み聞かせ



親子で探検！博物館のウラ側

(2) けんぱくミュージアムイベント

気軽な雰囲気の中で福島の文化に触れていただくイベント。また、県民の皆様にも博物館を身近に感じていただく機会となるよう、今まで博物館に縁遠かった人々を含め様々な人の集う空間になるよう企画し、3件実施した。

なお年度当初には6件のイベント開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため下記の3件が中止となり、当初予定の半数の開催となった。

「玄如節と日本の民謡」、「会津磐梯山市民盆踊り」「会津の彼岸獅子」

ア. けんぱく映画会 アニメーション「カップの三平」

(ア) 日 時 令和3年8月7日(土)
13時30分～15時00分

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 73人

(エ) 内 容

毎年恒例の映画会を講堂にて開催した。夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」と連動した企画である。映画の原作は水木しげるで、人と人間以外の生物の交流を描いた作品であり、家族連れでの参加者が多かった。



けんぱく映画会「カップの三平」

イ. 夏休みナイトミュージアム

(ア) 日 時 令和3年8月21日(土)
17時00分～19時30分

※博物館閉館後

(イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室

(ウ) 参加者数 78人

(エ) 講 師 学芸員

(オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の中、真暗な展示室を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。新型コロナウイルス感染症対策として、

入館者を時間ごとの少人数制として対応した。直接の資料解説は行わずグループ毎の探索ミッションとし、関係した資料をシートにまとめて解説の代わりとした。今年度は前年度より参加人数の制限を緩和した。参加者への退館時の聞き取りでは概ね良好な評価を頂いている。



夏休みナイトミュージアム

ウ. けんぱくクリスマスコンサート

(ア) 日 時 令和3年12月12日(日)
13時30分～15時

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 86人

(エ) 出 演 秋本悠希(声楽・メゾソプラノ)、
本山乃弘(ピアノ)

(オ) 内 容

普段は博物館になかなか来館できない子育て世代の親子あるいは祖父母と孫といった保護者と保護対象者に、音楽を通じて博物館に親しんでもらうために開催した。馴染みのあるクリスマスソングからポピュラー音楽まで、日本語や英語での歌唱を取り混ぜた本格的なコンサートとなった。本事業を通じて、子育て世代にも博物館が利用しやすい場所であることへの理解を深めていただく機会となった。



けんぱくクリスマスコンサート

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア. 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

新型コロナウイルス感染防止対応のため、展示室での密集を避けられるよう常設展示室を個人で見学できるワークシート（「キミだけの「たからもの」をさがそう！」）を当館ホームページで公開し、あらかじめダウンロードしていただけるようにしている。



学習プログラム実施状況

福島県立博物館 を見学した日： 月 日

ミッション：博物館でキミだけの「たからもの」をさがそう！
 すてきなもの・かっこいいもの・ふしぎなもの…博物館には様々な「たからもの」があります。
 その数、なんと100,000点！ このうち、展示室には約1,200点が展示されています。
 このなかから、キミだけの「たからもの」を探し出して、みんなにおしえよう！

ミッションを完了するための方法

- ◆ステップ1 常設展示室をよく観察して、どんなものがあるのか確認しよう
- ◆ステップ2 「たからもの」の中から、キミのお気に入り4つ探し出そう！
- ◆ステップ3 ナンバーワンの「たからもの」のデータをつくらう！

◆展示室をよく観察して、お気に入り4つ探し出そう！
 （わくの中に名称を書いて、見つけた場所の地図と矢印でつないでね）

れい：

赤糸おとし大よろい

このなかから、わたしが選んだナンバーワンの「たからもの」は……（次へ）

キミだけの「たからもの」をさがそう！

イ. 学習プログラム

今年度も、課外授業・修学旅行の学校団体に対応し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。特に小学生の場合は歴史学習に触れて間もないため、どうしても観覧の仕方が散漫になってしまう場合が多い。事前に観覧のポイントが押さえられることで、学習効果が高まることも期待され、学校団体からの依頼も多い。

また、支援学校や未就学児の教育・保育施設（幼稚園・こども園等）といった団体に対しては、児童・生徒の理解度や興味関心に即した独自のプログラムを作成し提案した。



学習プログラム実施状況

令和3年度学習プログラム実施状況

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加人数
1	4月22日	会津若松市立城西小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	97
2	4月28日	福島医大保健科学部1年生	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	240	143
3	5月12日	家庭教育放送セミナー	企画展解説「会津の絵画」	60	8
4	6月10日	会津若松市立城北小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、3展開	110	70
5	6月12日	福島大学行政政策学類	県立博物館について、バックヤード見学（博物館実習の一環として）	330	14
6	6月15日	仙台市立田子小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	98
7	6月17日	郡山市立穂積小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	23
8	6月17日	仙台市立旭丘小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	75	56
9	6月22日	会津若松市市立湊小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	11
10	6月23日	会津慈光こども園	企画展解説「会津の絵画」	60	52
11	6月24日	喜多方市塩川公民館	企画展解説「会津の絵画」	90	10
12	6月25日	慈光第二こども園	企画展解説「会津の絵画」	60	48
13	6月25日	燕市立小池小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	52
14	6月30日	仙台市立高森東小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	48
15	7月1日	会津若松市立一箕中学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	123
16	7月1日	大和町立落合小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	11
17	7月1日	仙台市立鹿野小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	65
18	7月6日	福島県立会津支援学校竹田校	常設展解説	150	2
19	7月8日	福島市立大森小学校	防災講座、2展開	90	130
20	7月20日	会津慈光こども園	常設展通し解説/企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」	60	70
21	7月20日	慈光第二こども園	常設展通し解説/企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」	60	43
22	7月28日	駒形地区公民館	企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」	60	20
23	7月29日	喜多方市公民館	常設展通し解説/企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」	120	15
24	8月24日	広瀬コミュニティセンター	企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」	120	20
25	8月26日	会津若松ザベリオ学園小学校	常設展解説	90	29
26	9月2日	会津若松ザベリオ学園小学校	常設展解説	90	29
27	9月7日	会津美里町立高田中学校	テーマ別学習講座（歴史、民俗、美術）	120	60
28	9月7日	本宮市立岩根小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	65
29	9月8日	適応指導教室「ひまわり」	企画展解説「あはひのクニ あやかしのクニ」（LMN関連事業）	90	15
30	9月9日	若松第四中学校	テーマ別学習講座「大塚山古墳」、3展開	210	50
31	9月9日	若松第三中学校	テーマ別学習講座（企画展、歴史、民俗、美術）	180	16
32	10月1日	会津坂下町立南小学校	テーマ別学習講座（自然）	60	57
33	10月7日	相馬市立飯豊小学校	テーマ別学習講座（歴史）	75	37
34	10月15日	須賀川市立義務教育学校稲田学園	常設展通し解説	60	30
35	10月20日	田村市立芦沢小学校	企画展解説「ふくしま 藁の文化」	75	17
36	10月20日	本宮市立白岩小学校	防災講座	120	22
37	10月21日	伊達市立堰本小学校	常設展通し解説	80	12
38	10月22日	福島県立会津支援学校高等部	テーマ別学習講座（歴史）	60	5
39	10月26日	会津わくわく学園	常設展通し解説	60	13
40	10月26日	富谷市立成田小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	70	69
41	10月27日	喜多方市立中央公民館	企画展解説「ふくしま 藁の文化」	120	45
42	10月27日	本宮市中央公民館	企画展解説「ふくしま 藁の文化」	60	15
43	10月28日	会津若松市立松長小学校	学習講座「戸ノ口堰 安積疎水について」	120	45
44	10月28日	二本松市立石井小学校	常設展通し解説	80	17
45	10月28日	桜の聖母学院小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	28

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加 人数
46	10月28日	七ヶ浜町立汐見小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	75	61
47	10月29日	大和町立小野小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	90	139
48	10月30日	福島県立医科大学	学習講座「ふくしまの歴史」、2展開	240	15
49	11月2日	石巻市立中津山第一小学校	常設展通し解説	60	10
50	11月2日	郡山市立高瀬小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	70	34
51	11月9日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	90	110
52	11月10日	適応指導教室「ひまわり」	企画展解説「ふくしま 藁の文化」(LMN関連事業)	60	15
53	11月11日	二本松市立原瀬小学校	常設展通し解説	90	15
54	11月11日	あおい学園	企画展解説「ふくしま 藁の文化」	60	20
55	11月11日	伊達市立大田小学校	常設展通し解説	80	11
56	11月12日	幸手市立上高野小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	55
57	11月16日	本宮市立糠沢小学校	防災講座	45	40
58	11月17日	茶道石州流宗家会津支部	テーマ別学習講座(歴史)	150	31
59	11月19日	郡山市立行徳小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	47
60	11月24日	田村市立船引小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	180	136
61	11月25日	慈光第二こども園	企画展解説「ふくしま 藁の文化」関連ワークショップ	75	48
62	11月26日	会津慈光子ども園	企画展解説「ふくしま 藁の文化」関連ワークショップ	75	51
63	11月26日	喜多方市中央公民館	常設展通し解説/企画展解説「ふくしま 藁の文化」	120	19
64	11月26日	二本松市立新殿小学校	常設展通し解説	75	12
65	12月2日	会津若松市立鶴城小学校	学習講座「郷土の発展に尽くす」	120	51
66	12月7日	会津若松ザベリオ学園小学校	常設展解説	90	26
67	12月8日	適応指導教室「ひまわり」	常設展見学、ワークショップ(LMN関連事業)	60	17
68	12月10日	福島県立遠野高等学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	75	33
69	12月12日	障がい者の明日を考える会	企画展解説「ふくしま 藁の文化」	120	25
70	12月12日	郡山女子大学短期大学部地域創生学科	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	150	10
71	12月17日	湯川村立勝常小学校	常設展通し解説	80	10
72	12月17日	福島県立会津支援学校竹田校	常設展解説	120	2
73	12月18日	会津大学短期大学部	「工芸概論」学外授業(美術)	150	10
74	12月22日	東北生活文化大学	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	150	12
75	12月23日	福島県立会津支援学校竹田校	常設展解説	120	2
76	1月19日	適応指導教室「ひまわり」	テーマ別学習講座(美術)(LMN関連事業)	80	15
77	1月20日	会津若松市立川南小学校	体験プログラム「昔の道具」	150	18
78	1月21日	郡山市立熱海小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	26
79	1月23日	阿賀川川の達人の会	分野別講座「自然講座」	60	20
80	2月2日	会津若松市立鶴城小学校	体験プログラム「昔の道具」	95	44
81	2月9日	会津若松市立湊小学校	体験プログラム「昔の道具」	100	12
82	2月15日	会津若松市立謹教小学校(3年生)	体験プログラム「昔の道具」	90	31
83	2月16日	会津若松市立行仁小学校	体験プログラム「昔の道具」	110	37
84	2月16日	適応指導教室「ひまわり」	常設展見学、ワークショップ(LMN関連事業)	80	15
85	2月22日	会津若松市立謹教小学校(3年生)	体験プログラム「勾玉づくり」、2展開	150	31
86	2月22日	会津若松市立松長小学校(3年生)	体験プログラム「昔の道具」	90	41
87	2月25日	会津坂下町立東小学校	体験プログラム「昔の道具」	90	39
88	3月2日	適応指導教室「ひまわり」	テーマ別学習講座(美術)(LMN関連事業)	80	15
89	3月3日	大熊町立小・中学校	常設展テーマ解説、防災講座	90	9
90	3月9日	適応指導教室「ひまわり」	テーマ別学習講座(美術)(LMN関連事業)	80	15

ウ. 未就学児対応プログラム

前年度の試行の検証を踏まえて、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」の園児たちに延べ7回実施した。



未就学児対応プログラム実施状況

エ. 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすることで、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。令和3年11月25日（木）に10名の参加者を得て開催したが、教員および各市町村の生涯学習に携わる方の参加がみられた。

令和3年度 博物館を活用した学びプログラム研修会

時間	内容
13:00～13:10	開会挨拶
13:10～13:40	講座「博物館の団体向けプログラムについて」
13:45～14:25	学習講座体験「ここがポイント！会津大塚山古墳」
－昼食・休憩－	
14:35～15:05	講座「民具を利用した回想法プログラム」
15:10～15:50	事例報告「企画展「ふくしま菓の文化」における小学校との協働」
15:50～16:00	閉会挨拶

定員30名



指導者向け研修

オ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度は新型コロナウイルス感染症の予防もあり、貸出事業は停止となった。停止期間を活かし、各分野にて貸出用具・教材の見直しを図り、再開への準備を整えた。

カ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

令和3年度の実施回数は20回で、参加者は1,983人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	科目	受講者数
1	6月23日	高橋満 平澤慎	考古	四穂田古墳出土品体験学習	中島村立滑津小学校 (会場：中島村生涯学習センター輝ら里)	6年生 (社会科)	24
2	6月23日	高橋満 平澤慎	考古	四穂田古墳出土品体験学習	中島村立吉子川小学校 (会場：中島村生涯学習センター輝ら里)	6年生 (社会科)	12
3	6月23日	高橋満 平澤慎	考古	四穂田古墳出土品体験学習	中島村立中島中学校 (会場：中島村生涯学習センター輝ら里)	1年生 (社会科)	35
4	7月2日	相田優 (江川トヨ子)	自然	石はどうやってできるの だろう	学校法人慈光こども園 (慈光第二こども園と合同)	年長児	113
5	9月9日	平澤慎	考古	大塚山古墳	会津若松市立第四中学校	1年生	25
6	9月16日	栗原優斗	歴史	博物館のはたらきと学芸員 の仕事	会津若松ザベリオ学園小学校	4年生 (総合的な学習)	26
7	10月6日	筑波匡介 弦巻優太	災害	防災教室	会津若松市立行仁小学校	4年生	48
8	10月12日	筑波匡介 弦巻優太	災害	震災遺産講座	喜多方第一中学校	1年生	90
9	10月13日	弦巻優太	災害	防災講座	一箕小学校	4年生	101
10	10月15日	筑波匡介 弦巻優太	災害	震災遺産講座	喜多方第一中学校	3年生	89
11	10月15日	筑波匡介 弦巻優太	災害	震災遺産講座	喜多方第一中学校	2年生	87
12	10月26日	筑波匡介	災害	防災講座	新鶴中学校	1.2.3年生	95
13	11月10日	筑波匡介	災害	防災講座	会津若松市立第二中学校	1.2.3年生	257
14	11月10日	筑波匡介 弦巻優太	災害	防災講座	福島市立中野小学校	2～6年生	13
15	11月15日	筑波匡介	災害	避難所設営訓練	喜多方第一中学校	1.2.3年生	266
16	11月17日	小林めぐみ	美術	キャリアガイダンス	福島県立橋高等学校	1年生	280
17	11月24日	筑波匡介	災害	防災教育体験活動	郡山市立小原田小学校	6年生	79
18	11月30日	筑波匡介	災害	防災講座「避難所で中学生 ができること」	会津柳津学園中学校	1.2.3年生	77
19	2月17日	筑波匡介 弦巻優太	災害	震災遺産講座	大熊町立大熊中学校	全校生徒	4
20	3月8日	筑波匡介	災害	避難所設営訓練	会津若松市立第二中学校	3年生 (社会科)	82
21	3月9日	筑波匡介	災害	避難所で中学生ができる こと	会津若松市立第二中学校	全校生徒	180
受講者合計							1,983

キ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和3年度は5校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○受け入れ実績（生徒のみ）

- ・ 県立会津支援学校竹田校中学部
（2年生：1名） 2日間
- ・ 若松第一中学校
（2年生：4名） 2日間

・ 湊中学校

（2年生：1名） 1日間

・ 三島中学校

（2年生：1名） 1日間

・ 県立大沼高等学校

（2年生：1名） 3日間

ク. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。実習の受入対象者の条件は、従前の（1）県内所在の大学に在籍する学生、

(2) 福島県出身の学生に加え、令和3年度より(3)(1)・(2)以外で当館の使命に共感し当館での実習を強く希望する学生という条件を新規に設けた。令和3年度は学生9名(申込は10名)を受け入れ、内1名は条件(3)を満たした学生であった。演習では、「体験によって博物館からの学びや楽しさを

どのように伝えることができるかを念頭におきながら感染症対策を講じながら体験して学べるプログラムを考案する。」というテーマで体験学習室のプログラムを考案し、ペーパークラフトやお面作りを実践した。

実習期間 8月24日(火)～8月29日(日)

実習生所属大学一覧

No	大学名	人数
1	新潟大学	2
2	聖心女子大学	2
3	帝京大学	1
4	淑徳大学	1
5	東京農業大学	1
6	立正大学	1
7	愛知県立芸術大学	1
	合 計	9



博物館実習（歴史資料の取り扱い）

福島県立博物館 令和3年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所	
8月 24日 (火)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室	
	9:00～ 9:10	実習生紹介	実習担当	事務室	
	9:10～ 9:40	オリエンテーション	実習担当	第2会議室	
	9:50～10:30	福島県立博物館の概要	学芸課長	第2会議室	
	10:40～11:10	博物館の企画運営・展示	企画推進班(内山)	第2会議室	
	11:10～11:40	博物館資料の収集と保管・調査研究	企画推進班(内山)	第2会議室	
	11:40～12:00	常設展・企画展の見学		展示室	
		昼食			
	13:00～13:30	博物館の広報・教育普及について	連携交流班(小林)	第2会議室	
	13:40～15:40	歴史資料の取り扱い	歴史分野(高橋充・阿部・栗原)	実習室	
15:50～16:40	演習	実習担当	第2会議室		
16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	実習担当	第2会議室		
25日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室	
	9:00～10:00	施設・設備(バックヤード等)の見学	実習担当	バックヤード	
	10:00～12:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野(大里・江川・内山・山口)	第一収蔵庫・写真室・荷解き場	
		—昼食—			
	12:00～13:00	考古資料の取り扱い	考古分野(高橋満・山本・平澤・田中)	第2収蔵庫・写真室	
	15:10～16:30	演習	実習担当	第2会議室	
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
26日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室	
	9:00～10:00	図書資料の取り扱い	長澤・相田	実習室	
	10:00～12:00	演習	実習担当	第2会議室	
		—昼食—			
	12:00～13:00	自然資料の取り扱い	自然分野(猪瀬・吉田・相田)	第2収蔵庫	
	15:10～16:30	演習	実習担当	第2会議室	
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
27日 (金)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～11:00	美術資料の取り扱い	美術分野(小林・塚本・原・川延)	第2会議室
	11:10～12:00	資料の保存	保存科学分野(杉崎)	講堂
	—昼食—			
	12:00～13:00			
	13:00～16:30	演習	実習担当	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
28日 (土)	9:00～ 9:10	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:15～12:00	演習	実習担当	第2会議室
	—昼食—			
	12:00～13:00			
	13:00～16:00	演習	実習担当	体験学習室
	16:00～16:30	講評	実習担当	体験学習室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
29日 (日)	9:00～ 9:10	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:15～11:15	震災遺産について	災害分野(筑波・弦巻)・震災遺産T	実習室
	11:15～12:00	演習	実習担当	体験学習室
	—昼食—			
	12:00～13:00			
	13:00～16:30	まとめ	実習担当	体験学習室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	

(4) 生涯学習・家庭教育・研究支援

ア. 相談コーナー

相談コーナーは、学芸員が来館者からの質問や相談に答えたり、来館者が自発的に学習したりするためのスペースとしてエントランスホールの一隅に設置されている。相談コーナーには展示図録・報告書・紀要など当館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を排架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、来館者が自由に閲覧できる。現在の排架図書数は2,788冊である。

来館者が相談コーナーの図書を利用するに当たっては、昨年度に引き続き本年度も、新型コロナウイルス感染症対策を施した運用を実施した。相談コーナーに利用済み図書の返却箱を設け、来館者には、利用した図書をもとの書架に戻さず返却箱に入れていただくよう、表示で促した。返却箱に入れられた図書は、毎日閉館後に箱ごと図書室へ運び、最低でも24時間のウイルス不活性化時間を経たのちに相談コーナーの書架へ戻すこととした。これらの作業には、主として図書担当資料整理員(司書)が当たった。

なお、返却箱へ返却された図書の月別冊数を表に示す。

相談コーナー図書返却箱に返却された図書の月別冊数
(令和3年4月～令和4年3月)

月	開館日数	返却冊数
4	26	76
5	26	37
6	25	42
7	27	85
8	27	165
9	26	136
10	27	66
11	25	52
12	22	38
1	23	42
2	23	30
3	27	35
計	304	804

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：5件882点 歴史：17件567点

民俗：5件150点 美術：3件60点

計30件1,659点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和3年度の派遣回数は22回で、参加者は596人であった。

エ. 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「こどもミニミニ博物館」を実施したほか、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案しワークショップを下記のとおり実施した。

第1回目

令和3年5月2日(日)「こどもミニミニはくぶつかん」

*場所：体験学習室 6回実施

定員：各回5グループ 実施時間：20分

第2回目

令和3年5月2日(日)「ワークショップ「ノコリノカタチ ウマレルカタチ ～木片をつかってつくろう！～」」

*場所：体験学習室 6回実施

定員：各回5グループ 実施時間：20分

第3回目

令和4年3月26日(土)「あそびワークショップwith会津短大」

*場所：体験学習室 2回実施

定員：各回5グループ 実施時間：30分

講師派遣一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催	参加者
1	5月7日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	国立磐梯青少年交流の家	18
2	5月15日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	福島大学	41
3	5月29日	高橋満	考古	中才遺跡出土の製塩土器を考える	仙台市縄文の森広場	51
4	6月30日	平澤慎	考古	喜多方市灰塚山古墳について	喜多方市山都公民館	22
5	7月2日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科	16
6	7月14日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	東北大学文学研究科・文学部 日本史研究室	9
7	9月3日	筑波匡介	災害	災害食づくり	北会津公民館	28
8	9月8日	高橋充	歴史	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学	15
9	9月8日	原恵理子	美術	大堀相馬焼の歴史	大堀相馬焼協同組合	50
10	9月22日	栗原優斗	歴史	福島県の観光の歴史	福島県立医科大学	15
11	10月3日	内山大介	民俗	山口弥一郎がいわきに残したものー磐城高等女学校と磐城民俗研究会ー	いわき市暮らしの伝承郷	20
12	10月3日	阿部綾子	歴史	会津藩士の謹慎ー若松開城から斗南移住の間を追うー	喜多方市中央公民館	79
13	10月8日	栗原優斗	歴史	戦時下の福島県	いわき市・いわき市生涯学習推進本部・いわき市教育委員会	47
14	10月13日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	福島県立医科大学	15
15	10月20日	小林めぐみ	美術	教養の充実「暮らしを彩る器」	福島市三河台学習センター	47
16	10月27日	原恵理子	美術	焼きものの基本と会津本郷焼	福島県立医科大学	15
17	11月7日	筑波匡介	災害	福島県立博物館の震災遺産について	ぼうさいこくたい	10
18	11月12日	吉田純輝	自然	棚倉町の土地を学ぶ～足元にある化石と断層～	棚倉町役場 地域創生課	24
19	11月30日	塚本麻衣子	美術	会津の仏像について	喜多方市山都公民館	20
20	12月12日	筑波匡介	災害	3.11東日本大震災の教訓	放送大学会津学知会	17
21	1月29日	猪瀬弘瑛	自然	相馬の地質と古生物	相馬郷土研究会	17
22	3月30日	筑波匡介 相田優	災害 自然	特集展「そなえの芽」「貝殻パラダイス」 解説会	昭和村公民館	20
参加者数合計						596

(5) 動画の作成と配信

令和2年度に引き続き、美術分野を中心に動画の制作を行い、YouTube公式チャンネルにアップロードし、WebサイトやSNSで公開情報を発信した。

新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、春の企画展開催中は外出自粛やイベントの中止が続いた。来館しづらい方はもちろん、それ以外の方にも展示の内容を親しみやすく伝える手段として、展示の内容を紹介する「にちようはくぶつかん」シリーズを作成、公開した。また、中止となった講座の代替として「にちようはくぶつかんスペシャル」を作成し公開した。

テーマ展「美しき刃たちーいわき編」に関連して、「にちようはくぶつかん」作品解説編と動画で見てみる刀剣講座編を作成、公開した。福島市在住の刀匠・藤安将平氏にご協力いただき、展示会場での藤安氏の作品解説、鍛刀場での藤安氏、お弟子さんへのインタビュー、及び刀の鍛錬の様子を撮影させていただいた。動画で見てみる刀剣講座編はテーマ展関連イベント「触って見てみる刀剣講座」の中止にともない制作したものだが、普段見ることのない鍛刀の様子貴重な記録ともなり、多くの方に好評をいただいた。

テーマ展「震災とアート」では、震災後に福島で作品を制作した写真家・美術家のオンライントークを収録し、「にちようはくぶつかん」として公開した。

そのほか、特別講座の記録動画、ポリフォニックミュージアム映像作品やラウンドテーブル記録動画（制作：ライフミュージアムネットワーク実行委員会、福島県立博物館事務局）を公開した。

YouTube当館公式チャンネルでは、令和3年度中に35本の動画を公開、チャンネル登録数は年度末までに291人、令和3年度の合計視聴回数は10,526回であった。博物館の新たな情報発信ツールとして動画公開が定着し、重要性を増していると言える。その一方で、新たなシリーズの作成や、長編・短編のバリエーションある展開などに課題があり、年間計画を立てるなどの方策が必要である。

(6) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援

などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

令和4年3月13日（日）に開催した。令和3年度の事業・会計決算報告と令和4年度の事業・予算案を審議し、承認された。また、各サークルの活動報告が行われた。

④令和3年度会員数

個人会員：122 家族会員：32

高校生会員：0 賛助会員：5 合計：159

イ. 令和3年度事業概要

(ア) 講演会等の開催

○講演会の開催

演 題：「会津の大地が震えた日ー410年前の慶長会津地震をふりかえるー」

日 時：令和3年12月16日（木）

13:30～16:00

講 師：高橋充（当館学芸課長）、竹谷陽二郎氏（磐梯山ジオパーク協議会運営委員長）、筑波匡介（当館学芸員）

会 場：博物館講堂

来場者：100名

○総会開催時講演会の開催

演 題：「法正尻遺跡から縄文時代の生活を見ると」

日 時：令和4年3月13日（日）

13:00～15:30

講 師：松本茂氏（日本考古学協会会員）

会 場：博物館講堂

来場者：73名

(イ) 研修旅行

県内外における新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、今年度の研修旅行の実施は見送られた。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第124号・第125号・第126号を発行し会員に配布した。総会の総括、企画展内覧会に参加された会員からの感想、サークルの紹介等を掲載した。また、講演会では時間の都合もあり寄せられた質問全

てに答えることができなかつたため、誌上での回答を新たに試みた。

(工) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

4月23日(金)「会津の絵画」14名参加

7月17日(土)「あはひのクニ あやかしのクニ」27名参加

10月8日(金)「ふくしま 蕁の文化」15名参加

1月22日(土)「貝殻パラダイス」5名参加

2月11日(金)「そなえの芽」1名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。



企画展「ふくしま 蕁の文化」内覧会の様子



「会津の大地が震えた日-410年前の慶長会津地震をふりかえる-」広報チラシ

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和3年度は次の活動を行った。

- ① 7月10日 化石・鉱物探検隊ミニ成果展
～ 8月15日 開催
- ③ 9月12日 伊南富鉱山(閃亜鉛鉱・黄銅鉱など)
- ④ 11月7日 館岩鉱山(藍銅鉱・青鉛鉱・方解石など)
- ⑤ 12月5日 化石・鉱物学習会
- ⑥ 3月6日 総会(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、A～Eの5班編制で古文書の解説・考察にあたり、順番に発表を行う形で学習活動を続けてきた。テキストは当初から県指定文化財の築田家文書(福島県立博物館寄託)を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断(町役人)を務めた家で、伝来した文書は城下の様子を伝える良質な資料であるため、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。令和3年度は前年度に引き続き、会津藩の産物の出荷・流通にかかわる記録「御国産一件 式」を読み進めた。

当会は通常月1回(第二土曜日)・年間12回の活動計画であるが、前年度に引き続き令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同会の判断もあり4月・7月・1月の3回の開催にとどまった。

また、近年B班とE班の人数が減少し、班人数のバランスが不均衡となったため、令和3年度は班体制を見直し、5班からA～Dの4班体制となった。

3. 考古学倶楽部

本会は、考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考

古学関連の展覧会の見学などの事業をとおし、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

令和3年度に実施した主な事業は以下のとおりである。

- 4月10日 設立総会
- 6月19日 展覧会見学報告 情報交換
- 7月17日 栗林遺跡（下郷町）遺跡現地説明会参加
- 7月20日 会津坂下町埋蔵文化財センター見学 町内古墳現地研修
- 10月16日 研修会「考古学入門」学芸員による講話
- 11月14日 博物館ポイント展「金属器を模倣した石器」ミニ解説会参加
- 11月20日 研修会「会津に人が住みはじめたころ」会員による講話
- 12月5日 全体会合「初年度の活動について」
- 3月5日 総会



会津坂下町埋蔵文化財センター見学

4. 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。発足時の会員は11名。

本年度は会の体制作りや学習の進め方について、各会員が興味関心を抱いているテーマを反映させながら議論を進めた。また、当館学芸員から基本的な仏像の見方についてレクチャーを受けるとともに、各自による自主学習の成果発表、実際に寺院を訪れての仏像見学等を行った。



学芸員からレクチャーを受ける会員

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

令和3年度は、令和2年度に発刊した広報紙「なじよな」をより内容を充実させ、特別号、4～6月号（6号）、7・8月号（7号）、9・10月号（8号）、11・12月号（9号）、1～3月号（10号）を発行した。年度当初の特別号では、博物館の四季折々の見どころや、

各年代層に応じたプログラムなどを紹介し、博物館の様々な楽しみ方案内とした。通常号では、展示やイベントの案内の他、子ども向けの連載や学芸員の仕事の紹介など、より親しみやすい紙面をめざした。

年間催し物案内は、令和3年度企画展の注目される資料をワンポイントとしてあしらい、目を引き、かつ見やすいデザインを心掛けた。

福島県立博物館 令和3年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」 2,500枚 企画展「ふくしま 蕁の文化」 2,600枚 次年度企画展「アンモナイト合戦」 3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4 「あはひのクニ あやかしのクニ」は A3変形二つ折り	企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」 50,000枚 企画展「ふくしま 蕁の文化」 65,000枚 特集展「貝殻パラダイス！」（館内印刷） 17,000枚 特集展「そなえの芽」（館内印刷） 17,000枚 次年度企画展「アンモナイト合戦」 40,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み（会津若松市内の購読世帯）
新広報物『なじよな』7号～11号・2022特別号	A2 4つ折り	20,000枚×6回＝120,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	22.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回＝45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
プレス・リリース（企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供）	A4 （館内印刷）	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月
<p>春の企画展 会津の絵画～福島県立博物館収蔵品を中心に～ 会期:4月24日(土)～6月27日(日)</p> <p>福島県立博物館が所蔵する歴史的な絵画を中心に、会津地方の近代・現代絵画を紹介。加藤清村ら会津藩城下、谷文吉門下の流行木版、道喜斎、明治以降に会津地域で活躍した画人、大正時代に活動した若手多岐美術倶楽部関係資料など約100点。</p> 	<p>夏の企画展 あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～ 会期:7月17日(土)～9月26日(日)</p> <p>東北の入口、福島県。そこは、この世界と別の世界の間にある「あはひ(=あ)のクニ」。そして妖怪や幽霊をはじめとする怪異が溢れる「あやかしのクニ」でした。私たちの眼にもう一つの世界がここから、時空を超えて見えてくるような不思議なモノたち。それらを通じて、ふくしまという奇妙で魅力的な不思議なクニをご紹介します。</p> 	<p>秋の企画展 ふくしま 藁の文化～わらって、すげえんだがら～ 会期:10月9日(土)～12月19日(日)</p> <p>稲の副産物である藁からは、身近なところでも優れた素材としていろいろな道具作りに使われてきた。しめ飾りに代表されるように神聖なものでもありました。運びやすさや丈夫さ、対地を穿つならん人形など作品のありや行儀は時代によって変わります。福島県立博物館の誇る「日本のわら」展コレクションも一挙公開!</p> 	<p>特集展 貝殻パラダイス! 会期:2022年1月22日(土)～2月27日(日)</p> <p>貝殻は、その色彩や質感、かたちのおもしろさなどの特徴により、古くから多くの人々に愛されてきました。この展示では、さまざまな種類の貝殻を通して生き物の多様性をご紹介します。自然の造形の不思議にぜひご注目。</p> 									
<p>テーマ展 刃しき野たち～むすし編 会期:7月10日(土)～9月29日(日)</p> <p>展示場所:部門展示室 歴史・美術</p> <p>前身が後に平鑓新刃工となった鈴木貞典、平鑓の刀工に生まれ貞典に学んだ鈴木貞成など、いわずやの刀匠の作をいただきます。近年、各地にご覧いただいた刀剣のお披露目展。</p> 	<p>テーマ展 刃しき野たち～むすし編 会期:9月4日(土)～10月17日(日)</p> <p>展示場所:部門展示室 歴史・美術</p> <p>地域の人がよって大切に守られてきた歴史と、保たれてきた歴史の中で、時に破壊し、時に困難に遭っても、変わらず信仰の中心として存在してきました。地域の歴史とともに福島の伝統美術をご紹介します。</p> 	<p>テーマ展 ふくしまの焼きもの～会津本郷展～ 会期:10月23日(土)～12月26日(日)</p> <p>展示場所:部門展示室 歴史・美術</p> <p>歴史の時代から400年以上の歴史を持つ会津本郷。陶器と磁器を作る新しい産地でもありました。本郷では近年新たに登場となった窯業を中心に会津本郷の産品をご紹介します。</p> 	<p>テーマ展 福を伝える～震災とアート 会期:2022年2月5日(土)～4月3日(日)</p> <p>展示場所:部門展示室 歴史・美術</p> <p>2012年～2017年にかけて行った「はま・なか・あいび文化連携プロジェクト」(事務局:福島県立博物館)では東日本大震災の記憶を作品として残してきました。その一部をご紹介します。アートが伝え、問いかける福島。ぜひご覧ください。</p> 									
<p>ポスター展 東北初発見!オモツマワマツ 3月26日(金)～4月20日(日) 展示場所:自然</p> <p>運送!会津だるま 4月16日(金)～8月18日(日) 展示場所:美術</p> <p>文章を好んだ会津の戦国武将・蔵名親氏 4月20日(金)～6月20日(日) 展示場所:中世</p> <p>高野町土蔵430周年記念 運生氏御霊、土へ 4月20日(金)～6月20日(日) 展示場所:近世</p> <p>くずし字に挑戦!① 5月1日(土)～6月30日(水) 展示ロビー</p> <p>くずし字に挑戦!② 7月1日(土)～8月31日(日) 展示ロビー</p>	<p>みんなの震災展 7月1日(水)～9月26日(日) 展示ロビー</p> <p>会津若松と菅原 7月3日(土)～9月26日(日) 展示場所:近・現代</p> <p>友の会化石館探検隊ミニ成果展 7月10日(土)～8月15日(日) エントランスホール</p> <p>発見!ハナワラジラ 8月24日(火)～9月26日(日) エントランスホール</p> <p>ふくしまを創った古代の農具 8月7日(土)～9月26日(日) 展示場所:近代</p> <p>静養と長具 8月20日(金)～10月20日(日) 展示場所:美術</p>	<p>ヒト形の付いた縄文土器 10月9日(土)～11月28日(日) 展示場所:美術</p> <p>会津若松を模した石器 10月9日(土)～11月28日(日) 展示場所:美術</p> <p>両面鏡と宝鏡 10月22日(金)～12月19日(日) 展示場所:美術</p> <p>くずし字に挑戦!③ 9月1日(水)～10月31日(日) 展示ロビー</p> <p>くずし字に挑戦!④ 11月2日(火)～12月26日(日) 展示ロビー</p>	<p>若古器をしのぐ道具たち 12月22日(水)～2022年4月13日(水) 展示場所:美術</p> <p>くずし字に挑戦!⑤ 2022年1月5日(土)～2月27日(日) 展示ロビー</p>									

2022年度 年間催し物案内 (中面)

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会	看板 (駅・博物館周り)	新聞・その他
春の企画展「会津の絵画～福島県立博物館収蔵品を中心に～」	○	—
夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～」	○	るるぶFREE東北21夏秋、福島民友新聞社・福島中央テレビも主催のため、会期中、福島民友新聞紙面での広告掲載、および福島中央テレビでのテレビCM放映等を実施。
秋の企画展「ふくしま 藁の文化 わらって、すげえんだがら」	○	—
冬の特集展「貝殻パラダイス!」(会津若松市特集・年賀広告)		福島民報 (R4.1/7)・福島民友 (R4.1/7)

ウ. マスコミ向け広報活動

記者クラブへの投げ込みと、マスコミ関係の希望者に向けたニュースメール配信を不定期で行っている。

記者クラブへの投げ込みでは、会津若松市記者クラブ加盟社のほか、県教育委員会(教育庁)社会教育課と連携して県政記者クラブ加盟社に向けた情報発信を行っている。ニュースメールでは、新聞やテレビ等マスコミ関係の配信希望者約40名に情報メールを配信している。

内容は、企画展の内覧会情報やイベント開催情報をはじめ、学芸員の研究成果の周知等であり、今年度は初の記者会見を実施した(2回中1回はオンライン)。

令和3年度は投げ込みを20回、ニュースメー

ル配信を10回行い、ほぼ毎回新聞やテレビ等の取材につながっている。ニュースメールは投げ込みと比較して手軽に配信できることから、今後配信の機会を増やしていく余地があるだろう。

エ. ホームページ

当館ではホームページ (<https://general-museum.fcs.ed.jp/>) を開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

なお、新Webシステム (netcommons3) の導入に伴い、旧公式ホームページ (<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>) の運用を終了し、平成31年4月26日より現在の公式ホームページへ切り替わった。

令和3年度ホームページアクセス件数（ページ数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
23,885	19,560	26,770	51,056	54,585	44,514
10月	11月	12月	1月	2月	3月
36,021	27,361	21,012	20,119	19,033	24,873
合計					
368,789					

オ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用した広報を行っている。平成27年度末（3月25日）より「Facebook（フェイスブック）」の公式ページ（<https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>）を公開しているほか、新たに平成30年7月4日からは「Twitter（ツイッター）」の公式ページ（<https://twitter.com/fukushimamuseum>）を公開した。

令和3年度末時点でのFacebookの投稿件数は308回（前年度より46件増加）、フォロワー数は1,338件（同90件増加）であった。Twitterの投稿件数は410件（前年度より130件増加）、フォロワー数は2,115件（同608件増加）であった。

Facebook、Twitterともに、企画展・特集展の内容にあわせ、それぞれシリーズを作成し投稿。特に夏の企画展では「あなたのあやかし話」と題し、一般の方から怖い話・不思議な話を募集、怪談作家の黒木あるじ氏からのコメントを付して投稿するという新たな試みを実施し、第77話公開することができた。

カ. 記事・放映

当館では、令和元年7月より、喜多方シティーエフエム株式会社との協力によりラジオ番組「けんぱく徒然語り」を放送。毎週日曜日9時～9時30分の30分番組として、福島県立博物館からのおすすめの情報、福島に関することなどを学芸員やテーマに応じた特別ゲストとご紹介している。令和3年度は、57回の放送を行った。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等の取材に基づいた記事・放映等は次のとおりである。

(ア) 春の企画展「会津の絵画 ～福島県立博物館収蔵品を中心に～」関連

- ・福島民報／「会津の絵画」広告（4月14日掲載）
- ・福島民報／会津ゆかりの作品110点（4月26日掲載）
- ・美術展ナビ／＃学芸員さんの思いを伝えたい第3弾 福島県立博物館（会津若松市）で開催中

の「会津の絵画」展（5月2日公開）

- ・福島民友／会津ゆかりの絵画一堂に（5月3日記事）
- ・FMあいづ／市役所情報スタジオ（5月6日放送）
- ・福島民友／「会津を彩った絵師たち 雪村、遠沢、永海…一堂に」（6月1日掲載寄稿）

(イ) 夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～」関連

- ・福島民友／幽霊 会津の夏ヒンヤリ 県立博物館で企画展（2021年6月17日記事）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 ふくしまもののけ道中記 1 八百比丘尼 喜多方（2021年7月13日記事）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 ふくしまもののけ道中記 2 カッパ淵 天栄（2021年7月14日記事）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 ふくしまもののけ道中記 3 幽霊画 南相馬（2021年7月15日記事）
- ・福島民友／見て感じる夏に 背筋冷える妖怪展（2021年7月16日記事）
- ・FCT福島中央テレビ（2021年7月17日取材）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 ふくしまもののけ道中記 4 鬼婆伝説 二本松（2021年7月18日記事）
- ・福島民友／幽霊画、背筋ヒヤッ 県立博物館で妖怪展開幕（2021年7月18日記事）
- ・福島民友／おっかない化け物の世界 県立博物館「人魚のミイラ」展示（2021年7月18日記事）
- ・Kyodo Weekly／ART探訪 あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異～（No.29、2021年7月19日発行）
- ・NHK福島放送局（7月23日取材）
- ・県政広報キビタンGO／「あはひ」「あやかし」のクニ福島～妖怪と幽霊の企画展（8月4日放送）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 来場者5000人を突破 鈴木さん親子に記念品 県立博物館（2021年8月7日記事）
- ・河北新報／「あはひのクニ あやかしのクニ」展 幽霊画や民話 異界への招待 福島県立博物館（2021年8月14日記事）
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふ

くしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 あやかしの語り楽しもう あすから全4回 (2021年8月13日記事)

- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 東北の怪談に”ゾクッ” 黒木あるじさん講演 県立博物館 (2021年8月15日記事)
- ・福島民友／妖怪展来場者1万人 県博 (2021年8月21日記事)
- ・福島民友／あはひのクニ あやかしのクニ～ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異 妖怪や幽霊活弁で楽しむ (2021年8月30日記事)

(ウ) 秋の企画展「ふくしま 藁の文化～わらって、すげえんだがら～」関連

- ・福島民友／丈夫に育て バケツ稲 鶴城小児童が植え付け 県立博物館事業と連携 (5月31日記事)
- ・福島民友／鶴城小児童 バケツ稲刈り取り (10月8日記事)
- ・福島民友／伝統のわら文化紹介 人形・みの…日用品展示 県立博物館12月19日まで企画展 (10月10日記事)
- ・NHK／NHK福島 朝のニュース (10月11日放送)
- ・河北新報／多彩なわら人形大集合 福島県立博物館で企画展 (11月5日記事)
- ・河北新報／藁の文化 共通点探る 福島でトークイベント (11月12日記事)
- ・福島民友／わらでたわし作り 鶴城小児童が挑戦 (11月28日記事)
- ・秋田魁新報／〈ハラカラ 第28号 特集 ゆきゆきて出羽路 (いでわじ) 9〉福島に人形道祖神大集合 (12月24日記事)

(エ) 冬の特集展「貝殻パラダイス！」関連

- ・福島民友／多様な貝殻大集合！ 初公開含む800点、2月まで福島県立博物館 (1月27日記事)

(オ) 冬の特集展「そなえの芽 災害から考えるあしたの暮らし」関連

- ・福島民報／災害への備え考えて (2月12日記事)
- ・福島民友／自然災害備え忘れずに 県立博物館で震災遺産展 (2月13日記事)
- ・読売新聞／震災遺産で「あの日」伝える (2月24日記事)
- ・読売新聞／震災伝える出前授業 (2月25日記事)
- ・河北新報／福島県立博物館「備え」考える企画展 (3月8日記事)

- ・福島テレビ／キビタンGO! (3月9日放送)
- ・FM福島／キビタンスマイルラジオ (3月9日放送)

(カ) テーマ展・ポイント展関連

- ・KFB福島放送／Jチャンネル (8月11日放送)
- ・NHK／福島県最古のクジラの化石を展示 県立博物館 (8月27日放送)
- ・河北新報／クジラの化石1頭分ずらり (9月4日記事)
- ・KFB福島放送／スーパーJチャンネル (9月7日放送)

(キ) 調査研究・資料収集

- ・福島民報／会津学鳳高と県立博物館共同 有孔虫の化石研究 白亜紀地層詳細年代推定へ (6月3日記事)
- ・福島民友／世界最大規模「カキ礁化石」発見 福島県立博物館・猪瀬さんら (7月30日記事)
- ・福島民報／世界最大の群生化石発見 絶滅カキの一種 福島県立博物館主任学芸員 (7月30日記事)
- ・読売新聞／世界最大化石 いわきに (7月30日記事)
- ・河北新報／世界最大か 群生の化石 (8月13日記事)
- ・読売新聞／会津学鳳高生 化石を研究 県立博物館と共同 いわき地層の有孔虫 (9月1日記事)
- ・福島民友／セイウチの仲間の化石発見 塙、まとまった状態は珍しく (8月19日記事)
- ・福島民報／福島県塙町の地層から鱗脚類の胸部化石発見 福島県立博物館学芸員ら研究グループ (8月19日記事)
- ・福島民報／小滝清次郎写真資料について (11月26日記事)
- ・Dailymail／Meet the modern crocodile's 'UNCLE'! This terrifying 14ft-long, half-a-ton reptile roamed Wyoming 155 million years ago, fossil analysis reveals (12月8日記事)
- ・Biegowelove／Skamieliny: „Wujek” przerażających nowoczesnych krokodyli (12月8日記事)
- ・Epirus news portal／Απολιθώματα: Ο «θείος» των τρομακτικών σύγχρονων (12月8日記事)
- ・上毛新聞／ワニの先祖 新種の化石 (12月8日記事)
- ・群馬テレビ／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 陸から水中へ、適応起源に迫る (12月8日放送)
- ・福島民友／1.5億年前ワニ祖先新種 (12月9日)

- 記事)
- ・福島中央テレビ／ワニ祖先の新種と判明 県立博物館など調査・福島 (12月8日放送)
 - ・朝日新聞／1億年以上前のワニ祖先の化石、新種と判明 群馬の博物館で保管 (12月15日記事)
 - ・科学新聞／ワニの祖先型化石を新種と同定 水生適応への進化の始まり解明 福島県立博物館、北大、群馬県立自然史博物館などの研究チーム (12月17日記事)
 - ・KFB福島放送／シェア！ (12月8日放送)
 - ・共同通信／恐竜繁栄期の地層からワニ祖先「ゴニオフォリス類」新種の化石発掘 (12月8日記事)
 - ・テレビユー福島／ワニの祖先化石 “新種”と発表 (福島県立博物館) (12月9日放送)
 - ・FTV福島テレビ／ワニの祖先の新種を発見 福島県立博物館の学芸員を中心とした研究チーム<福島県> (12月10日放送)
 - ・NHK／ワニ祖先に近い化石から新種発見 水中活動できる仕組み持つ (12月8日放送)
 - ・読売新聞／ワニ祖先の新種 ジュラ紀の地層で化石発掘…水中で活動か 福島の学芸員ら特定 (12月9日記事)
 - ・福島民報／ワニの水中生活歴 1億5500万年以上 (12月9日記事)
 - ・毎日新聞／「おまけ」の化石、新種ワニだった展示から四半世紀たって発見 群馬 (12月8日記事)
 - ・河北新報／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 陸から水中へ、適応起源に迫る (12月8日記事)
 - ・時事通信／ワニ祖先の新種と判明 水中適応、解明に期待—福島県立博物館など (12月8日記事)
 - ・whatnew2day／Fossils: Terrifying 14-Foot-Tall ‘Uncle’ Of Modern Crocodiles Roamed Wyoming 155 Million Years Ago (12月8日記事)
 - ・Heromag／Fossils: Scary 14-foot-long ‘uncle’ to modern crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・newsfounded／Fossils: The fearsome 14ft-long ‘uncle’ of modern crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・news-florida／155 million years ago, a terrifying 14-foot-long ‘uncle’ of (12月8日記事)
 - ・nowyoureadme／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ of modern crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・daytonews／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ of modern crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・elegantsite／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ of recent crocodiles roamed Wyoming 155 million years in the past (12月8日記事)
 - ・Brownil／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ Of Modern (12月8日記事)
 - ・zphysician／Fossils: A terrifying 14-foot-long ‘uncle’ of modern crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・eminetra／Fossil: A terrifying 14-foot-long “uncle” of a modern crocodile (12月8日記事)
 - ・Tradingbbc／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ of modern (12月8日記事)
 - ・nasahindi／Fossils: Terrifying 14ft-long ‘uncle’ of contemporary crocodiles (12月8日記事)
 - ・Klikbulukumba／Fossil: “Paman” buaya modern sepanjang 4 meter yang (12月8日記事)
 - ・cwv／Fósiles: el aterrador “tío” de los cocodrilos modernos de 14 (12月8日記事)
 - ・trendwide／الحديثة المرعبة التي يبلغ طولها “التماسيح الأحافير”: عم (12月8日記事)
 - ・cronica／Fósiles: el aterrador “tío” de los cocodrilos modernos (12月8日記事)
 - ・VZGLYAD／Fossils: ‘Uncle’ of terrifying modern 14-foot crocodiles roamed Wyoming 155 million years ago (12月8日記事)
 - ・teknolojibulteni／Fósiles: el ‘tío’ de los aterradores cocodrilos modernos de 14 (12月8日記事)
 - ・dakarinfo／Fossiles : l’« oncle » de terrifiants crocodiles modernes de 14 (12月8日記事)
 - ・althabbiah／Fósseis: ‘tío’ dos terríveis crocodilos modernos de 14 pés (12月8日記事)
 - ・Lonradio／Fossielen: ‘oom’ van angstaanjagende moderne 14-voet (12月8日記事)
 - ・enp／θ ε ί ο ς » των τρομακτικών σύγχρονων κροκοδεΐλων μήκους 14 (12月8日記事)
 - ・日本経済新聞／恐竜時代にワニ祖先の新種 陸から水中、適応起源迫る (12月8日記事)
 - ・東奥日報／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 陸から水中へ、適応起源に迫る (12月8日記事)
 - ・熊本日日新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・福井新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・沖縄タイムス／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・徳島新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種

- (12月8日記事)
 - ・ 神奈川新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 信濃毎日新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 山梨日日新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 高知新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 千葉日報／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 神戸新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 愛媛新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 南日本新聞／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ ORICON NEWS／恐竜時代の化石、ワニ祖先の新種 (12月8日記事)
 - ・ 奈良新聞／恐竜時代にワニの祖先 (12月9日記事)
 - ・ ふくしまFM／ふくしまFMニュース (12月9日放送)
 - ・ 奈良新聞／恐竜時代にワニの祖先 (12月9日記事)
 - ・ Live Science／Jurassic crocodile relative could breathe easily while drowning its prey (12月9日記事)
 - ・ Phys.org／New goniopholidid species from the Upper Jurassic likely had a palatal valve in its throat (12月9日記事)
 - ・ Natural History Museum, London／Early crocodile ancestor shows how the reptiles became feared aquatic predators (12月9日記事)
 - ・ USA TODAY／This crocodile ancestor discovered in Wyoming shows how it became the predator it is today (12月10日記事)
 - ・ Studyfunds／Jurassic crocodile fossil discovered in Wyoming may be the missing link in croc evolution (12月9日記事)
 - ・ METRO／Dinosaur-hunting ‘terror croc’ found preserved in the Wyoming badlands (12月13日記事)
 - ・ 福島民友／編集日記 (12月13日記事)
 - ・ Ruptly／Fossil believed to be crocodile ancestor revealed as new species in Japan (12月24日記事)
 - ・ 日経ナショナルジオグラフィック／ナショナルジオトピックス (12月18日記事)
 - ・ 科学技術振興機構／サイエンス・ジャパン (2月7日記事)
 - ・ 科学技術振興機構／客観日本 (1月5日記事)
 - ・ 福島民友／みんゆうジュニア情報局 (1月23日記事)
 - ・ 福島民報／鳥脚類恐竜の骨と解明 (2月2日記事)
 - ・ 福島民友／鳥脚類の化石解明 (2月2日記事)
 - ・ 福島中央テレビ／40年前に発掘された化石の正体は・・・(福島県) (2月5日放送)
 - ・ 河北新報／白亜紀化石は小型恐竜の骨 (2月6日記事)
 - ・ NHK／NHKニュースおはよう日本「珍しい小型草食恐竜の化石発見」(2月21日放送)
 - ・ 時事通信／小型草食恐竜の化石発見 40年前発掘、白亜紀では貴重ー福島 (2月6日記事)
 - ・ 毎日新聞／40年前発掘の化石、実は恐竜だった福島県立博物館 (2月6日記事)
 - ・ 朝日新聞／40年前発掘の白亜紀化石、実は小型恐竜 再び調べて判明 (2月6日記事)
 - ・ 福島テレビ／40年前に発掘された化石の正体は・・・(2月6日放送)
 - ・ 福島民友／欧州以外初の確認いわきで発掘アンモナイト化石 (3月29日記事)
 - ・ 福島民報／アンモナイト化石4種発見 (3月29日記事)
- (ク) その他
- ・ 福島民報／会津だるま復元 福島県ハイテクプラザ若松 県立博物館の知見基に (4月14日記事)
 - ・ 福島中央テレビ／ゴジてれchu! 会津若松市特集 (4月29日放送)
 - ・ 福島民友／大塚山古墳の解説一新 県立博物館古里の歴史分かりやすく (7月6日記事)
 - ・ テレビユー福島／ふくしまSHOW (9月8日放送)
 - ・ 福島民友／地層からの宝物発見に喜び 化石発掘で成果、福島県博の猪瀬さん (8月27日記事)
 - ・ 朝日新聞／恐竜少年 今や化石ハンター (9月21日記事)
 - ・ 福島民報／ひと「ワニ類の水生適応の起源に迫る成果発表」吉田純輝さん (30) (12月9日記事)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を分析し、館の事業の改善に努めた。企画展において三の丸プロジェクト・まちなか連携事業と関連する項目を新設した。常設展アンケートも三の丸プロジェクトの効果を計るために大きく形態を変更した。他の博物館・美術館のアンケート様式を調査したうえで項目を検討し、令和4年3月に試行期間を設けた。令和4年度より本格実施を行う。

(3) 出版事業

令和3年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

あはひのクニ あやかしのクニ	1,500冊
ふくしま 蕁の文化	1,200冊
アンモナイト合戦	1,000冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第36号	500冊
----------------	------

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第35号	400冊
----------------	------

令和3年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	会津の絵画
	あはひのクニ あやかしのクニ ふくしま 蕁の文化
特集展	貝殻パラダイス！
	そなえの芽
講座	特別講座
	歴史講座
	保存科学講座
	美術講座 災害分野講座

7. 文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」

福島県立博物館では、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」に取り組んでいる。

(1) 事業の概要

ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出する同法の目的を実現するものとして、主務大臣が定める基本方針に基づく、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進する拠点計画及び地域計画の認定が行われた。当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画は、「会津のSAMURAI文化エリア（若松城跡）」「若松城下の商工文化エリア（会津若松市街地）」「雪国のくらしとものづくり文化エリア（奥会津）」の3つのエリア周遊を実現することにより、質の高い文化観光を提供しようとするものである。同計画の実現のため、令和2年度から5ヶ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」」を実施することとなった。

イ. 組織

1. 申請者：福島県（福島県立博物館）
2. 共同申請者：
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

ウ. 助成

令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(2) 事業内容

ア. 文化資源磨き上げ事業

会津の3エリア周遊に関するストーリーについて、館内チームを中心に原案を作成した。

その原案をもとに、共同申請者（観光事業者）の一般財団法人会津若松観光ビューロー（会津DMOワーキンググループ）と協議を重ねてブラッシュアップさせた。これと並行しながら、城郭・建築・観光等を専門とする有識者3名に依頼して、オンライン会議や周遊候補地の現地調査を実施し、それぞれの立場から原案の内容等を検証していただき、助言を受けて内容の充実を図った。さらに文化庁文化観光コーチングチームとの会議を通じて、今後の展開に向けてのアドバイスを受け、3エリア周遊の上位概念（キーコンセプト）として「つなぐ」というテーマを設定した。

また、「会津のSAMURAI文化エリア」「若松城下の商工文化エリア」の周遊のためのベースマップとなる「陸奥国会津城絵図」（当館蔵 県重文 17世紀）の調査（精査）及び業者委託による撮影・デジタル化を行った。そのほか「会津のSAMURAI文化エリア」周遊の核となる若松城跡の空撮（ドローン撮影動画）、「若松城下の商工文化エリア」「雪国のくらしとものづくり文化エリア」の周遊ポイント（冬季の雪景色）や文化資源及び製作工程等に関する撮影を行った。

イ. 展示強化事業

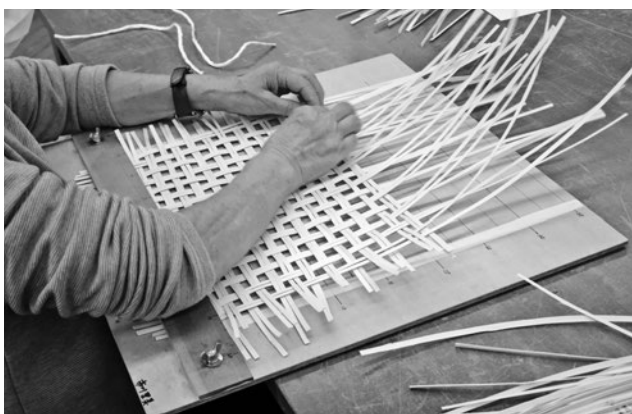
「会津のSAMURAI文化エリア」、「若松城下の商工文化エリア」、「雪国のくらしとものづくり文化エリア」の3エリアに関わる質の高い美術工芸品を展示し3エリア周遊への促進に繋げるため、該当展示資料（美術工芸品）を3エリアの周遊に紐づけた展示解説を作成した。博物館内のその他の展示室の既存の展示解説と明確な区別ができ、かつ違和感のない解説デザインを採用した。また、資料の展示効果を高めることで、3エリア周遊への紐づけへの明確な理解を促すため、展示会場となる部門展示室「歴史・美術」で使用する展示具（刀剣を展示するための「刀掛」、小袖類を展示するための「衣桁」、着尺等を展示するための「撞木」等、いずれも東京国立博物館等他館で使用実績のある展示効果の高い展示具）、展示台をあらたに導入した。

ウ. 体験型プログラム提供事業

武家文化や会津のものづくりを体験し、その魅力が堪能できる6つのプログラムを実施した。「会津のSAMURAI文化エリア」に関連した居合の実演、「若松城下の商工文化エリア」に関連した会津木綿を使用した制作体験、「雪国のくらしともものづくり文化エリア」に関連したまたたび細工の制作体験などである。

実施にあたっては、武家文化の担い手である居合の団体やものづくりの作り手、工房との打合せを重ね、博物館が提示する歴史的な背景を踏まえた体験を提供できるように、開催内容を検討した。また、効果的な広報に繋げるため、チラシ等のデザインや情報発信を工夫した。

それぞれのプログラムを通して各文化の特徴や良さに触れることで、より深く味わいたいという好奇心につなげ、3つのエリアへの周遊を促す動機づけとした。



体験型プログラム
「またたびランチョンマットをつくろう」

エ. 若松城下まちなか連携事業

「若松城下の商工文化エリア」周遊を促進するため、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で行う連携展示（4月～6月開催、共通テーマ「会津の絵画」）及び連携イベント（8月～9月開催、共通テーマ「会津の幽霊・妖怪」）を各会場で開催した。連携展示の会場は、福西本店、竹藤、末廣酒造嘉永蔵（いずれも国登録有形文化財）に商工文化の起点である若松城天守閣郷土博物館を加え、福島県立博物館を含めた5会場とした。連携イベントの会場は、先にあげた3ヵ所の国登録有形文化財に加え、会津塗伝承館鈴善漆器店（国登録有形文化財）の4会場とした。

また、令和4年度に開催予定の連携展示

（共通テーマ「会津本郷焼」）を素材にした周遊促進のためのパンフレットを作成した。このパンフレットは、福島県立博物館収蔵の「若松城下図屏風」をナビゲート役とし、若松城下図屏風の該当位置に展示会場をマッピングし、さらに展示会場の歴史や魅力、展示の趣旨、展示予定資料の来歴や魅力を掲載するとともに、周遊することで得られる文化価値をわかりやすく伝えるものとし、来訪者が本事業で会津若松ならではの文化資源を体感しリアルな歴史体験へと誘導する内容とした。



「会津の絵画展」連携展示の様子

オ. 多言語化事業

館内利用案内及び常設展示室の大テーマ解説・中テーマ解説の英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。多言語化のテキストは、観光庁の「HowTo多言語解説文整備」に基づきネイティブライター等専門人材による現地取材・執筆・編集・監修のフローにより作成した。多言語テキストに加え既存の日本語テキストを視認性やユニバーサルデザインに留意しながらデザイン委託し、成果はサインとして掲出するとともに、基盤整備により導入したサーバーネットワーク式



デジタルサイネージ

のデジタルサイネージにて配信した。

また、体験型プログラムの提供を通して周遊を促す事業の趣旨・内容の理解につながる多言語パンフレットの整備として、「若松城下の商工文化エリア」に関する体験型プログラムの解説を多言語化した。会津漆器、会津木綿、会津本郷焼の制作工房等をネイティブの取材班（ライター・エディター）が訪問し、専門職人へ取材した。取材先は、観光客向けに作業場を公開している工房の他に非公開の作業場も特別に見学させて頂き、該当文化の正確な理解に繋げた。

カ. 利便性向上事業

(ア) 情報通信環境整備

展示空間の一部（常設展示総合展示室）のWi-Fi整備とキャッシュレス化を行った。観覧チケット購入、図録等購入、レストラン利用にキャッシュレスを導入した。

(イ) 環境整備

福島県立視覚支援学校教諭との打合せ、来館いただいたのアドバイスを経て、視覚に障がいがあっても資料に触りながらその情報を得られるシステムを製作し、展示什器として整備した。製作にあたっては、三の丸からプロジェクトが目指す3つのエリア周遊の一つ「雪国のくらしとものづくり文化エリア」周遊に関連する奥会津で製作・使用されてきた伝統的な生活用具（「米とぎザル」「雪ぐつ」）をハンズオン資料として選定した。

設置場所は、奥会津のものづくり文化の要素を取り入れたベビーケアルームが整備され、奥会津のものづくりを体験する体験型プログラムの会場でもある体験学習室（無料空間）とした。

障がいや遠距離など様々な理由で来館が



触れる展示ボックス

難しい潜在的な博物館ユーザーに向けた遠隔観覧システムを確立するため、テレプレゼンスロボットを使用した遠隔観覧の試行を行った。展示空間（常設展示総合展示室）のWi-Fi整備により、ロボットを活用した遠隔観覧が整備後の展示室で可能になった。

一度目は三島町の特別養護老人ホーム「桐寿苑」の入所者に向けて実施し、二度目は三重県立総合博物館・三重県立美術館の学芸員に試行をいただいた。両館は三重県立盲学校をはじめ障がいのある団体などと連携し様々な展示や活動を行っている。その経験をもとに、障がいをお持ちの観覧者が遠隔観覧システムを利用するにあたって問題となる点、留意すべき点をご指摘いただいた。

キ. 周遊促進事業

(ア) レストラン

福島県立博物館のレストランを「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」をテーマに一新し、会津周遊へ導くゲートウェイ機能、ミュージアムショップ機能、展示収蔵資料を活用した小規模な展示機能を持った多機能スペースとして活用することを目標としている。

目標を実現するため、会津で「食」や「ものづくり」に携わる関係者の意見を取り入れたワークショップの実施結果を踏まえ、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができる空間のトータルデザインを行った。

それに基づき会津漆器、会津木綿を取り入れた展示空間・販売ブースを製作。製作にあたっては会津漆器で用いてきた木材を使用し、江戸時代から伝わる会津漆器の技法を施した。また会津木綿の伝統的な縞と近年開発された無地色を併用するなど、ものづくりの素材や技法、歴史を視覚や触覚で理解できるものとした。展示ブースには完成後会津漆器の製作工程見本を展示し、福島県立博物館が収蔵する資料の利活用の初例とした。今後、定期的に展示替を行う予定である。また、レストラン入口に設けた情報発信コーナーでは、「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」に関するパンフレット等を設置し、関連商店や施設への周遊を促す場として完成させた。レストランの一角に設けた物販コーナーでは、

本事業で整備した会津のものづくりの製作工程や技法が学べる器やカトラリーの販売を行っていく予定である。

会津のものづくりの歴史、伝統的技術や素材、工程がわかるカトラリーや器として、「会津塗の製作工程がわかる椀」「会津塗の技法がわかる箸」「会津本郷焼の陶器の釉薬の多様性がわかる皿」「会津本郷焼の磁器の素地と釉薬がわかる皿」「奥会津のカラムシの糸の太さの違いや染の技法がわかるランチョンマット」「奥会津の桐工芸の技法がわかるトレー」などを製作した。令和4年度に開発予定のメニューの完成後、カトラリー・器類を、それぞれわかりやすい説明書を付けて提供し、器に触れ、鑑賞し、体感し、飲食、談話を楽しめる空間として完成させる。

(イ) 雪国ものづくりマルシェ

共同申請者との協議やこれまでの福島県立博物館の博物館活動に基づくネットワークにより、本事業におけるものづくり体験ワークショップの講師やマルシェへの出店者を検討。関係者との打合せにより本事業の趣旨を共有した上で、広報、マルシェの実施、振り返りを行った。

10月10日のマルシェ当日は、福島県立博物館前庭及び体験学習室に、会津漆器の絵付・研ぎ出し体験、会津木綿のマグネットづくり、会津本郷焼のチャームづくり、またたびストラップづくりといった、ものづくりを体験するブースを設けた。また前庭のブースでは、若松城下のものづくりとして会津漆器、会津木綿、会津本郷焼、奥会津のものづくりとして編み組、またたび細工、からむしの販売者に出店いただいた。さらに、会津の土と水で育まれた農産物やそれらでつくられるフード、会津の日本酒を販売するブースを設け、食も含めた会津のものづくり文化を見て触れて体験するマルシェとした。

事業実施後、関係者との事業の振り返り



雪国ものづくりマルシェ

を行い、来場者の反応を共有し、成果・課題などを丁寧に拾い上げ、検証した。検証結果は、令和4年度事業内容を検討する際の参考とした。

ク. 国内外プロモーション事業

共同申請者と三の丸からプロジェクトを通じて会津の文化資源を国内海外に発信するためのプロモーションについての協議を行い、あわせて、三の丸からプロジェクトの令和3年度事業における実施状況を踏まえて、日本政府観光局（JNTO）より派遣いただいた同局理事に、プロモーション事業についての指導・助言をいただいた。三の丸からプロジェクトが実現しようとしている3つのエリア周遊を促進する文化観光拠点としての福島県立博物館の整備の実績（レストラン・ベビーケアルーム・多言語化サイネージ・常設展示室部門展示「歴史・美術」）および、「会津のSAMURAI文化エリア」「若松城下の商工文化エリア」の周遊先である史跡・若松城、末廣酒造嘉永蔵・福西本店（ともに国登録有形文化財（建造物））を周遊の視点で実見していただいた上で、本プロジェクトを国内海外発信するにあたっての考え方や手法についてレクチャー・アドバイスをいただいた。指導・助言には、共同申請者である公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）・一般財団法人会津若松観光ビューロー（地域DMO）の担当者も同席し、今後は共同申請者が主体となって国内海外プロモーションの詳細内容を検討し、本格的に発信する準備を行った。

ケ. 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

(ア) 展示室

博物館内に展示機能強化に関する推進チームを設置し、定期的なミーティングや若松城跡現地リサーチなどを行い、3つの周遊ストーリーのゲートウェイ機能を果たす展示コンセプト・展示空間のあり方・展示手法及び展示資料の検討を行い、文化庁文化観光コーチングチームとの意見交換を踏まえながら展示整備案を作成した。

当館常設展部門展示室「歴史・美術」は、3エリア周遊に関わる美術工芸品など実物資料を展示公開するエリアになる。このための展示資料を最適な環境下で公開し、さらに資料の視覚的な展示効果を高める観賞環境を提

供するための既存の展示ケースの機能を強化する展示環境整備を行った。

内容は以下の通り

- ①美術工芸品の展示にあたって特に留意すべき照明の影響・リスクを軽減するためのLED化
- ②展示効果を高めるため黒色を基調とした展示用クロスへの張替の実施。
- ③漆器・やきもの・刀剣等の高さの低い展示資料への観覧環境を整える視野角調整スクリーンの設置
- ④展示効果を高める独立ケース専用間仕切りの製作。

(イ) 無料空間

「三の丸からプロジェクト」で目指す3つのエリア周遊の一つ「雪国のくらしともものづくり文化エリア」周遊を促進するとともに、親子連れや未就学児などの利活用環境整備の一環となるよう、奥会津のものづくり要素を取り入れたベビーケアルームを製作し配備した。ベビーケアルームは、奥会津で山仕事の際に作られ、使われてきた「井籠倉（せいろうくら）」の形を模して奥

会津産の木材で製作し、奥会津の暮らしを学べるものとした。また室内には、からむし、編み組（またたび・山ぶどう・ヒロロ・あけび）、会津木綿等を取り入れ、室外のサインは会津の桐細工で製作するなど、奥会津ならではのものづくりの素材や質感を学んだり楽しんだりできるような空間とし、ベビーケアルームを利用しながら、奥会津のものづくり文化を味わえる設えとした。



ベビーケアルーム

8. 地域連携とネットワークの拠点

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 福島県博物館連絡協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

当会は、福島県内の博物館及びこれに準ずる施設が相互の連絡、協働によってその機能を強化し、地方文化の振興に寄与することを目的とするもので、昭和54年から活動している。設立時より福島県立博物館は事務局を務め、他館と連携しながら会の運営を担っている。

イ. 組織

1. 理事会 郡山市立美術館（会長）、福島県立博物館（副会長）、その他11館。
2. 所属館 郡山市立美術館、その他50館。
3. 事務局 福島県立博物館

ウ. 事業内容

令和3年度は、下記の事業を実施した。

1. 福島県博物館連絡協議会一般事業

(1) 第1回理事会

日時 令和3年7月9日（金）
13時00分～

会場 福島県立美術館

第2回理事会

日時 令和3年3月23日（水）
10時30分～

会場 郡山市立美術館

(2) 総会

日時 令和3年7月9日（金）
14時30分～

会場 福島県立美術館

(3) シンポジウム「新しい生活様式下のミュージアム体験活動」（オンライン開催）

日時 令和3年8月26日（水）
10時30分～15時00分

会場 福島県文化財センター白河館（まほろん）

報告1 「大安場史跡公園」

報告2 「じょーもびあ宮畑」

報告3 「いわき市考古資料館」

報告4 「福島県文化財センター白河館」

報告5 「福島県立博物館」

報告6 「南相馬市博物館」

報告7 「ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま」

(4) 研修会「地域との連携について」

日時 令和3年11月21日（日）
11時00分～16時45分

会場 福西本店、末廣酒造嘉永蔵、竹藤、会津塗伝承館鈴善漆器店、福島県立博物館

2. 被災博物館・被災文化財救済事業

これまでの被災博物館・被災文化財救済事業のまとめ準備作業を行った。



研修会「地域との連携について」
（末廣酒造嘉永蔵見学の様子）



研修会「地域との連携について」
（福島県立博物館での事例報告の様子）

(2) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標としている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成29年5月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、4年に1回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ認定された。当該年度である令和3年度では再認定審査会が実施され、第44回日本ジオパーク委員会にて再認定となった。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- ・ 地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ・ ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ・ ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- ・ 住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ・ ジオガイド養成のための講師派遣
- ・ ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ・ ジオパーク普及のための各種イベントの開催

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所

ウ. 活動

令和3年度は次の事業を実施した。

1. 調査研究事業

(1) ジオサイト保全と利用

ジオサイトモニタリング調査等 35回実施
 磐梯山ジオパーク協議会事務局への指導 24回

2. 啓発活動

(1) フォーラム・シンポジウム

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(2) 出前講座

磐梯青年交流の家など

(3) 出前授業

猪苗代町立千里小学校など31件

3. 広報活動

- (1) イベント参画
チャレンジジオキャンプなど 6件
- (2) 情報発信
お宝ガイドマップ 20,000部
詳細パンフ 日本語版・英語版 各
1,000部
教材用ジオパークマガジン 100部

4. ガイド養成

- (1) ガイド研修
ジオパークガイド養成事業 磐梯山ジ
オパーク特別研修 1件

5. ツアー解説媒体制作

- (1) ジオサイト解説看板設置
磐梯町 慧日寺解説看板のデザイン変
更

(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (令和4年3月現在)

所属機関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館(スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株)福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECプラットフォームズ株式会社 福島事業所
福島県商工会連合会

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (令和4年3月現在)

所属機関
福島県鉄工機械工業共同組合
(有)西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株)坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有)アピスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、前年度に続きほとんどの活動が中止となった。そうした状況の中、オンライン会議を行い、次年度以降の活動などについて意見交換した。

(4) 福島芸術計画

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施していた事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援した。

令和2年度からは福島県単独主催となり福島芸術計画として実施。令和3年度は芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図るとともに、福島未来を担う子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供することで、心豊かな成長を支援するため「アートによる新生ふくしま交流事業」として「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を行った。

イ. 組織

1. 主催 福島県
2. 運営委員会構成団体
福島県文化振興課/福島県立美術館/福

島県立博物館／認定特定非営利活動法人
ドリームサポート福島

3. 事業受託者

認定特定非営利活動法人ドリームサポート
福島

ウ. 事業内容

令和3年度の福島芸術計画のうち、福島県立博物館は「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」の一環として下記の3事業の企画運営を担った。

1. 福島こども芸術計画 赤べこ大行進

- (1) 実施地域：会津若松市
- (2) アーティスト（講師）：
中津川浩章（美術家）
- (3) 地域パートナー：
福島県立会津支援学校
- (4) 対象：
福島県立会津支援学校、聴覚支援学校の全校生徒（小学部・中学部・高等部・聴覚支援学校 全226名）
- (5) ワークショップ実施日：
9月10日（金）午前、9月15日（水）午前、9月16日（木）午前
- (6) 内容

講師を務めた中津川浩章氏と会津支援学校教諭との丁寧なミーティングを重ね、新型コロナウイルスの感染拡大の折から、疫病平癒の願いをこめた会津地域の郷土玩具である「赤べこ」の歴史を学びながら、児童・生徒それぞれの表現を赤べこの形とし、横長の紙に張り付けてたくさんの赤べこが行進する作品を制作するワークショップを考案、実施した。小学部・中学部・高等部・聴覚支援学校ごとに制作した作品は、会津支援学校の文化祭「パワー祭り」で展示した他、福島県立博物館体験学習室でも展示公開し、児童生徒の表現の素晴らしさを多くの方に知ってもらう機会とした。また、制作し



「赤べこ大行進」作品展

た作品を元にした記録集「赤べこ大行進」も制作。絵本仕立ての記録集とすることで、読みやすい内容とした。障がいのある児童・生徒にとって表現がどのような意味を持ち、可能性があるのか、地域の歴史の学びをどのように取り入れるかを問いかけるワークショップともなった。

2. 福島こども芸術計画 わたしの好きな柳津

- ①やないづのお宝発見！！こどもアートセッション
- ②にしやまのお宝はっけん！！こどもアートセッション
- (1) 実施地域：柳津町
- (2) アーティスト（講師）：
小池アミイゴ（イラストレーター）
- (3) 地域パートナー：
やないづ町斎藤清美術館
- (4) 対象：
柳津町放課後子ども教室所属の小学生、柳津町放課後子ども教室杉の子サークル所属の小学生
- (5) ワークショップ実施日：
①11月17日（水）、12月1日（水）、
②11月18日（木）、12月3日（金）
- (6) 内容

講師の小池アミイゴ氏には、平成29年度に斎藤清美術館で柳津町放課後子ども教室に所属する小学生を対象としたワークショップを行ったいただいた。5年ぶりの同美術館での開催は、柳津町と同美術館をよく知る小池氏ならではの子どもたちへのアプローチがなされ、美術館の魅力を引き出したワークショップとなった。

斎藤清美術館で開催中だった企画展「清VSピカソ」を鑑賞後、美術館の外や館内で制作。柳津と西山という柳津町内の二つの地域の「お宝」を探しながら描いた創造的な時間からは、それぞれの地域の特徴が窺える作品が生まれた。作品は、令和4年3月～5月にかかえて斎藤清美術館のアートテラスで展示。多くの方に鑑賞いただけた。

3. 福島こども芸術計画 みんなの音

- (1) 実施地域：会津若松市
- (2) アーティスト（講師）：
シーナ・アキコさん（マリンバ・ピア



ワークショップ「みんなの音」の様子

- ノ・ガラクタ演奏家)
- (3) 地域パートナー：
福島県立会津支援学校
- (4) 対象：福島県立会津支援学校中学部の
生徒 12名
- (5) ワークショップ実施日：
令和4年1月21日(金)、2月25日(金)
- (6) 内容

講師のシーナ・アキコさんと会津支援学校教諭と重度障害の中学生の生徒を対象とした「音」を表現手段とするワークショップについて打合せを重ね、「ViVi WARE cell」を用いたプログラムを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2回ともオンラインでの開催となった。

画面上の講師とのコミュニケーションとなったが、生徒たちはシーナ氏があらかじめ送付した身近なモノでつくった「ガラクタ楽器」で思い思いに音を生み出したり、「ViVi WARE cell」での音づくりに挑戦した。障がいのある方たちを対象とした「音」を素材としたワークショップの可能性を見出す事業となった。

(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部の整理・撮影作業を、福島大学で継続して実施しているが、令和3年度は新型コ

ロウイルス感染症拡大の影響で作業が進められなかった。

(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

イ. 組織

1. 構成団体

会津若松商工会議所、(一財)会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市

2. 事務局 会津若松商工会議所

ウ. 事業内容

令和3年度福島県立博物館夏の企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」に協力。当該企画展において会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会事業との連携により行った「夜間観覧」やARを用いた周遊企画「裏会津」の実現を支援した。

また、令和2年度に認定を受けた「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」により実施している「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 三の丸からプロジェクト」の支援も行った。



音声AR裏会津チラシ

9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア. 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会の解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和3年度は震災遺産に主体的に関わる災害分野を新設し学芸員2名を配置した。災害分野2名加えて、民俗1名、考古1名、歴史1名、自然1名、美術1名の計7名の学芸員で業務を担当し、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、特集展の実施を行った。

イ. 震災遺産の調査・保全

震災遺産にかかわる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめた。未整資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ収めるなどした。また課題である収蔵場所として第5収蔵庫や第二収蔵庫の整理を進めた。

前年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけ今後も継続する予定としている。収集した資料には博物館に届いた展示会の中止案内などの便りや、学芸員個人の生活の中で使用したマスクや、消毒用アルコール、アマビエ関係のものなどがある。

ウ. 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体

が異なるミュージアムと連携し震災遺構に関する勉強会を実施した。

また、特集展に関連する講座の実施にあたっては、会津教育事務所から助言等を頂き、学校での授業展開についても意見交換することができた。会津自然の家とは、社会教育課が所管するふくしまキッズパワーアップ事業等で防災教育を通じた協働体制を取ることができた。

例年協力体制をとってきた筑波大学との海外視察は、次年度以降へ延期となった。

エ. 普及事業

ゲストティーチャー13回、講師派遣9回と前年度よりさらに申し込みが増加した。ふくしまキッズパワーアップ事業の実施によるところもあるが、地域社会のニーズとマッチしたものと考えている。また今年度の特集展は特に、育みたい児童・生徒の姿を示しながら学校の授業で使える内容の提案を行った。関連したイベントでも急遽オンライン開催としたが、学校関係者を中心として、授業で使える内容としたワークショップを実施した。

会津自然の家と連携した取り組みでは、防災教育の必要性を伝えるシンポジウムの企画など協働することができた。

大学からの要請もあり、福島県立医科大学、福島大学、東北大学、龍谷大学などで、震災遺産の伝承について共に考える講座を行った。



冬の特集展「そなえの芽」

10. 新たな博物館の役割・機能の創出

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成23年3月の東日本大震災に伴う活動

平成23年3月11日に起きた東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した文化財・自然資料のレスキュー・保全作業を、福島県被災文化財等救援本部（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）に参画して実施してきた。今年度は会議1回（11月22日）が行われ、本部設置期間の変更（延長）など設置要綱の一部改定がなされた。これまでの活動をまとめた報告書の作成は次年度へ持ち越しとなった。

当館が新規で関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

イ. その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。

8月6日には「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」及び「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議がオンラインで開催された。

(2) ポリフォニックミュージアム

ア. 事業趣旨

ICOM京都大会で提案された「過去と未来についての批判的な対話のための民主化を促す包摂的で様々な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）」を各地に創出するための試みとして、ライフミュージアムネットワーク実行委員会がこれまで培ってきたネットワークを基盤として、ポリフォニックミュージアムを起ち上げた。

令和3年度は各地域固有の歴史文化の再認識・再発見と、そこから立ち上がる課題への向き合い方の考察、その先にある未来像の創出を通して、ミュージアム的な場を多様に展開することにより、持続可能な地域社会への貢献を目指した。

イ. 組織

1. 主催：ライフミュージアムネットワーク
実行委員会
2. 構成団体：只見町ブナセンター
はじまりの美術館
一般社団法人未来の準備室
東北芸術工科大学美術館大学
センター
NPO法人アーツセンターあ
きた
福島県立博物館
3. 委員長：鈴木晶（福島県立博物館長）
4. 事務局：福島県立博物館

ウ. 実施期間

1. 実施期間：
令和3年4月1日～令和4年3月31日
2. プロジェクト活動期間：
令和3年5月13日～令和4年3月31日

エ. 助成

文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

オ. 事業内容

多世代でまちを歩き撮影した写真でスゴロクを作ることでまちを知るアートワークショップ「白河まち歩きフォトスゴロクを作ろう!」、食を通して地域の歴史や文化に触れるアートワークショップ「海幸山幸の道」、奥会津の自然と共にある暮らしを学び持続可能な社会について考えるアートワークショップ「つくること つかうこと」、博物館が誰でもが安心して自己表現できる場所になるための試みとして支援学校等と連携して行ったアートワークショップ「博物館部」、各テーマに基づき対話と学びを深めるラウンドテーブル7回を実施し、記録集（『ポリフォニックミュージアム活動記録集』600部、『福島白河バージョン まち歩きフォトスゴロクノート』600部、「海幸山幸の道」記録紙600部、『ヤベアベ学級との12月』600部、『スペース・トアル 虹色の子どもたちと』600部）を作成した。



アートワークショップ
「白河まち歩きフォトスゴロクを作ろう！」



アートワークショップ「博物館部」



アートワークショップ「海幸山幸の道」



ラウンドテーブル「開くミュージアム」



アートワークショップ「つくること つかうこと」

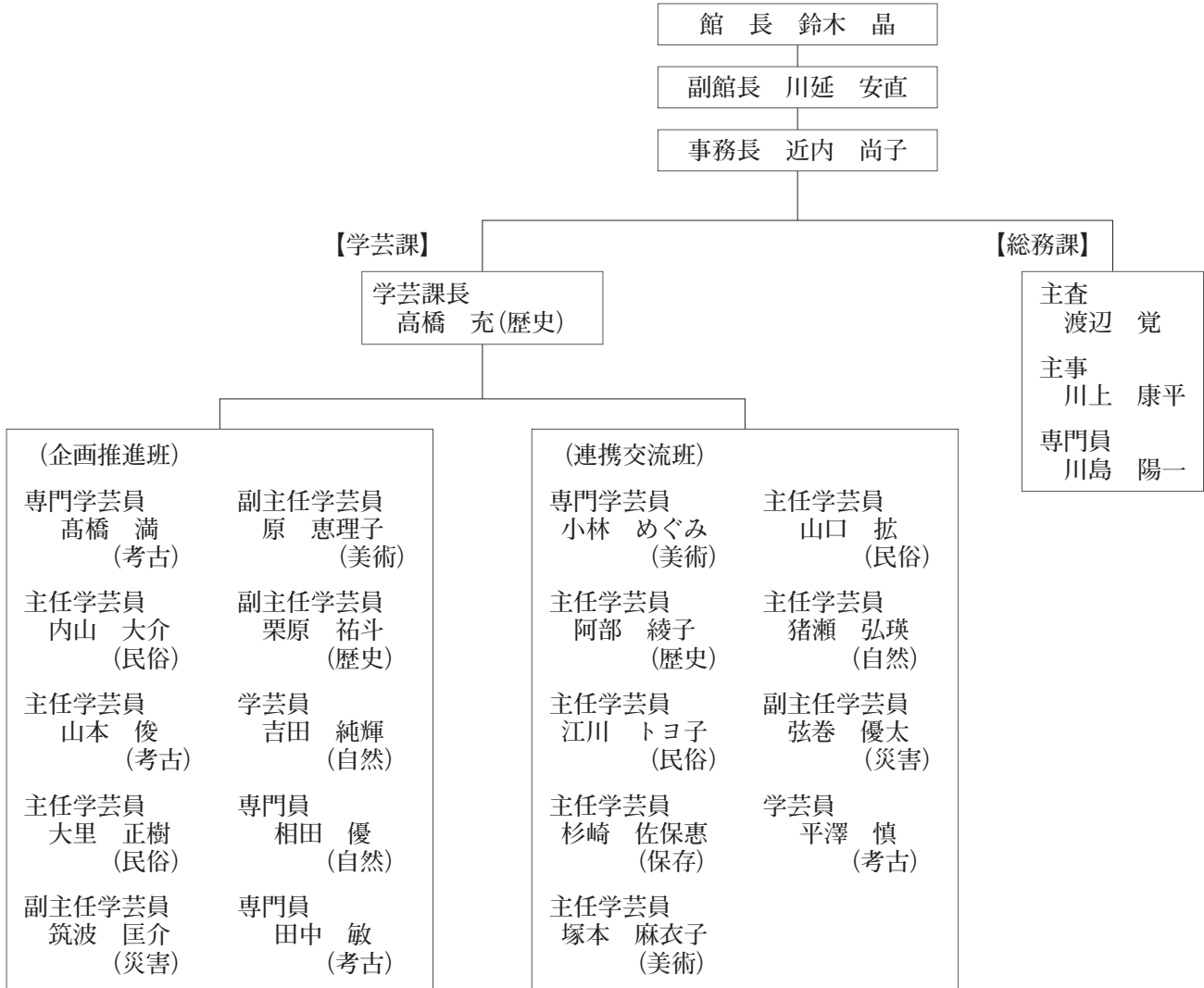
II 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(令和3年5月1日現在)

管理運営



会計年度任用職員 (定数外)

- ・ 展示解説員 13名
- ・ 資料整理員 2名
- ・ 事務補助員 1名

会計年度任用職員名簿

職名	氏名
展示解説員	渡部 知香
	岩崎 萌
	穴澤 由美子
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生
	日下部 順子
	和田 光
三浦 裕子	

職名	氏名
展示解説員	湯田 守
	小原 由起
	山村 葵
	遠藤 彩楓
	荒井 奈津姫 (R3.6.1~11.28)
資料整理員	長澤 宏子
	小川 敦子
臨時事務補助員	佐藤 祥 (R3.9.1~R4.3.31)
	鈴木 ゆみ子

2. 予 算

令和3年度は、下表のとおり予算を執行した。

令和3年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				19,004
	使 用 料			19,004
		行政財産使用料		396
			建 物 使 用 料	396
		教育使用料		18,608
			博 物 館 使 用 料	18,608
財 産 収 入				2,580
	財産売払収入			2,580
		物品売払収入		2,580
			その他物品売払代金	2,580
諸 収 入				589
	雑 入			589
		雑 入		589
			雑 入	589
合 計				22,173

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
教 育 費				393,300
	教育総務費			4,175
		事務局費		4,175
			報 酬	1,310
			職 員 手 当 等	277
			職員手当等(児童手当等)	1,065
			共 済 費	1,502
			旅 費	21
	社会教育費			389,125
		博物館費		389,125
			報 酬	24,139
			職 員 手 当 等	5,059
			共 済 費	4,681
			報 償 費	1,129
			旅 費	3,292
			需 用 費	44,717
			需用費(食糧費)	5
			役 務 費	10,531
			委 託 料	151,970
			使用料及び賃借料	1,775
			工 事 請 負 費	141,110
			備 品 購 入 費	592
			負担金、補助及び交付金	61
			公 課 費	64
合 計				393,300

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

福島県立博物館運営協議会条例に基づき、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	高橋 由江	会津美里町立新鶴中学校長
	齊藤 恵子	福島県立郡山支援学校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館副館長
	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
家庭教育	滝澤 玲子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員
学識経験者	川口 立喜	公立大学法人会津大学 グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
	四家 久央	合名会社四家酒造店代表社員
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	書道家
公募	町田 久次	公募委員

イ. 会議

第1回 令和3年7月28日（水）

議題

- ①令和2年度博物館入館者数について
- ②令和3年度当初予算について
- ③令和3年度事業計画について
- ④企画展・特集展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」及び「三の丸からプロジェクト」について
- ⑦ポリフォニックミュージアムについて
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和4年2月22日（火）

議題

- ①令和4年度事業計画（案）について
- ②文化観光拠点施設機能強化事業（三の丸からプロジェクト）について
- ③館内施設の視察

Ⅲ 利用状況

1. 入館者統計

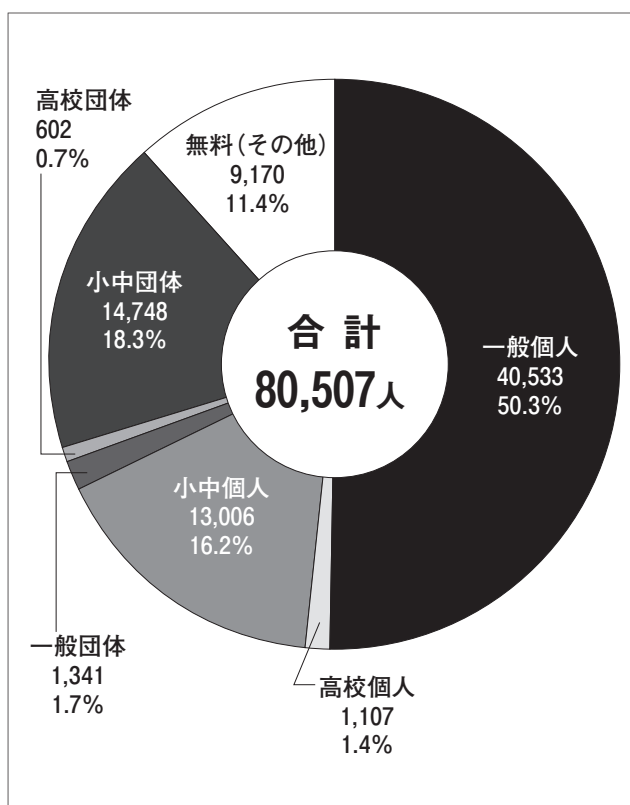
(1) 令和3年度入館者統計

月別区分別入館者数

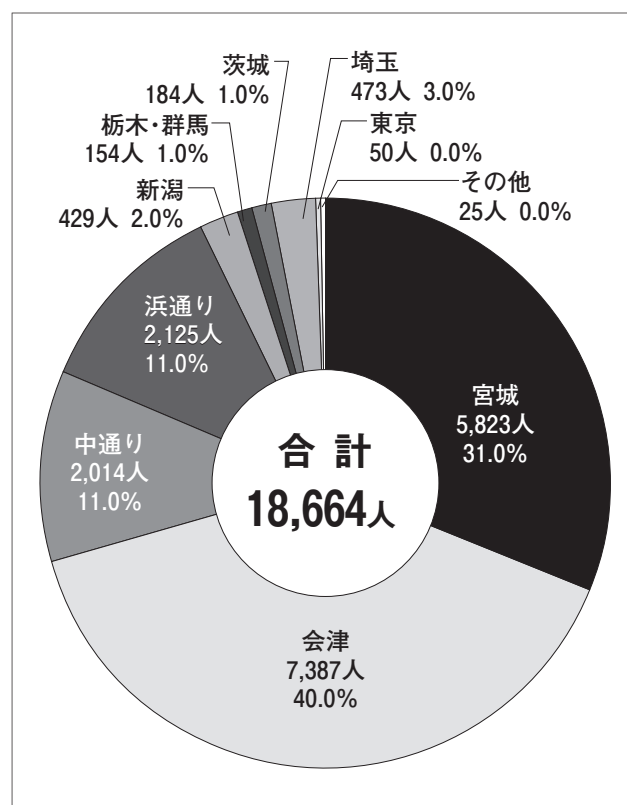
月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料	無料		日数	有料	無料	日数	人数	
		人数	小中高校生	その他		人数	人数			
			人数	人数						
4	26	1,109	695	343	6	221	225	26	2,593	3.2%
5	26	882	169	215	26	579	183	26	2,028	2.5%
6	25	882	3,160	435	24	686	768	25	5,931	7.4%
7	27	3,397	1,863	743	13	2,790	1,479	27	10,272	12.8%
8	27	5,306	1,542	1,210	27	5,080	2,481	27	15,619	19.4%
9	26	3,952	1,569	1,161	23	3,914	1,741	26	12,337	15.3%
10	27	1,672	5,336	859	20	1,063	1,986	27	10,916	13.6%
11	25	1,715	5,093	910	25	1,127	2,310	25	11,155	13.9%
12	22	923	967	314	17	616	428	22	3,248	4.0%
1	23	602	217	473	0	0	0	23	1,292	1.6%
2	23	826	570	1,205	0	0	0	23	2,601	3.2%
3	27	1,086	298	1,131	0	0	0	27	2,515	3.1%
合計	304	22,352	21,479	8,999	181	16,076	11,601	304	80,507	100.0%

※特集展人数は小中高生、その他の区別をしていないため、按分のうえ常設展（無料）に計上

令和3年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

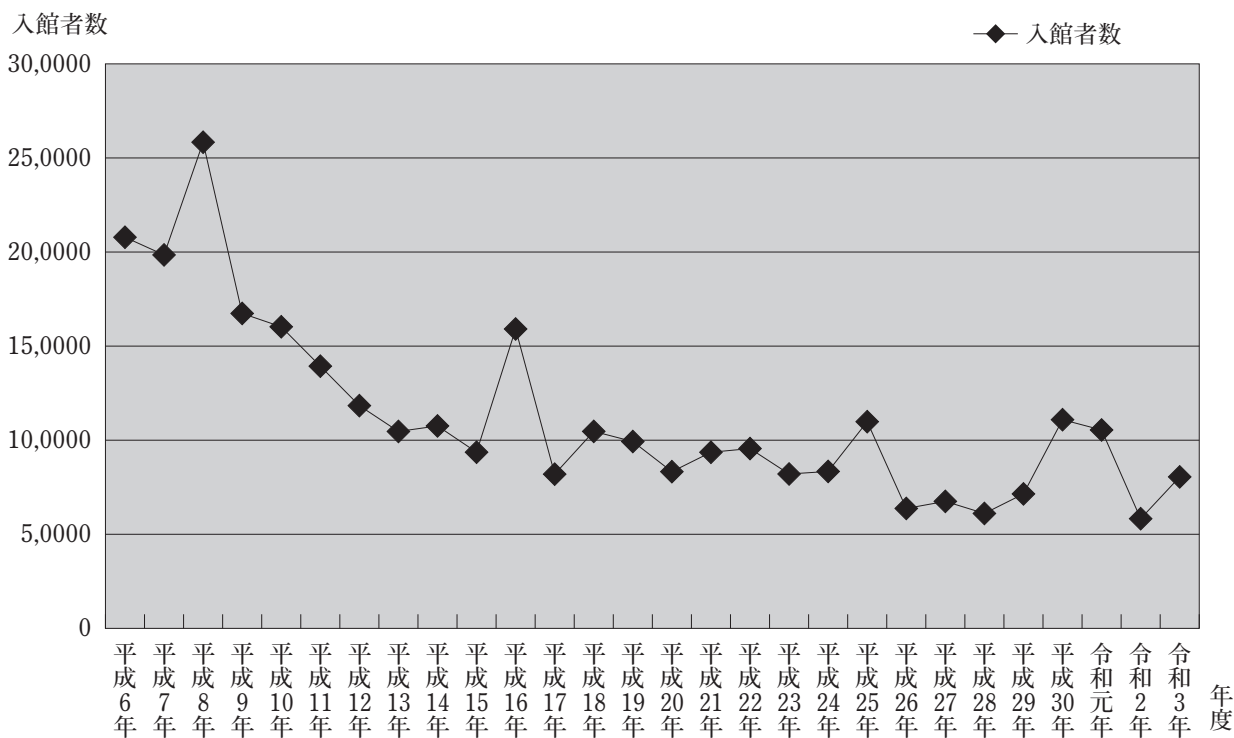
（単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
昭和61年														133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,582	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827
2年	551	609	2,546	2,232	8,162	13,219	12,748	10,096	875	1,346	2,277	3,623	58,284	283	206	4,857	4,864,111
3年	2,593	2,028	5,931	10,272	15,619	12,337	10,916	11,155	3,248	1,292	2,601	2,515	80,507	304	265	6,709	4,944,618
平均	10,845	23,641	16,226	11,428	18,268	15,085	17,213	12,159	3,071	2,634	4,979	4,453	137,351	297	468	11,730	

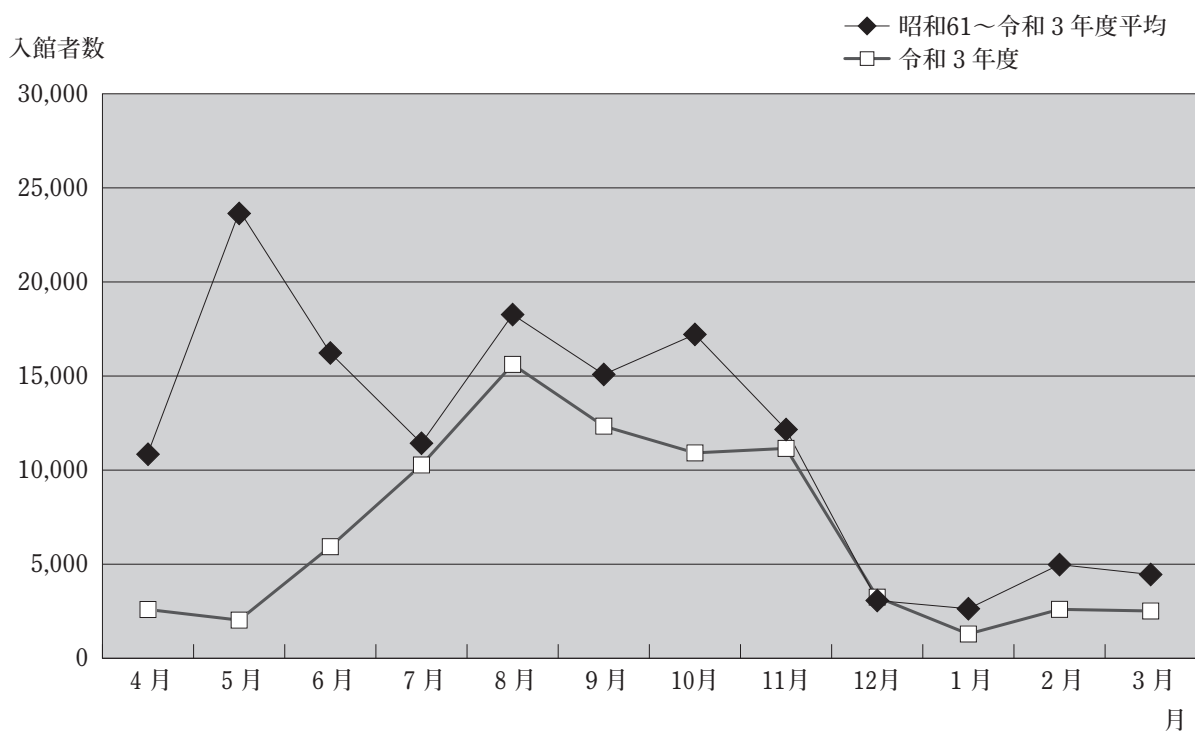
入館者の推移グラフ（年度別月別）

利用
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鋳物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鋳山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
9	縄文たんけん	9. 4.19～9. 6. 8	43日	5,282人	1,164人	23,052人	29,498人
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川將軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく!化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39日	6,077人	27人	489人	985人	7,578人
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17~25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決！恐竜展	25. 7.27~25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5~25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・暮らし	26. 4.19~26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19~26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1~26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2~27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18~27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10~27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23~28. 6.12	45	2,254	14	201	486	2,955
29	自然をうつす	29. 4.29~29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15~29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7~29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13~30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠のふるさと会津	30. 4.28~30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美しき刃たち	30. 7.13~30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊辰戦争150年	30. 9. 1~30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日本のわざと美	30.10.27~30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどすぎすなつなごるみらい	31. 4.27~元. 6. 9	39	1,138	44	2,920	608	4,710
	興福寺と会津	元. 7. 6~元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あにまるず	元. 9. 7~元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		141	40,575	742	8,736	4,576	54,629
2	ふくしまの旅	2. 4.29~ 2. 6.28	38	1,031	14	85	201	1,331
	会津のSAMURAI文化	2. 8. 1~ 2. 9.22	47	4,581	109	1,037	1,053	6,780
	発掘された日本列島2020	2.10.10~ 2.11.15	32	4,063	169	882	1,042	6,156
	震災遺産を考える	3. 1.16~ 3. 3.21	54	2,364	49	462	390	3,265
	計		171	12,039	341	2,466	2,686	17,532
3	会津の絵画	3. 4.24~ 3. 6.27	56	1,486	55	607	514	2,662
	あはひのクニ あやかしのクニ	3. 7.17~ 3. 9.26	63	11,784	362	3,281	2,058	17,485
	ふくしま 藁の文化	3.10. 9~ 3.12.19	62	2,806	112	3,567	1,045	7,530
	計		181	16,076	529	7,455	3,617	27,677

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生区分は中学生・高校生、小・中学生区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1,200
ふくしまの顔	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	500
陸奥の古瓦	400	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	1,200
鉱物の世界	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	800
縄文の四季	500	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	1,500
まちの成立とにぎわい	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
亜欧堂田善とその系譜	1,000	4	5	6	0	0	2	0	0	0	1	0	1	19	11,500
太古の生きものたち	500	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
日本の音色	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
縄文絵巻	800	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	5	4,000
浜通りの仏像	500	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	1,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	3,200
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1,000
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	2,100
定信と文晁	1,000	3	6	9	0	0	2	1	1	0	0	1	1	24	15,000
明治はじめて物語	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	500
稲とくらし	800	0	0	0	0	0	1	20	33	23	0	0	0	77	31,200
東北からの弥生文化	800	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
会津の自然史	800	0	0	0	0	0	0	0	12	0	2	4	0	18	12,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	6	3	7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	18	11,800
げんき・病・元気	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村芝居の世界	900	0	0	0	0	0	1	7	6	3	0	0	0	17	8,900
探検具化石ワールド	800	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	0	15	6,400
海のまくあけ	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	800
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いにしえの木匠	600	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	4	2,400
福島の山岳信仰	800	4	0	0	1	0	2	16	26	15	0	0	2	66	30,000
地震・火山・津波	500	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1,000
近代子どもの世界	900	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	3,600
縄文たんけん	900	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4	3,600
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染める	600	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3	1,800
遠澤と探幽	1,300	3	1	14	0	0	1	0	2	0	0	0	0	21	16,500
日本の美	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷河時代	700	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	700
新弥生紀行	1,100	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,100
生の中の死	900	0	0	0	2	3	1	29	20	16	0	0	0	71	37,900
豊かなる世界へ	600	0	0	0	0	0	1	17	17	17	0	0	0	52	15,900
集古十種	1,100	1	0	0	0	0	2	0	1	0	1	2	1	8	8,800
海獣パレオパラドキシア	600	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	8	2,700
英雄たちの系譜	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	500
食と考古学	500	1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	2	7	3,500
肖像にみる福島を築いた人々	900	4	8	9	1	0	2	0	0	0	0	0	0	24	13,600
武者たちが通る	400	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	1,200
発掘ふくしま3	600	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1,200
笑いの想像力	1,000	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	0	5	5,000
老い	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1,000
婚禮	800	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1,600
馬と人との年代記	800	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1,600
布の声をきく	700	0	0	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	5	3,500
樹と竹	600	0	0	1	0	0	0	24	27	22	0	0	0	74	22,500
わくわく！化石大集合	400	1	0	0	1	0	2	1	0	0	2	9	0	16	4,200

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
遠藤香村	800	4	16	11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	32	13,200
岡本太郎の博物館	500	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	500
千少庵と蒲生氏郷	250	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	500
漆のチカラ	400	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	800
保科正之の時代	500	1	0	0	1	10	6	5	4	2	2	4	7	42	21,000
恐竜時代のふくしま	500	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	5	0	10	5,000
会津の寺宝	1,000	2	0	1	0	0	2	1	1	1	1	0	1	10	10,000
八重の桜	2,000	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	6,000
対決!恐竜展ガイドブック	300	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	600
考古学からの挑戦	900	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	5	4,500
アイヌの工芸	1,000	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0	0	0	6	6,000
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1,000
被災地からの考古学1	200	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	800
相馬中村藩の人びと	700	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	4	2,800
大須賀清光の屏風絵と番付	700	7	7	13	0	0	2	0	0	0	0	2	0	31	13,900
自然をうつす	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふくしま5億年の自然史	600	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	6	0	13	7,800
発掘ふくしま4	900	1	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	2	7	6,300
山水憧憬	1,000	2	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5,500
匠のふるさと会津	800	0	0	0	1	0	4	18	22	15	1	0	0	61	26,800
日本のわざと美	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あにまるず	500	5	1	2	2	3	6	0	2	0	2	1	1	25	12,500
ふくしまの旅	800	1	0	0	0	1	3	0	3	0	0	2	2	12	9,600
震災遺産を考える	800	11	6	26	2	4	5	2	4	2	0	9	14	85	68,000
会津の絵画	800	28	58	83	12	7	3	1	6	2	6	2	2	210	168,000
あはいのクニ あやかしのクニ	1,000	0	0	0	316	478	494	12	4	0	0	0	0	1,304	1,304,000
ふくしま 薫の文化	500	0	0	0	0	0	0	146	249	103	7	2	6	513	256,500
博物館学習指導の手引き(小)	700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島 の 古 墳	1,200	0	0	1	1	1	4	2	2	0	1	0	1	13	15,600
図説 戦時下の福島	800	1	1	1	1	1	0	1	2	0	0	1	1	10	8,000
図説 福島県の化石	1,500	2	1	0	0	0	3	0	0		0	0	0	6	9,000
福島 の 年 中 行 事	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふくしまの農具	1,000	0	0	0	0	0	0	0	3		0	0	0	3	3,000
福島の仏像(仏像図説)	1,300	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	5	6,500
遠藤香村クリアファイル	200	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	600
絵葉書	50	12	12	12	1	6	7	6	24	11	0	0	0	91	4,550
一筆箋	350	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	2	7	2,450
齋藤清絵はがきセット	350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
体験学習材料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津の絵画クリアファイル	200	11	9	13	3	4	6	1	0	2	0	1	1	51	10,200
会津の絵画一筆箋	500	3	4	13	12	4	1	0	0	2	2	0	1	42	21,000
会津の絵画絵はがき	50	22	53	68	15	28	4	7	0	4	1	3	3	208	10,400
じみふかいセット	2,000	5	9	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	58,000
天の絹糸	1,300	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2,600
匠のふるさと会津12月受(長野市長用)	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	400
勾玉ガラスセット	200										0	31	8	39	7,800
報告書(数量)		13	7	9	8	8	19	7	21	9	1	3	17	122	
報告書(金額)		15,300	9,100	10,300	6,700	8,200	16,900	4,600	17,400	11,000	1,200	2,900	17,700		121,300
紀要(数量)		11	2	0	4	1	15	3	10	1	2	1	2	52	
紀要(金額)		9,100	1,400	0	5,100	900	13,200	2,200	7,460	1,500	1,500	1,000	1,400		44,760
合計		188	214	325	392	568	639	333	526	257	36	123	89	3,690	2,579,560

※割引販売等の関係で、単価×販売数と合計金額は一致しない。

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成25年条例第119号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成28年条例第53号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年条例第46号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年条例第48号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和2年条例第25号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額（同一人が 有効期間内に利用する場合）
	個人	団体		
一般（大学生を含む。）	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号）

（休館日）

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
 - 3 1月1日から同月4日まで
 - 4 12月28日から同月31日まで
- 2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（開館時間）

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧手続）

第3条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

- 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第1号の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して1年とする。
 - 2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。
 - 3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

（観覧料の免除及びその手続）

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。

（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
 - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。（令2教委規則8・旧附則・一部改正）
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を1年に加算した期間を同項の有効期間とする。（令2教委規則8・追加）

附 則（昭和63年教委規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年教委規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年教委規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成30年教育委員会規則第7号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第8号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館
-------------------------------------------	-------------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）
（表）

年間観覧券 福島県立博物館

（裏）

(交付番号)	(観覧者の区分)
(有 効 期 間)	
御利用に際して	
1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
(氏 名)	
(学 校 名) (学 年)	
福島県立博物館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名
観覧料免除申請書

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職		氏名	
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり承認してほしい。				第 年 月 日
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

観覧料免除承認書

福島県立博物館長

印

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名
観覧料返還申請書

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	額
		人	円	
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり返還してほしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・ ・	決裁月日	・ ・	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職	務
主幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。	
事務長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。	
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。	
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。	
副主任主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。	
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。	
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。	

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第5号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
 - （1）展示計画原案の作成
 - （2）展示計画作成のための基礎的資料の収集
 - （3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
- ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
- ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
- ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。

2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。

3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。

- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名(各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

- 2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)
- 11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1 階 9,980.45㎡ 2 階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
内部仕上げ	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ(総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井(講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ(第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張(第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
工期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

施設の概要

2. 設備

電気設備

1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz
変圧器容量(業務用) 1575KVA
(冬季用) 400KVA
2. 非常用電源 発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz
400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ
AH-PE200AH86セル
3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同
視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸
等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放
送設備、I T V監視設備
4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

空調設備

1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコ
イル ユニット方式
2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス
焚鉄鉄セクションボイラー(396.00Kcal/H)
水冷式チーリングユニット(120RT)

衛生設備

1. 給水 市水道 受水槽：50㎡
2. 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消火設備
の併用、(屋外)野外消火栓

昇降機設備

油圧式エレベーター定格荷重：3 t 1基 油圧
式リフト 定格荷重：2 t 1基

融雪設備

ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・
ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪
感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組
み合わせにより自動運転または手動運転。

監視設備

分散形総合監理制御システムにより、受電設
備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・
庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

電話設備

電子交換外線3回線 内線64回線

火災報知設備

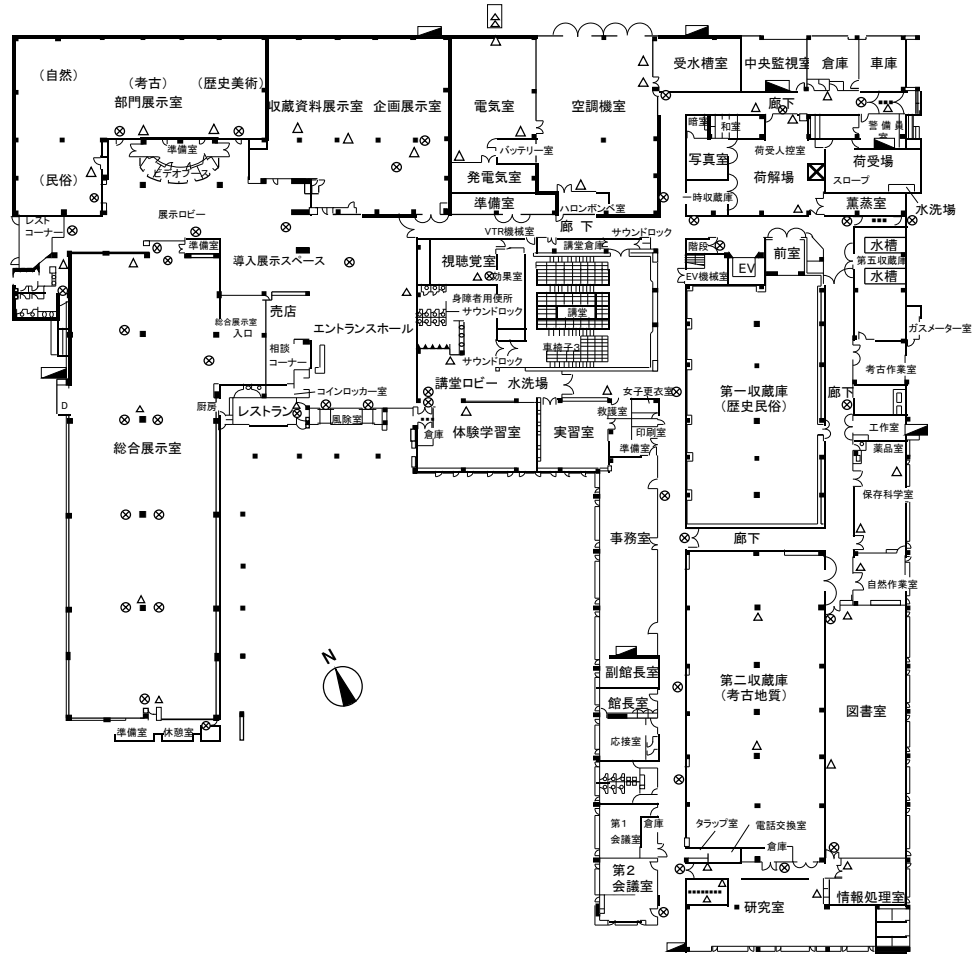
受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排
煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、
排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表
示

防犯設備

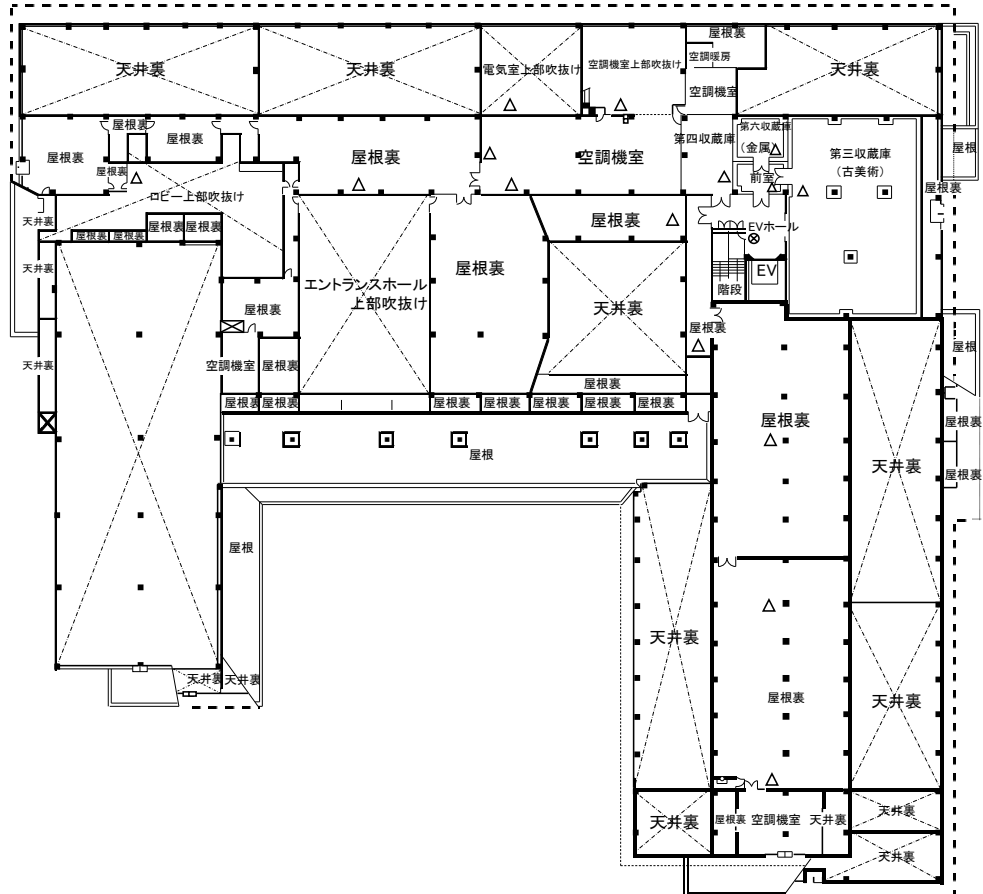
電波センサー・電子サイン・I T Vを必要箇所に
設置し、監視制御システムと併用

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



施設の概要

各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.0		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
歴史作業室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(展示)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3.23）
平成19年 2月21日	ウォッシュレット取付け工事（～3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3.29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4.25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10.15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29.3.10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12.27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～30.12.14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～30.9.27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～30.11.1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2.1.9）
令和 2年11月11日	非常放送設備更新工事（～3.3.5）
令和 2年11月17日	点字ブロック改修工事（～3.3.30）
令和 3年 9月 1日	空調自動制御機器更新工事（～4.3.30）
令和 3年 9月15日	構内情報通信網設備工事（～3.11.16）
令和 3年11月 2日	キャッシュレス決済用LAN配線工事（～3.12.1）
令和 3年11月24日	防火扉修繕工事（～4.3.4）

5. 沿革

《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成2年	10月7日	入館者100万人達成
平成4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年	4月1日	展示解説員22名となる
平成7年	5月5日	入館者200万人達成
平成8年	10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年	3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	高橋富雄館長退任
	4月1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年	5月6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月	福島県立博物館の使命を策定し公表

- 平成19年 7月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
- 平成20年 7月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
- 平成22年 6月26日 県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
- 平成23年 3月11日 宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
- 平成24年 5月15日 「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
- 平成25年 5月17日 2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日 「博物館ニュース」創刊から400号達成
- 平成27年 5月 2日 福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」を共催
- 平成28年10月15日 博物館開館30周年記念式典を開催
開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
- 平成29年 3月26日 福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
- 令和元年10月12日 令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
- 令和 2年 3月19日 赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
3月31日 赤坂憲雄館長退任
4月 1日 鈴木晶が県立博物館長に就任
4月21日 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館開始
5月16日 臨時休館から再開館
11月18日 当館と共同申請者が策定、申請した「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」が文化庁より認定を受ける。
「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を開始する。

VI 利用案内

●開館時間

午前 9 時30分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生280円（220円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）
一般・大学生1,500円

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。

★展示室以外の入館は無料。

●常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／8月21日（県民の日）／9月20日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

●交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第36号

令和5年3月31日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市町北町大字始字深町67-2

TEL (0242) 32-2366

この年報の本文は再生紙を使用しています。

